

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
「平成27事業年度に係る業務の実績に関する報告書」
添付資料集

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
平成27事業年度に係る業務の実績に関する報告書 添付資料集

目次

項目	ページ
研究所の概要	1
平成27年度実績報告書に用いたデータ集	
1 受託研究利用者アンケート調査結果	8
2 行政支援に係る現地指導、モニタリング及び行政依頼検 体分析	9
3 緊急時への対応事例	11
4 環境保全への取組支援	13
5 環境農林水産分野の技術支援(その他)	15
6 農業大学校運営実績	18
7 情報発信ツール一覧	19
8 セミナー・講習会・イベント	22
9 報道提供一覧	27
10 新聞掲載・テレビ、ラジオ放送	30
11 法人職員が参加した学会・シンポジウム等及び公設試験研究機関等ネットワーク	33
12 調査研究関係業務一覧	35
13 学術論文及び学会発表等一覧	40
14 重点研究分野への取組	47
15 新たな研究分野への取組	57
16 研究活力向上支援事業採択課題	73
17 外部研究資金応募実績	74
18 行政評価	77
19 平成28年度に実施する行政依頼事項	79
20 研究アドバイザー委員会による研究課題評価	81
21 法人が参画するコンソーシアム一覧	82
22 知的財産保有状況	84
23 法人職員が受講した研修	86
24 目的積立金使途計画及び実績	88
25 法人が有する資源の有効活用事例	89
26 講師派遣実績	91
27 委員・役員等派遣実績	96

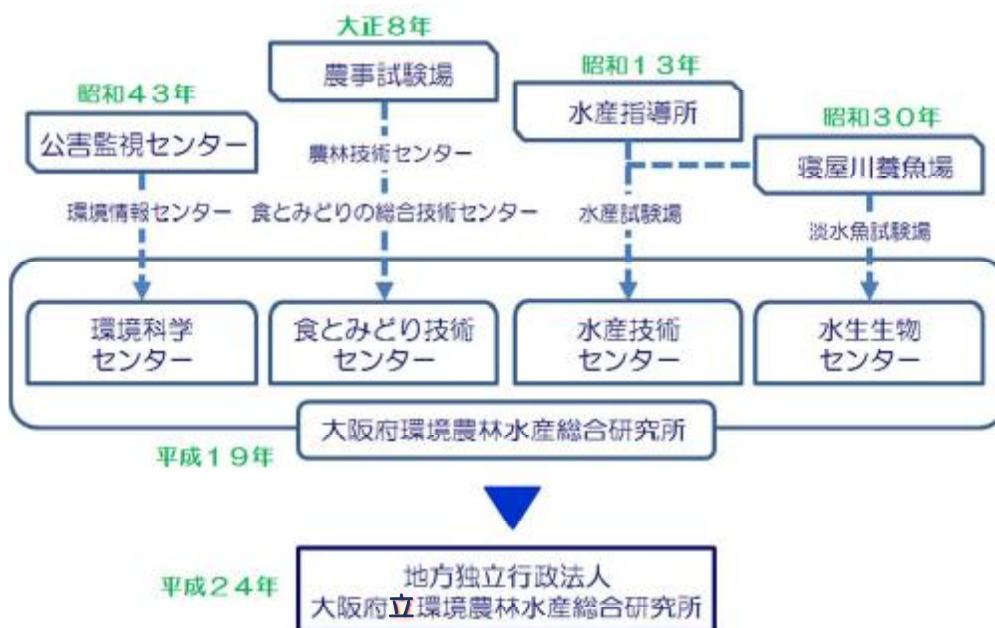
研 究 所 概 要

研究所の概要

(1) 法人沿革・役員・施設・組織・要員・予算

① 沿革

- 平成19年 「環境情報センター」、「食とみどりの総合技術センター」、「水産試験場」を統合し、「大阪府環境農林水産総合研究所」として発足した。
- 平成24年 地方独立行政法人化し、「地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所」として発足した。



② 役員

理事長1名、副理事長1名、理事1名（以上常勤）、監事2名（非常勤）

理事長	大河内 基夫
副理事長	山本 達也
理事	草薙 勝之
監事（弁護士）	黒田 清行
監事（公認会計士）	三谷 英彰

③施設

食とみどり技術センター、環境科学センター、水産技術センター、水生生物センターの4サイトで運営している。本部は、食とみどり技術センターに置いている。

(平成27年4月1日現在)

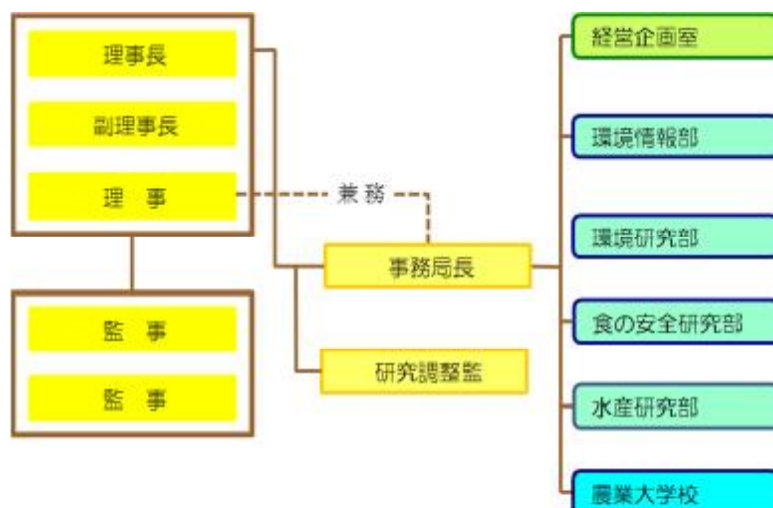
	敷地面積	建物面積(延床面積)	役職員数
本部・食とみどり技術C	245,913㎡	23,464㎡	111名
環境科学C	2,078㎡	5,240㎡	28名
水産技術C	8,585㎡	6,769㎡	14名
水生生物C	23,477㎡	920㎡	8名
総計	280,053㎡	36,393㎡	161名

※監事2名(非常勤)を除く。



④組織

役員、監事、本部(経営企画室)、4部(環境情報部、環境研究部、食の安全研究部、水産研究部)、及び農業大学校から構成されている。



⑤要員

独立行政法人化後は、法人採用職員、任期付職員、契約職員及び府派遣職員の雇用形態をとり、研究職、研究補助職、事務職、技術職、技能労務職の職種がある。平成 27 年 4 月 1 日付の役職員数は 161 名である。

人員体制(平成 27 年 4 月 1 日)

合計	役員	監事	パーマネント					任期付職員	契約職員	
			研究職	研究補助職	技術職	技能労務職	事務職	研究職	甲種	乙種
163	3	2	52	4	34	6	16	3	14	29

※契約職員甲種は、府における再任用（週 3 日勤務）。契約職員乙種は通常勤務形態

人員配置

		平成 24 年 3 月 31 日	平成 27 年 4 月 1 日	
職種		府職員	法人職員	府派遣職員
役員 監事	所長	1		
	理事長		1	
	副理事長			1
	理事			1
	監事		2	
通常雇用 職員	研究職	49	52	
	研究補助職		4	
	技術職	41	9	25
	事務職	13	15	1
	技能労務職	17		6
	再任用	27		
任期付職 員	研究職		3	
	事務職			
契約職員	甲種(府退職者)		14	
	乙種(法人採用)		29	
			129	34
		148(定数 141)	163(定数 139)	

⑥予算

平成27年度予算

区分	金額（単位：百万円）
収入	
運営費交付金	1,975
施設整備補助金	615
自己収入	176
財産売払収入	19
農業大学校収入	7
依頼試験手数料収入	2
受託研究収入	122
その他収入	26
目的積立金取崩	58
計	2,824
支出	
業務費	470
研究経費	348
受託研究経費	122
一般管理費	292
人件費	1,447
施設整備補助金	615
計	2,824

※計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

※運営費交付金は一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金については、予算編成過程において決定される。

⑦建替え計画

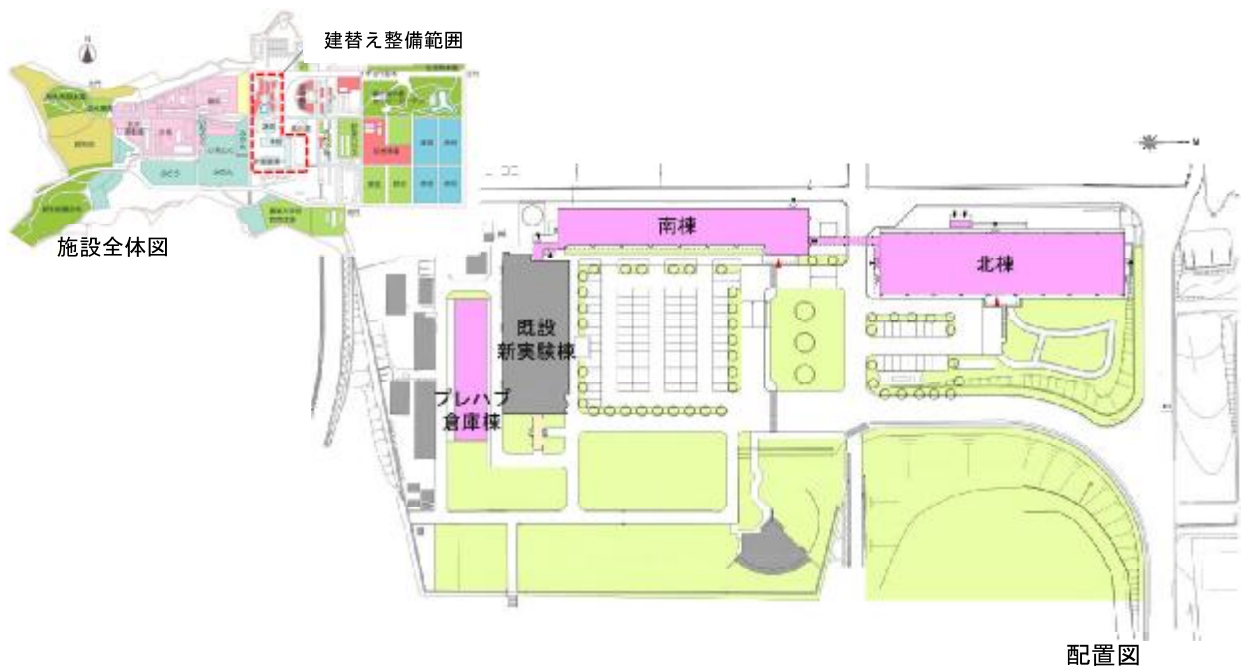
■食とみどり技術センター

老朽化や耐震性に関する安全性の問題から、環境科学センターを羽曳野に移転し、研究所（食とみどり技術センター）一か所に集約する計画。

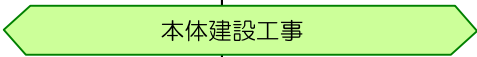

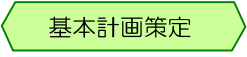

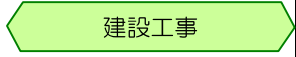
■水生生物センター

老朽化および耐震性に関する安全性の問題があり、来館者の安全を確保し、淀川水系をはじめとする地域の生物多様性保全に係る機能などを維持するため、建替え整備を計画。

	食とみどり技術センターに集約		水生生物センター
	食とみどり技術センター (本館・別館)	環境科学センター	
所在地	羽曳野市尺度 442	大阪市東成区中道1丁目 3-6-2	寝屋川市木屋元町 10-4
建設年度	昭和 38 年(築 52 年)	昭和 43 年(築 47 年)	昭和 39 年(築 51 年)
敷地面積	245,913 m ² (公簿面積)	2,078 m ²	23,477 m ² (公簿面積)
延床面積 (対象施設)	本館： 約 3,960 m ² 別館： 約 1,440 m ² 旧実験棟：約 675 m ²	5,240 m ²	本館： 約 300 m ² 実験棟：約 95 m ² 研修室：約 45 m ²
建替後面積	延床面積 約 5,365 m ² (RC造) (+プレハブ棟約 440 m ² (鉄骨造))		延床面積 約 314 m ²



スケジュール

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
食とみどり技術センター	●入札 ●契約 	●供用開始 	
水生生物センター	●入札 ●契約 		

(2) 調査研究課題

①行政依頼課題の選定

府民・事業者の要望・問題点を解決するために大阪府環境農林水産部が立案した政策・事業・施策に必要な技術支援を課題化（目的・目標の吟味）して、府から法人に受け渡す会議体として、「大阪府環境農林水産試験研究推進会議」を設けている。推進会議は別表のようにテーマ毎に部会を持ち運営している。

大阪府環境農林水産試験研究推進会議メンバー

会長	環境農林水産部長
副会長	環境農林水産部環境政策監 環境農林水産部次長、環境農林水産総務課長、エネルギー政策課長、みどり・都市環境室長、循環型社会推進室長、環境管理室長、農政室長、流通対策室長、水産課長、動物愛護畜産課長
	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所理事長

各部会

所管室・課	研究部会
環境農林水産総務課、関係所管室・課	総合部会（分野横断課題）
エネルギー政策課、みどり・都市環境室	みどり・都市環境部会
循環型社会推進室、環境管理室	環境部会
農政室、流通対策室	農政・食品部会
水産課	水産部会
動物愛護畜産課、家畜保健衛生所	畜産・野生動物部会
各農と緑の総合事務所	

②調査研究課題の評価

a. 行政依頼課題

推進会議で依頼された課題と大阪府から委託を受けた事業及び運営交付金によって実施されている事業については、行政による評価を受ける（４段階評価）。

b. 競争的研究資金

競争的研究資金等外部資金の実施事業及び応募課題については、外部有識者から構成される「研究アドバイザー委員会」において評価を受ける（４段階評価）。

c. 民間受託研究

民間から受ける受託研究については、報告書提出後に依頼者（クライアント）に対してアンケートを実施し、その点数をもって評価としている（５段階評価）

研究アドバイザー委員（平成 27 年度）

氏名	所属・役職
荒井 修亮	国立大学法人京都大学 フィールド科学教育研究センター
池 道彦	国立大学法人大阪大学 大学院工学研究科
大塚 耕司	公立大学法人大阪府立大学 大学院工学研究科 教授
尾崎 嘉彦	近畿大学 生物理工学部食品安全工学科 教授
切畑 光統	公立大学法人大阪府立大学 地域連携研究機構 BNCT 研究センター 特認教授
久保 浩三	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構産官学連携推進部門長・教授
小谷 祐一	国立研究開発法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所所長
水町 功子	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター企画管理部長
鳥居 厚志	国立研究開発法人森林総合研究所 関西支所 地域研究監
吉田 敏臣（特別顧問）	国立大学法人大阪大学 名誉教授

平成 27 年度実績報告書
に用いたデータ集

1 受託研究利用者アンケート調査結果(実績報告書4、22ページ)

5段階評価 5；満足、4；やや満足、3；標準的である、2；やや不満、1；不満

受託研究例及び利用者アンケート	問1	問2	問3	問4	問5	問6
	職員態度	契約手続	報告書の提出時期	報告書 分かり易さ	報告内容 水準	総合評価
クライアントA	5	4	4	4	5	4
クライアントB	5	4	5	4	4	5
クライアントC	4	3	3	3	4	4
クライアントD	5	5	5	5	5	5
クライアントE	5	3	5	5	4	4
クライアントF	5	5	2	4	5	4
クライアントG	5	5	2	3	3	3
クライアントH	5	5	2	4	4	5
クライアントI	5	3	3	5	3	5
クライアントJ	5	5	5	5	5	5
クライアントK	5	5	4	5	5	5
クライアントL	5	5	4	5	5	5
クライアントM	5	5	5	5	4	5
クライアントN	5	5	4	5	4	5
クライアントO	5	3	3	3	2	3
クライアントP	5	3	2	4	3	5
クライアントQ	5	4	5	4	4	4
平均値	4.9	4.2	3.7	4.3	4.1	4.5

※アンケート未回答 3件

2 行政支援に係る現地指導、モニタリング及び行政依頼検体分析 (実績報告書 6ページ)

・現地指導

	内容・回数等	場所・回数等
1	ため池養殖業者への魚病・外来種対策巡回指導と魚病検査用個体の採取	泉佐野市、岸和田市、東大阪市、八尾市 1回
2	釣り堀事業者への巡回魚病指導	千早赤阪村、河内長野市 1回
3	野菜、花き等の土壌に係る障害事例についての技術指導	研究所内及び現地ほ場・21回
4	獣害に係る指導(市町村鳥獣害防止対策事業の評価など)	5回
5	ヒツジ飼育による府民協働河川環境づくりに係る飼養管理の指導	27回
6	魚類へい死事故時の現地確認	枚方市 1回
7	イチジク栽培技術指導	藤井寺市 2回
8	ブドウ休眠枝接ぎ木、新梢管理、剪定等技術指導	太子町 7回
9	メイタガレイ巡回指導	4回
10	田辺ダイコン採種作業の指導	研究所内 1回
11	天王寺カブ栽培指導	研究所内 1回
12	伝統野菜越年栽培の指導	河南町 3回

・モニタリング調査

	名称	内容・回数等
1	微小粒子状物質(PM2.5)成分分析	3地点、年4季×14日、64項目
2	有害大気汚染物質モニタリング調査	7地点、月1回、21項目
3	酸性沈着物質調査	9地点、年2回
4	シカ・イノシシのモニタリング調査	出猟カレンダーほか計5項目
5	アライグマのモニタリング調査	捕獲個体データ解析ほか計3項目
6	大阪湾環境モニタリング調査	水質、プランクトン等調査(45回)
7	大阪湾・淀川貝毒プランクトンモニタリング調査	貝毒プランクトン等調査(54回)
8	漁業資源モニタリング調査	99回
9	漁業権河川(芥川)の環境及び生物モニタリング調査	3地点において春・秋の年2回

・行政依頼検体分析

	事例	回数・検体数など
1	ダイオキシン類の環境基準超過河川における原因特定及び汚染範囲確定の調査・分析	42検体
2	千里川におけるヒ素の継続監視分析	14検体
3	工場等からの排ガス中のVOC等分析	9検体
4	廃棄物焼却炉等の排ガス及び排水中のダイオキシン類分析	排ガス:2検体、排水:5検体
5	ごみ焼却施設等からの燃えがら・ばいじん中のダイオキシン類分析	22検体
6	自然海浜保全地区の水質検査(窒素、リン等)	10検体
7	ゴルフ場排水の農薬検査	20検体
8	河川・地下水の有機フッ素化合物分析	5検体
9	流通飼料の肉骨粉の水分測定	6検体
10	養豚場浄化槽排水の分析	7検体
11	府内酪農家の臭気測定	9検体
12	府内畜産農家が生産した堆肥の分析	18検体
13	農空間整備事業に係るため池・農業用水路の水質分析	60検体

14	建築解体工事等に伴うアスベスト緊急分析	大気:33件130検体、建材:2件3検体
15	異常水質に伴う原因究明調査	水質:1件1検体
16	異常水質等、魚類へい死事故発生時の魚病検査、魚種判別	検査1件19検体、現地確認1件
17	エコ農産物および直売所農産物の残留農薬分析	56検体
18	登録申請のあった肥料の分析	4検体
19	水稲玄米品質・成分分析(農政室)	49検体
20	水稲玄米品質・成分分析(北部農の普及課)	6検体
21	ブドウウイルス検査	7検体
22	河川水質詳細把握調査	12検体
23	廃棄物処理に係る緊急時の対応	7検体

3 緊急時への対応事例（実績報告書 7ページ）

（1）建材中アスベストの迅速分析

①調査の概要

解体工事等で発生したアスベストを含む建材等の廃棄物の不適正な処理から、府民の健康を守るため、迅速分析を行い、大阪府の規制指導をサポートする。

②業務の具体的内容

偏光顕微鏡を用いて廃棄物から採取した試料中の偏光に対する光学的特性（多色性、複屈折、伸長性、屈折率）を観察することでアスベストの含有を搬入日当日で判断する。

偏光顕微鏡によって観測できる繊維の光学的性質
> 多色性 > 複屈折 > 消光角
> 伸長性 > 屈折率(分散染色)

鉱物が偏光に対し特有の光学的性質を示すことを利用し、その特徴からアスベストの含有の有無と種類を調べる。

（例）不適正保管産業廃棄物の迅速分析

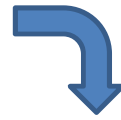


スレート材

大阪府が現場立入



廃棄物を研究所に搬入



下図に示す光学的性質からクリソタイルを含有することが判明。

多色性



クリソタイルの多色性(変化なし)

伸長性



クリソタイルの伸長性(正)

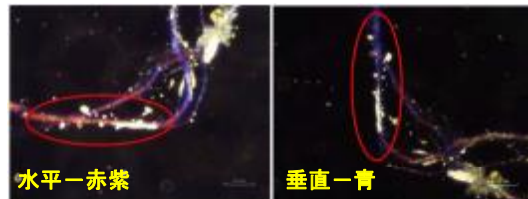
複屈折



45° の位置で
干渉色(白)

90° の位置で
消光

屈折率(分散染色)



水平-赤紫

垂直-青

③実施期間

通年

④業務実施結果の概要

建材について3検体の分析を実施し、2検体でアスベストの含有を確認した。1検体ではアスベストの含有が認められなかった。

⑤今後に向けた研究所の考え方

今後も同様の事例が発生した際は、大阪府に協力し、速やかに分析を実施する。

(2) 河川における異常水質の原因究明調査

①発生した緊急事象の概要

大阪府域では、例年酸素欠乏や油の流出など河川の異常水質が発生し、魚類のへい死等が起こっている。原因不明の案件が多いが、繰り返し発生しているケースもあり、原因究明及び再発防止・未然防止の方策の確立が求められている。



魚類の大量へい死

②業務の具体的内容

異常水質が発生し、付近住民等から市町村等を通じて大阪府に連絡があると、大阪府事業所指導課が緊急で現場に出動し、採水した水を環境科学センターに、回収したへい死魚は水生生物センターに搬入する。搬入後は直ちに原因究明のために、pHやシアン等の有害物質等の分析、コイヘルペスウイルス病をはじめとする魚病の検査を行い、その結果を事業所指導課、水産課に報告する。

③実施期間

通年

④業務実施結果の概要

平成27年度に発生した異常水質のうち、1件の水質分析、1件のへい死魚検査の依頼があった。

水質分析については、男里川上流で実施されている河川工事の影響を考え、水素イオン濃度、総アルカリ度、カルシウムおよびその化合物について行った。公共用水域の常時監視結果と比較して著しく高い値とはいえなかったため、原因は特定されなかった。

⑤今後に向けた研究所の考え方

魚類へい死事故発生時の現地調査マニュアル（改訂版）の作成とともに、新しい原因究明手法等の知見の収集を行う。

4 環境保全への取組支援(実績報告書 8ページ)

(1) 省エネ・省CO2・相談窓口

【調査研究の目的と平成 27 年度目標】

(目的)

大阪府域全体の温室効果ガス排出量の4分の1を占める中小事業者の省エネルギーの取組みを支援することにより、温暖化対策を推進することを目的とする。

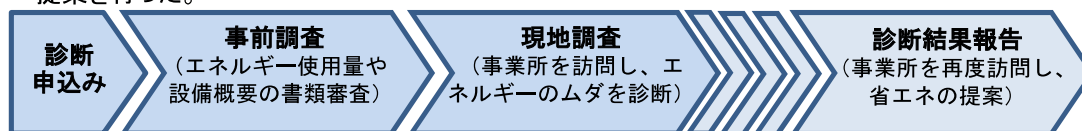
(目標)

- ①中小事業者の省エネ等対策の個々の事業内容に応じた支援
- ②業界団体・市町村と連携した省エネ等対策の支援体制の構築
- ③府職員等に対するエネルギー管理に関する研修の実施
- ④省エネ・省CO2・節電対策における効果、コスト等に関する情報の収集・分析・整理

【進捗の概要】

(1) 省エネ診断

- ①事業所の省エネ診断を行い、設備等の運用管理等における省エネ・省CO2・節電対策について提案を行った。



診断報告書作成



書類とヒアリングによる調査



設備の運転管理状況の調査



計測の実施

省エネ診断フロー

- ②環境省の「CO2削減ポテンシャル診断事業」に参画し、事業所の省エネ診断を実施。
- ③大阪府商工会連合会と連携し、12商工会4商工会議所の会員事業所の省エネ診断を実施。
(総診断件数:53件(年度目標件数:40件))

(2) 業界団体、市町村と連携した中小事業者の省エネ対策の推進

- ①大阪府・大阪市(おおさかスマートエネルギーセンター)、大阪商工会議所と省エネ・省CO2セミナーを共催。(開催:2回、参加者合計:189人)
- ②業界団体等の要望に応じて講演。(講演:2回)
- ③大阪府商工会連合会の経営指導員向けセミナーで講演。

(3) ホームページによる情報発信と普及啓発

(4) 府職員等に対する研修

- ①府内市町村エネルギー・温暖化対策担当職員を対象に、省エネについて講義した。
- ②府職員を対象とする環境行政基礎技術研修において、省エネ等について講義した。
- ③省エネ診断への同行による現場研修を実施した。(2回)



省エネ・省CO2セミナーの開催風景

(2) 環境技術評価・普及事業(おおさかエコテック)

【調査研究の目的とH27年度目標】

(目的) 大阪発の優れた環境技術の普及を通じて環境保全を推進する。

(H27 目標)①技術評価

大阪の中小・ベンチャー企業が開発した環境技術・製品の技術評価し、高い技術評価を受けたものを「おおさかエコテック」技術・製品として選定する。

②普及支援

「おおさかエコテック」選定技術・製品について、様々な広報媒体を通じて普及を支援する。

【進捗の概要】

① 技術評価

平成 27 年度は、6件の申請があり、6件すべてがおおさかエコテック技術・製品に選定された。このうち4件は、特に優れた技術・製品「ゴールド・エコテック」の評価を受けた。

② 普及支援

i. 展示会出展

平成 27 年度は、「びわ湖環境ビジネスメッセ 2015」「エコプロダクツ 2015」など展示会3件に出展し、おおさかエコテック選定技術・製品の開発企業に技術・製品を展示する機会を提供した。商談件数 45 件(うち成約済は 15 件)



びわ湖環境ビジネスメッセの出展風景

ii. セミナー開催

平成 27 年度は、「中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー」など2回のセミナーを開催し、おおさかエコテック選定技術・製品の開発企業に発表機会を提供した。また、おおさかエコテック選定技術・製品の発表にあたっては、難解なものであっても少しでも一般の人々にとって理解しやすくなるよう企業担当者に対して助言した。

iii. メールマガジン・ホームページによる発信

メールマガジン「環境技術情報メール配信サービス」や、当研究所ホームページにおいて、おおさかエコテック選定技術・製品の紹介を行った。

iv. その他

おおさかエコテック選定技術・製品の紹介チラシを制作し、MOBIO や大阪商工会議所等の中小企業支援機関で配布・配架したほか、当研究所環境科学センターの玄関ホールにおいて、ポスター・パネル展示によるおおさかエコテック選定技術・製品の紹介を行った。

5 環境農林水産分野の技術支援(その他)(実績報告書10ページ)

1	動物愛護畜産課からの依頼によりシカ・イノシシのモニタリング調査を実施するとともに、大阪府環境審議会野生生物部会や市町村鳥獣行政担当者会議に出席し、野生鳥獣の生息状況や被害状況に関する情報提供を実施。
2	動物愛護畜産課からの依頼によりアライグマのモニタリング調査を実施するとともに、同結果を大阪府アライグマ対策連絡協議会、アライグマ担当者連絡会議、大阪府アライグマ被害対策検討委員会で報告し、「第3期アライグマ防除計画」の策定を支援。
3	府からの委嘱により委員会等へ参画。 ・環境農林水産総務課依頼： 大阪府環境審議会幹事 ・環境保全課依頼： 大阪府環境影響評価審査会委員 ・みどり推進室依頼： 大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会 ・安威川ダム建設事務所依頼： 林業経営協議会委員 ・大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会委員 など
4	みどり企画課からの依頼により衛星画像を用いた緑被率調査を実施。
5	みどり企画課からの依頼により過去に実施した民間施設に対する緑化支援事業の効果について調査を実施。
6	関西国際空港環境監視機構事務局(政策企画部戦略事業室空港・広域インフラ課)からの依頼により、環境監視結果の検討会に参加。
7	森づくり課からの依頼により流木対策事業施行地における表面侵食の防止に関する調査を実施。
8	安威川ダム建設事務所からの委託により、ダム建設予定の安威川における魚類や河川環境について調査を実施。
9	府内河川漁協、内水面養殖業者が参加する内水面検討会(1回)、府内河川漁協が出席する内水面振興対策推進事業に係る検討会(3回)に出席し、魚類や魚病についての情報を提供。
10	水産課より委託を受け、安威川および余野川の漁業権河川の調査を実施(2河川7地点)し、府の漁業権免許更新に係るデータの蓄積、漁場環境の経時的把握について技術的に支援。
11	水産課からの要請で、ため池の外來種の現状を聞き取り調査するとともに、駆除方法の情報収取を実施。
12	環境保全課からの要請で、河川類型指定の基礎資料として平成24年度以降に水生生物センターが実施した安威川、余野川、淀川、大川、平野川、恩地川、天見川、大和川などの魚類生息状況調査結果の集計を実施し、提供した。大阪府レッドデータブックの絶滅危惧種15種を含む魚類92種の生息を確認。

13	河川室、西大阪治水事務所からの要請で、大川のふれあいの水辺において、地曳調査を春と秋に2回実施。
14	事業所指導課からの要請で、市町村の水質関係担当者向けの魚類斃死時の対応研修を実施。
15	箕面整備事務所からの依頼で箕面森町の希少種保全のための技術支援を実施。
16	花き園芸品評会、養液栽培トマト品評会において表彰者を選定。
17	中部農と緑の総合事務所より要請を受け、デラウェアの早期落葉について巡回指導(2回)および葉の分析を実施。
18	北部農の普及課より要請を受け、クリ枯死に関する現地調査を実施能勢町で発生したクリ立ち枯れ症状について、緊急調査を実施し、土壌の過湿由来と推定し、排水対策等を指導。
19	農政室および中部農の普及課、南河内農の普及課からの要請を受け、大阪版施設園芸新技術普及推進事業【知事重点事業】(H27～H28)における換気装置現地調査を実施。
20	中部農と緑の総合事務所より要請を受け、デラウェアの早期落葉について巡回指導および土壌の分析を実施。
21	南河内農と緑の総合事務所より要請を受け、炭酸ガス施用を実施しているデラウェアハウスの調査および炭酸ガス濃度の測定(3回)を実施。
22	泉州農と緑の総合事務所より要請を受け、クイーンニーナの環状はく皮について情報提供をした。
23	中部農と緑の総合事務所より要請を受け、柏原ブドウ園における病害の調査を実施。
24	南河内農と緑の総合事務所より要請を受け、デラウェア園における土壌分析を実施。
25	南河内農と緑の総合事務所より要請を受け、駒ヶ谷現地ボンタ栽培園における調査を実施。
26	水産課より要請を受け、ノリ、ワカメなどの藻類養殖について巡回指導(5回)と採苗指導(1回)をおこない、併せて藻類養殖情報を発行して養殖漁家に対する技術支援を実施。

27	水産課の委託を受け、大阪湾内に造成された魚類増殖場の効果把握のための調査を2回実施。
28	大阪府漁連が開催する資源管理部会(船引き網部会、底引き網部会、刺し網部会など)での技術指導を実施(17回)。
29	大阪湾環境再生連絡会(事務局:国交省近畿地方整備局)からの依頼により、「市民参加によるモニタリング(大阪湾生き物一斉調査)」、「情報の共有化及び発信(大阪湾環境データベースの更新・発信)」についての検討に参加。

6 農業大学校運営実績（実績報告書 12 ページ）

(1) 養成科コース

① 新入生の志願者・入学者状況

入学年度	志願者数	入学者数(※)	うち女子	充足率(%)	平均年齢
25	34	25(8)	5	100	31.0
26	38	24(7)	6	96	27.0
27	39	25(4)	5	100	23.7

※括弧内は短大、大学、大学院の卒業生数

② 履修時間

1学年 学科 385 時間、実習 585 時間、課外学習・研修 90 時間で合計 1,060 時間

2学年 学科 400 時間、実習 535 時間、課外学習・研修 70 時間で合計 1,005 時間

③ 履修科目

1学年 作物・果樹・野菜・花きなど 11 科目

2学年 農業経営、マーケティング論、農産加工など 16 科目

④ 実習

1学年 農場実習：農大教育ほ場及び各研究部門での技術実習と販売実習

農家実習：先進的な農家である大阪府「農の匠」宅等での農作業

2学年 専攻実習：農大教育ほ場及び当研究所の研究部での卒業論文

⑤ 卒業生の進路状況

卒業年度	入学者数	卒業生数	就農	農業法人等	JA等	農業関連	その他
25	25	19	3(*1)	9(*4)	2	1	4
26	24	22	6(*2)	8(*5)	2	1	5
27	25	23	5(*3)	10(*6)	2	3(*7)	3

* 就農形態 *1: 自営就農 1、新規就農 2 *2: 自営就農 2、新規就農 4 *3: 自営就農 2、新規就農

3 * 雇用就農 *4: 農業法人 5、農の匠等 4、*5: 農業法人 4、農の匠等 4 *6: 農業法人 9、農の匠

1 * 農業関連 *7: 青果物流通・加工販売 1、農薬会社系 1、肥料会社系 1

(2) 短期プロ農家養成コース

コース別の応募状況

年度	25			26			27		
	集中		入門	集中		入門	集中		入門
	野菜	果樹		野菜	果樹		野菜	果樹	
応募者数	37	19	55	33	14	50	21	18	50
受講者数	20	16	53	22	13	47	20	15	50

【備考】 募集定員は野菜 20 名、果樹 15 名、入門 50 名(年 2 回、各 25 名募集)

(3) 無料職業紹介

養成科コースの学生を対象に、農業生産法人やJA等農業関連企業への就職を斡旋

① 農業大学校への募集件数の推移

25年度: 20件 → 26年度: 19件 → 27年度: 28件

② 地方独立行政法人への移行に伴い、厚生労働大臣への届出制から許可制となった無料職業紹介所を開設した。(平成 24 年 9 月 1 日許可)

7 情報発信ツール一覧(実績報告書 11ページ)

1 危機管理情報（光化学スモッグ情報など緊急性が高く、府民の健康や業被害に影響がある情報）

No	名称と情報発信の方法	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	大阪湾赤潮情報 (大阪湾赤潮速報・月別赤 潮発生状況・有害プランク トン情報) <u>ホームページ</u>	プランクトン観測結果(赤潮・有 害)	漁業関係者・一般 府民	速報・有害:月2 ~5回 月別:月1回
2	大阪湾貝毒原因プランク トン情報 <u>ホームページ</u>	プランクトン観測結果(貝毒)	漁業関係者・一般 府民	月2~5回
3	淀川河口域貝毒原因プランク トン情報 <u>FAX、ホームページ</u>	プランクトン観測結果(貝毒)	府関係者・国関係 者、漁業関係者・ 一般府民	8回(4、5月)、 4回(3月)

2 総合情報（研究所本部や各サイトのHP、エコギャラリーや環境プラザなど施設利用サイトも含む）

No	名 称	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	大阪府環境農林水産総合 研究所 <u>ホームページ</u>	研究所の概要、各種お知らせ、研 究成果紹介、栽培技術情報など	一般府民・行政関 係者等	常時(随時更新)
2	環農水研メルマガ (旧 大阪府環境農林水産総 合研究所メールマガジン) <u>Eメール</u>	研究所が実施する事業に関する最 新情報やイベントの案内など	一般府民・行政機 関等 <957>	22回/年
3	環農水研フェイスブック <u>フェイスブック</u>	研究所からの各種お知らせ、研究 成果紹介など	一般府民・行政機 関等	月15回以上
4	環境技術情報メール配信 サービス <u>Eメール</u>	環境技術に関する最新情報や講習 会の案内など	配信登録企業 <1,431>	随時 月2回以上 (年間25回)
5	環境情報プラザ <u>ホームページ</u>	施設概要、貸出資料類の紹介、貸 室空き状況確認、環境学習に関す る情報提供	一般府民・N P O・行政機関等	常時(随時更新)
6	本部・食とみどり技術セン ター <u>ホームページ</u>	施設および研究内容の紹介、イベ ント情報	一般府民・事業 者・行政機関等	常時(随時更新)
7	環境科学センター <u>ホームページ</u>	環境科学センターの概要紹介、各 種環境分析の結果、省エネ・省C O ₂ 相談、環境技術コーディネート 事業など	一般府民・事業 者・行政機関等	常時(随時更新)
8	農業大学校 <u>ホームページ</u>	農業大学校の課程・施設・行事な どの概要紹介、募集案内など	一般府民	常時(随時更新) ・学生募集:8月 ・短期プロ農家養 成コース募集 集中コース:4月 入門コース:6、8 月

9	水産技術センター <u>ホームページ</u>	水産技術センターの概要紹介、大阪湾の生きものの紹介、大阪府の漁業概要、イベント情報等	一般府民・漁業者	常時（随時更新）
10	水生生物センター <u>ホームページ</u>	水生生物センター概要、イベント紹介、府内の水生生物などに関する情報、淡水魚・植物図鑑、淡水魚の病気など	一般府民	常時（随時更新）
11	水産技術センター・メールマガジン <u>Eメール</u>	研究所開催・共催イベント等の情報、貝毒発生状況、HP更新情報等水産技術センターのイベント情報等	一般府民等 <290>	随時（20件）

3 技術普及および技術支援情報（各種公表データのHP等）

No	名 称	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	過去に寄せられたよくある質問 <u>ホームページ</u>	府民から寄せられた代表的な技術相談のQA	一般府民・NPO・行政機関等	常時（随時更新）
2	環境技術コーディネーター事業 <u>ホームページ</u>	在阪企業の環境分野における技術開発を大学や関係機関との連携体制でサポートする事業。	事業者	常時（随時更新）
3	省エネ・省CO ₂ 相談窓口 <u>ホームページ</u>	中小事業者の省エネルギーの取組支援を通じて温暖化対策を推進する相談窓口	事業者	常時（随時更新）
4	大阪府が発注する環境調査・検査業務に係る技術認定制度 <u>ホームページ</u>	大阪府が発注する環境調査・検査業務の適正な履行を確保するため、これらの業務を受託しようとする事業者の技術的適性の認定制度	事業者	常時（随時更新）
5	微小粒子状物質（PM _{2.5} ）成分分析 <u>ホームページ</u>	微小粒子状物質（PM _{2.5} ）の成分分析結果	一般府民	常時（随時更新）
6	ひと目でわかる花と野菜の病害虫(大阪府園芸植物病害虫図鑑) <u>ホームページ</u>	主な農作物の病害虫の診断・防除について	農業者・農協職員・府関係者など	更新予定なし
7	水稲栽培技術情報 <u>ホームページ</u>	新奨励品種情報、水稲栽培の手引き、水稲奨励品種特性表など	農業者・農協職員・府関係者・学校教育関係者など	常時（随時更新）
8	おおさかアグリメール <u>Eメール</u>	大阪府内主要農作物の栽培技術情報、気象情報、市況、各種お知らせなど	農業者・農協職員・府関係者など <1,241>	300回／年
9	緑化技術研修会の案内 <u>ホームページ、Eメール、</u> <u>逡送、報道提供</u>	緑化技術研修 開催案内	緑化担当者(市町村・教育委員会等)・一般府民	随時（年3回）
10	漁況通報 <u>ホームページ、郵送、</u> <u>逡送</u>	主な魚介類の種別漁獲量 主な魚介類の種別漁獲量	漁業関係者・一般府民（郵送・逡送37カ所）	月1回
11	藻類養殖情報 <u>ホームページ、郵送、</u> <u>FAX</u>	ノリ・ワカメ養殖に関する情報	藻類養殖関係者等（郵送は5カ所、FAXは2カ所）	月1回（11～3月）

12	大阪湾水温速報 <u>ホームページ、FAX</u>	水温定置観測結果	漁業関係者・一般府民 (FAXは26カ所)	毎日 (FAXは毎週月曜日)
13	大阪湾全域水温速報 <u>FAX</u>	水温観測結果	漁業関係者26カ所	月2回
14	大阪湾貧酸素水塊分布情報 <u>ホームページ</u>	貧酸素水塊の発生状況モニタリング結果	一般府民・漁業関係者	月2~5回(4~10月)
15	大阪湾カタクチイワシ卵稚仔情報 <u>FAX</u>	カタクチイワシ卵稚仔の採集状況	漁業関係者27カ所	月1回
16	大阪湾シラス情報(速報) <u>FAX</u>	シラス全長組成情報	漁業関係者13カ所	月1~3回
17	大阪湾シラス・イカナゴ新子(しんこ)漁況予報 <u>ホームページ、FAX</u>	シラス漁・イカナゴ漁に関する情報	漁業関係者・一般府民(FAXはイカナゴ38カ所、シラス29ヶ所)	4・6・9・10・1・2月
18	生物・植物図鑑 <u>ホームページ</u>	大阪湾や府内の魚類や水草、両生類、甲殻類、外来種などの情報	一般府民	常時
19	直売切り花技術情報 <u>ホームページ</u>	直売切り花技術マニュアル	農業者、一般府民	常時
20	ハートフル農業への支援 <u>ホームページ</u>	農業の福祉分野への活用に関する研究成果、障がい者を雇用する事業者などの情報	一般府民、事業者、農業者	常時

8 セミナー・講習会・イベント(実績報告書 4、9、12ページ)

※ 実施場所の“食みC”は食とみどり技術センター、“水枝C”は水産技術センターの略、“水生C”は水生生物センターの略

	手法	事業	内容	対象者	実施場所	回数	実施時期	実績報告書ページ			
								その他の 取り組み	講習会・研 究成果 発表	展示会 等への 出展・ 講習会	公開 講座・ セミナー
法人が 主催・ 共催の もの	シンポジウム	環境月間記念シンポジウム	6月の環境月間を記念し、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターとの連携協定と記念講演等	事業者・一般・行政	大阪府立国際会議場	1回	6月18日	1	1		1
	シンポジウム	民間参画シンポジウムin大阪	生物多様性の主流化に向けた事業者の取組の推進をテーマとしたシンポジウム	事業者・一般・行政	大阪府立大学 I-siteなんば	1回	8月27日	2	2		2
	シンポジウム	連携シンポジウム	滋賀県琵琶湖環境科学研究センターとの連携シンポジウム	事業者・一般・行政	コロボしが21	1回	2月11日	3	3		3
	講習等	6次産業化プランナー研修会	制度・大阪農業の現状、農業現場視察	6次産業化プランナー	食みC、富田林市他	2回	6月17日 9月16日	4			4
	講習等	6次産業化実践者研修会	PRシート作成講習会 6次産業化について 商談会を成功させるコツ 商談会を成功させるPRシートの書き方 経営研修会 ワークショップ 経営研修会	農林漁業者、支援事業者	八尾商工会議所 泉南府民C 泉南府民C 堺商工会議所 南河内府民C 食みC 南河内府民C	7回	8月18日 8月25日 1月25日 2月8日 2月8日 2月25日 3月1日	5			5
	講習等	大阪産大商談会研修会	出展者説明研修会	農林漁業者、支援事業者	マイドームおおさか	1回	1月13日	6			6
	講習等	堆肥共助会	堆肥を用いた土作り～色んな有機資材の特徴～	耕種農家 畜産農家	食みC	1回	2月2日	7			7
	講習等	水枝C研究業務成果発表会	H27年度水枝C研究成果に関する発表会	漁業関係者・行政	大阪府漁連	1回	2月9日	8	4		8
	講習等	大阪府大との連携セミナー	大阪産(もん)の加工食品による地域振興	一般、事業者	大阪府立大学 I-siteなんば	1回	2月18日	9			9
	講習等	中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー	・環境技術とおおさかエコテックの選定技術 ・製品のPR	事業者	おおさかATCグリーンエコプラザ	2回	11月13日 2月16日	10			10
	講習等	中小事業者のための省エネ・省CO2セミナー	社員の意識向上の手法、省エネ省CO2方策や先進事例の紹介など	事業者	大阪商工会議所	2回	6月22日 12月1日	11			11
	出展	マッチング交流会	マッチング交流会(中河内) マッチング交流会(南河内) マッチング交流会(泉州)	農林漁業者、食品産業事業者	中河内府民C 富田林市民会館 堺商工会議所	3回	8月25日 9月15日 2月29日	12			12
	出展	はまとまち交流会	パネルや成果品の展示による大阪産(もん)チャレンジ支援事業の取組成果紹介	事業者	大阪新阪急ホテル	1回	11月15日	13			13
	出展	大阪産大商談会	商談会	農林漁業者、食品産業事業者	マイドームおおさか	1回	2月29日	14			14
	講習会	平成28年度大阪産(もん)チャレンジ支援事業説明会	大阪産(もん)チャレンジ支援事業の説明	事業者	大阪産業創造館	1回	12月1日	15			15
対象者に 事業者を 含むもの	講習等	シャイン勉強会	ぶどう試験研究の取り組み状況について	ブドウ生産者	JA太子支店	1回	4月15日	16			1
	講習等	イチジク講習会	最近の気象とイチジク栽培	藤井寺市イチジク研究会 員	JA大阪南道明寺支店	1回	5月18日	17			2
	講習等	イチジク講習会	イチジクの施肥管理について	耕種農家	JA大阪南	1回	5月18日	18			3
	講習等	東三河漁協青年部連絡協議会教育研修事業	大阪湾の漁業、波打ち際再生技術概要等について	東三河漁協青年部連絡協議会	水枝C	1回	6月24日	19			4
	講習等	生活改善普及員講習会	大阪府の6次産業化支援について	全国の普及関係者	食みC	1回	7月3日	20			5
	講習等	掛川市農協	施設見学	生産者	食みC	1回	7月10日	21			6
	講習等	大阪企業のコスト削減計画支援者研修会	省エネ診断の内容について紹介	大阪府内商工会経営指導員	大阪商工会議	1回	7月15日	22			7
	講習等	府主催研修(販路拡大について)	6次産業化実践者相談	農林漁業者、支援事業者	南河内府民C	1回	7月15日	23			8
	講習等	八女農協(福岡県)	研修、施設見学	生産者	食みC	1回	7月22日	24			9
	講習等	NECインターナショナル	施設見学	企業	食みC	1回	7月23日	25			10
	講習等	JA河内伝統野菜協議会	田辺大根の栽培方法について	枚方市など生産者	JA北河内営農センター	1回	8月6日	26			11
	講習等	岸和田4Hクラブ定例会	ニンジン共同圃場の試験について	耕種農家 市役所職員	岸和田市立桜台市民センター	1回	8月20日	27			12
	講習等	平成26年度大阪府施設診断技術者連絡協議会研修会	レンゲ等の緑肥を活用した特別栽培農産物の生産	JA職員	JA大阪センタービル	1回	8月26日	28			13
	講習等	堺市野菜振興会	施設見学	生産者	食みC	1回	9月9日	29			14
	講習等	野菜栽培研修視察	現場で役立つ野菜害虫の診断方法と防除対策	堺市野菜振興会生産者	食みC	1回	9月9日	30			15
	講習等	JA宮崎中央	施設見学	団体(農協職員)	食みC	1回	9月10日	31			16
	講習等	ぶどう(シャインマスカット)栽培技術講習	研究所におけるシャインマスカット試験	耕種農家	大阪府果樹振興会	1回	9月15日	32			17
	講習等	神立種まき講習会	葉ぼたんの種まきについて	耕種農家	中部農の普及課	1回	9月25日	33			18
	講習等	JA大阪南種まき講習会	秋まき切り花の種まきについて	耕種農家	JA大阪南	1回	9月25日	34			19
	講習等	東黒田農事研究会	施設見学	生産者	食みC	1回	10月1日	35			20
	講習等	スーパーアグリアドバイザー養成研修	病害虫防除	JA職員	JA大阪センタービル	1回	11月5日	36			21
	講習等	大阪ぶどうの会	果樹園の土作り	耕種農家	南河内府民センター	1回	11月13日	37			22
	講習等	桑原若手講習会	切り花の鮮度保持	耕種農家	泉州農の普及課	1回	11月13日	38			23
	講習等	イチジク講習会	今年のイチジク栽培を振り返って	藤井寺市イチジク研究会 員	JA大阪南道明寺支店	1回	11月17日	39			24
	講習等	イチジク講習会	イチジクの病害虫防除について	耕種農家	JA大阪南	1回	11月17日	40			25
	講習等	神立ハナモモ講習会	花ももの開花処理と日持ちについて	耕種農家	中部農の普及課	1回	11月17日	41			26
	講習等	シャイン勉強会	ぶどう試験研究の取り組み状況について	ブドウ生産者	JA駒ヶ谷支店	1回	11月27日	42			27

対象者に事業者を含むもの	他機関が主催のもの	講習等	アグリアドバイザー養成研修	病害虫の見分け方について	JA職員	JA大阪センタービル	1回	12月9日	43	28		
		講習等	カンキツ講習会	有望な中晩柑カンキツ品種について	耕種農家	JAIいずみの	1回	1月29日	44	29		
		講習等	カンキツ講習会	有望な中晩柑品種について	和泉市4Hクラブ	JAIいずみの横山支店	1回	1月29日	45	30		
		講習等	大阪環境測定分析事業者協会技術研修会	省エネ診断の内容について紹介	事業者	いであ園大阪支社	1回	2月10日	46	31		
		講習等	富田林4Hクラブ定例会	施設ナスのミニミキイロアザミウマのIPM体系	富田林4Hクラブ員	富田林市役所	1回	2月24日	47	32		
		講習等	いちじく栽培講習会	イチジクの病害虫総合防除対策と新技術について	生産者	富田林市民会館	1回	2月26日	48	33		
		講習等	イチジク講習会	新しいイチジク栽培技術	大阪府果樹振興会イチジク部会会員	富田林市民会館	1回	2月26日	49	34		
		講習等	JAあいち中央研修会	イチジクリフレッシュ剪定について	安城市イチジク生産者	食みC	1回	3月10日	50	35		
		講習等	JA北河内農協	施設見学	生産者	食みC	1回	3月15日	51	36		
		講習等	JA東京南ブドウ研修	ブドウ栽培について	日野市ブドウ生産者	食みC	1回	3月15日	52	37		
		講習等	茨木市農協	施設見学	生産者	食みC	1回	3月22日	53	38		
		講習等	JA紀の里営農指導員研修	イチジク株枯病について	JA営農指導員	食みC	1回	3月31日	54	39		
		出展	司厨士協会関西地方本部および大阪府本部総会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	司厨士	ホテル阪神	1回	6月24日	55	40		
		出展	りそな・ふるさと名物応援フェア	食品の相談コーナーを設置・チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	マイドームおおさか	1回	10月23日	56	41		
		出展	いのちの森パンバザール	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	テラプロジェクトまちらぼ	1回	11月7日	57	42		
		出展	食の商談会「天下の台所」	食品の相談コーナーを設置・チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	大阪産業創造館	1回	11月12日	58	43		
		出展	大阪産(もん)大集合	パネルや成果品の展示による大阪産(もん)チャレンジ支援事業の取組成果紹介、タッチングプールで大阪産(もん)の魚とのふれあいなど。	事業者・一般	万博記念講演お祭り広場	1回	11月28日	59	44		
		出展	府大市大ニューテックフェア2015	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	大阪産業創造館	1回	12月8日	60	45		
		出展	大阪新年互礼会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	行政・事業者	大阪国際会議場	1回	1月4日	61	5	46	
		出展	アグリフードエキスポ2015大阪	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	ATCホール	1回	2月19日	62	47		
出展	堺・泉州の大阪産(もん)マッチング商談会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	堺商工会議所	1回	2月29日	63	48				
出展	信金中央「食の商談会」	食品の相談コーナーを設置・チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	大阪産業創造館	1回	3月3日	64	49				
出展	おおさかATCグリーンエコプラザ常設展示	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	おおさかATCグリーンエコプラザ	2回	・6月1日 ～10月31日 ・11月1日 ～3月31日	65	50				
出展	びわ湖環境ビジネスメッセ2015	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	滋賀県立長浜ドーム	1回	10月21日 ～10月23日	66	51				
出展	アグリビジネス創出フェア	事業者との共同研究成果(牛用腸溶カプセル)の展示	事業者	東京ビックサイト	1回	11月18～20日	67	52				
出展	エコプロダクツ2015	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	東京ビックサイト	1回	12月10日 ～12月12日	68	53				
出展	バリアフリー2015	福祉施設における省エネ事例の紹介	事業者	インテックス大阪	1回	4月16～18日	69	54				
出展	7信金合同・ビジネスマッチングフェア	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	マイドームおおさか	1回	6月3日～4日	70	55				
出展	イノベーション・ジャパン2015	農食事業の成果などの展示	事業者	東京ビックサイト	1回	8月27日～28日	71	56				
対象に行政を含むもの	他機関が主催のもの	講習等	「かけはし」事業統計学勉強会	環境施策の立案・評価・改善等のための統計学の勉強会	環境行政職員	環境情報プラザ	8回	5～2月	6	16		
		講習等	環境行政基礎技術研修	エネルギー・地球温暖化問題とエネルギー管理について、府職員に研修	府職員	大阪府咲洲庁舎	1回	7月14日	7	57		
		講習等	JICA地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム短期研修団	研修・施設見学	団体・行政	食みC	1回	7月29日	8	58		
		講習等	大阪湾生き物一斉調査(アドバイザー会議)	「大阪湾生き物一斉調査(アドバイザー会議)」における講師	一般・行政	大阪市立西区民センター	1回	8月28日	9	59		
		講習等	平成27年度エネルギー・温暖化対策に関する講習会	事業所の省エネのポイントについて	大阪府内市町村職員	大阪府咲洲庁舎	1回	11月24日	10	60		
		講習等	大東市まちづくり部	研修・施設見学	市職員	食みC	1回	11月26日	11	61		
		講習等	大阪湾生き物一斉調査	「大阪湾生き物一斉調査」における一般参加所への講師	一般・行政	天保山 岬町東川河口 せんなん里海公園	1回	6月6日 5月30日 5月16日	12	62		
		報告会	大阪府立環境農林水産総合研究所業務成果報告会	H27年度行政依頼課題の業務成果の報告	府環境農林水産部担当職員・役員	大阪府咲洲庁舎	1回	3月25日	13	63		
		出展	阪南市障がい児(者)スポーツ教室	タッチングプール出展及び講師	一般・行政	阪南市立総合体育館	1回	8月9日	14	64		
		教育者対象	他機関が主催のもの	講習等	大阪府教育センター研修会	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	大阪府教育センター	水生C	1回	10月29日	15	65
講習等	小中学校「理科」指導者養成長期研修			生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	小中学校「理科」指導者	水生C	1回	10月29日	16	66		
講習等	JICA研修生への研修			大阪湾の環境について講習	JICA研修生	水技C	1回	11月2日	17	67		
府民対象など	法人が主催・共催	講習等	家庭園芸セミナー	病害虫、病気対策 秋冬野菜 花づくり 果樹栽培 土壌診断と土づくり	府民	食みC 食みC 食みC すばるホール すばるホール	5回	5月15日 7月17日 9月4日 11月20日 1月15日			17	

法人が主催・共催のもの	講習等	環境科学Cこども環境教室(環境月間行事)	小学生対象。環境に関する講演により暮らしの中で環境問題を考えて行動するヒントを身につける	大阪市立森之宮小学校5年生	環境情報プラザ	1回	6月5日			18
	講習等	水産技術Cのこども体験教室	研究者から大阪湾の魚類について話を聞くとともに稚魚を放流して、栽培漁業について学習。	深日小学校	深日漁港	1回	6月17日			19
	講習等	大阪湾セミナー	「大阪湾の環境と生物を考える。」をテーマとして水産C職員が講演	府民(高校生以上)	咲洲庁舎30階共用会議室	1回	6月21日			20
	講習等	海の教室	海洋観測体験、海岸生物の観察、栽培漁業の体験、地引き網体験。	小中学生・保護者	水産技術C	1回	8月2日			21
	講習等	食とみどりの探検隊	研究所の中を探検し、研究員と一緒に「食」や「農」について学ぶ。	小学生・保護者	食みC	1回	8月19日			22
	講習等	「かけはし」交流エコセミナー	環境活動に関する講義や行政事業等の情報発信を通じて、NPO、事業者、行政の交流を促進	府民・事業者・行政担当者等	環境情報プラザ	1回	9月7日			23
	講習等	イタセンバラとふれあおう	イタセンバラおよび水辺の生物の観察	小中学生・保護者	水生C	1回	10月4日			24
	講習等	魚庭のうみづくり大会	タッチングプール、パネル展示等、研究所業務と大阪湾の魚介類の紹介	一般	岸和田市波切ホール	1回	11月3日			25
	講習等	大阪府大との合同セミナー	共同研究について、大阪湾の環境・漁業について	研究所・大学	水産技術C	1回	1月22日			26
	講習等	森林環境教育(ESD)活動報告・意見交換会	森林における環境教育の実践事例・成果に関する報告・意見交換	環境活動に取組む個人、事業者、行政	近畿中国森林管理局	1回	1月25日			27
	講習等	緑化技術等研修会	市町村職員等を対象に、緑化技術の研修を行う。	府市町村職員等	エルおおさか等	3回	5月18日 9月14日 2月19日			28
	講習等	出前授業「天然記念物イタセンバラを知ろう」	イタセンバラの出張展示と淀川やイタセンバラ、生物多様性に関する講習	小学生	府内小学校2校	2回	10月22日、 10月23日			29
	講習等	「かけはし」事業環境活動カレッジセミナー	環境活動をより活発に効果的に行うための連続講座	環境活動に取組む個人、事業者、行政	環境情報プラザ	2回	2月7、14日			30
	講習等	大川ふれあいの水辺地曳網調査	大川の魚類の採集(地曳網体験)とそれらについての講習	小学生・保護者・府民	大川ふれあいの水辺	2回	4月25日、 10月12日			31
	講習等	田んぼの生きもの教室	水生C実験田んぼでの生物採取や観察と、それらについての講習	小中学生・保護者	水生C	4回	6月20日 7月25日 8月20日 10月10日			32
講習等	環境情報プラザ『わかる！楽しい！みんな環境教室』キッズプログラム	指導員の指示のもと、環境紙芝居やピオトープでの自然体験、ワークショップなどを実施	小学生	環境情報プラザ	10回	7月27,31日 8月5,20,24日 (午前午後の2回開催)			33	
講習等	水生生物センターサポートスタッフ講習会	魚類の調査方法や生態、識別方法等の講習	水生生物センターサポートスタッフ	水生C	3回	9月19日、 10月24日、 12月12日			34	
府民対象など	講習等	緑が丘地区福祉委員会	施設見学	府民	食みC	1回	4月2日			68
	講習等	三友会	施設見学	府民	食みC	1回	4月3日			69
	講習等	すみれクラブ	施設見学	府民	食みC	1回	4月8日			70
	講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	4月10日			71
	講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	4月13日			72
	講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	4月15日			73
	講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	4月21日			74
	講習等	城北わんどイタセンバラ協議会	イタセンバラの生態および城北わんどでの保全の取組み	関係行政担当者	環境省近畿地方環境事務所	1回	4月22日			75
	講習等	白陵中学高等学校生物部研修会	イタセンバラについて	白陵中学高等学校生物部	水生C	1回	5月3日			76
	講習等	大阪府立西浦支援学校	自然観察	児童	食みC	1回	5月13日			77
	講習等	大阪シニア自然カレッジ見学研修	水生Cの業務紹介、施設見学	大阪シニア自然カレッジ	水生C	1回	5月13日			78
	講習等	環境教育授業	ミズアオイの移植とミズアオイに関する講習	寝屋川市立明和小学校	寝屋川市立明和小学校	1回	5月13日			79
	講習等	羽曳野市社会福祉協議会	施設見学	府民	食みC	1回	5月15日			80
	講習等	堺エコロジー大学堺の海再発見	堺エコロジー大学で大阪湾の環境と生物について知識を深める。	一般	堺2区友愛ビーチ 堺市役所等	1回	5月20日			81
	講習等	水辺体験学習	ピオトープ池での水辺体験、水草押し葉作り、施設見学	寝屋川市立立野小学校	水生C	1回	5月21日			82
	講習等	羽曳野市社会福祉協議会	施設見学	府民	食みC	1回	5月22日			83
	講習等	総会	イタセンバラを再び淀川に泳がせよう！ ーイタセンネットの取組みー	バナソニック松愛会大阪市内支部	バナソニック企業年金基金 松心会館	1回	5月23日			84
	講習等	大阪市立自然史博物館学芸ゼミ	「森林植生の群集動態を決定する要因としての大型草食獣シカカシの機能」に関する講演	博物館学芸員・一般市民	大阪市立自然史博物館	1回	5月26日			85
	講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	6月12日			86
	出展	南港エコフェスタ	研究所の環境保全の取組や「かけはし」の紹介、パネル展示など	一般	ATC ITM棟	1回	6月13日			87
	出展	知ろう！学ぼう！大阪南港エコフェスタ	様々な環境行動の体験により環境配慮の取り組みや環境活動参加へのきっかけをもらおう。	一般	大阪南港ATC	1回	6月13日			88
	講習等	千里川水辺体験学習	千里川の生きもの採集とそれらに関する講習	豊中市立豊島北小学校	豊中市千里川	1回	6月17日			89
	講習等	羽曳野市立島泉保育所	施設見学	児童	食みC	1回	6月18日			90
	講習等	ミズアオイ植栽と研修会	里山の生物多様性とミズアオイ	積水ハウスグループ従業員	積水ハウス株式会社 梅田スカイビル	1回	6月18日			91
	講習等	環境アセスメント動物調査手法講演会	イタセンバラの生態と保護	学会会員・一般	大阪府立大学 I-siteなんば	1回	6月27日			92
	講習等	環境学園専門学校研修会	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えようおおさかの生物多様性」イタセンバラについて	環境学園専門学校学生	水生C	1回	6月30日			93
	講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	7月2日			94
	講習等	淀川河口大堰魚道における天然アユ遡上の促進について考える	淀川を遡上するアユについて	一般	淀川管内中央流域センター会議室	1回	7月4日			95
	報告会	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度成果発表会	平成26年度研究助成事業の成果発表	一般(公募)	神戸市ラッセホール	1回	7月9日			96
	講習等	安威川水辺の学校	安威川の生きもの採集とそれらに関する講習	茨木市立山手台小学校	茨木市安威川	1回	7月13日			97

講習等	彩都あさぎ里山公園池ヒン駆除イベント	彩都あさぎ里山公園池のヒン駆除と彩都周辺にすむ水生生物について	一般	彩都あさぎ里山公園池	1回	7月14日			98
講習等	大阪府立唐津高校研修会	淀川に生息する水生生物について	大阪府立唐津高校	淀川流域	1回	7月19日			99
講習等	大阪府立枚方なぎさ高校研修会	淀川にすむ淡水魚イタセンバラの保全活動	大阪府立枚方なぎさ高校	水生C	1回	7月23日			100
講習等	大阪市立旭陽中学校研修会	淀川の自然	大阪市立旭陽中学校	水生C	1回	8月5日			101
講習等	寝屋川市立木屋小学校勉強会	タナゴと二枚貝のつながりについて	寝屋川市立木屋小学校	水生C	1回	8月6日			102
講習等	ねやがわ自然塾	水辺の生物多様性について	ねやがわ自然塾	水生C	1回	8月7日			103
講習等	大和川水生生物観察会	大和川にすむ水生生物の採集と観察およびそれに関する講習	一般、八尾市	大和川わんど、大正コミュニティセンター	1回	8月9日			104
講習等	社会福祉法人智恩福祉会けいあいの舎勉強会	メダカについて	社会福祉法人智恩福祉会けいあいの舎児童	水生C	1回	8月17日			105
講習等	奈良県立磯城稲枝校	研修施設見学	職員	食みC	1回	8月26日			106
講習等	日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会研修会	淀川のワンドの現状とイタセンバラ保全の取組み	学会会員	水生C	1回	8月26日			107
講習等	関西大学高等部2年生	研修施設見学	生徒	食みC	1回	9月10日			108
講習等	奈良学園SSH科学専攻クラス研修	理数系の授業が水技Cの業務を行う上で、どの様に役立つかが理解できる話をし、生徒の理科系への関心を高める	奈良学園高校	水技C	1回	9月10日			109
講習等	関西大学高等部校外学習	食品加工について	高校生	食みC	1回	9月10日			110
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	9月11日			111
講習等	茨木市立彩都西小学校特別授業	小学校のピオトープに生息する生物について	茨木市立彩都西小学校	茨木市立彩都西小学校	1回	9月14日			112
講習等	里海公園環境見学会	大阪府の漁業の講義	小学生	せんなん里海公園	1回	9月15日			113
出展	大漁 いわしとしらすの親子まつり	タッチングプールにより大阪湾の魚介類に対する理解を深めてもらう。	一般	大阪府豊中市網漁業協同組合	1回	10月3日			114
出展	森林(もり)の市	「かけはし」の取組紹介や、登録団体による展示と説明	一般	近畿中国森林管理局	1回	10月4日			115
講習等	安威川水辺の学校	安威川の生きもの採集とそれに関する講習	茨木市立安威小学校	茨木市安威川	1回	10月6日			116
講習等	学校法人奈良学園高等学校	水生Cの業務とイタセンバラの生態について	学校法人奈良学園高等学校	水生C	1回	10月8日			117
出展	海遊館25周年記念シンポジウム	淀川のシンボルフィッシュ・イタセンバラの保全活動について	一般	海遊館	1回	10月11日			118
講習等	山とみどりの市民イベント・フォーラム「人と自然の共生のために・・・箕面の身近な自然を大切にしよう」	「おおさかにすむシカの今：分布と被害の現状」に関する講演	一般	みのお市民活動センター	1回	10月18日			119
講習等	山とみどりの市民イベント生物多様性研究フォーラム	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	一般	みのお市民活動センター	1回	10月18日			120
講習等	特別授業	生物多様性研修プログラム「バイオミクリーさかし」	明和小学校4年生	明和小学校	1回	10月23日			121
出展	深日漁港ふれあいフェスタ	タッチングプールにより大阪湾の魚介類に対する理解を深めてもらう。	一般	深日漁港	1回	10月25日			122
講習等	大阪友の会幼児保育園	施設見学	園児	食みC	1回	10月28日			123
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	10月29日			124
出展	旭区ふれあいひろば	イタセンバラ出張展示	一般	旭区民センター	1回	10月29日			125
出展	「来て見て体験in村野浄水場」	淀川魚類の出展と説明	一般	村野浄水場	1回	11月3日			126
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	11月17日			127
講習等	大阪産業大学研修会	イタセンバラ保全の取組み	学生	大阪産業大学	1回	11月19日			128
出展	大阪産(もん)大集合	パネルや成果品の展示による大阪産(もん)チャレンジ支援事業の取組成果紹介、タッチングプールで大阪産(もん)の魚とのふれあいなど。	一般	万博記念講演お祭り広場	1回	11月28日			129
出展	大阪産(もん)大集合	パネルや成果品の展示による大阪産(もん)チャレンジ支援事業の取組成果紹介、タッチングプールで大阪産(もん)の魚とのふれあいなど。	一般	万博公園広場	1回	11月28日			130
講習等	はびきの市民大学	大和川の魚類	一般	羽曳野市立生活文化情報センター LICはびきの内	1回	11月28日			131
講習等	はびきの市民大学	大阪の淡水魚と食文化	一般	羽曳野市立生活文化情報センター LICはびきの内	1回	11月28日			132
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	12月2日			133
講習等	特別授業	生物多様性研修プログラム「バイオミクリーさかし」	阪南市立西島取小学校5年生	阪南市立西島取小学校	1回	12月4日			134
講習等	大阪府立大手前高校集中セミナー	淀川に天然記念物イタセンバラを泳がせよう！ー生物多様性保全の取組みー	大阪府立大手前高校	水生C	1回	12月10日			135
講習等	カネカ大阪工場社内研修	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	カネカ大阪工場従業員	カネカ大阪工場	1回	12月24日			136
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	1月21日			137
講習等	にじゅうまるOOP2分科会講演	よみがえれ、イタセンバラ！ ～多様な主体が連携した生物多様性保全の取組み～	一般	名古屋大学野依記念学術交流館	1回	2月21日			138
講習等	市民参加型プラットフォームづくりに関するワークショップ	よみがえれ、イタセンバラ！ ～多様な主体が連携した生物多様性保全の取組み～	一般	(一財)自然環境研究センター大会議室	1回	2月27日			139
講習等	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク 生物多様性講座	「大阪のシカの現状～調査結果から見えるもの～」に関する講演	一般	高槻市総合センター	1回	2月27日			140
講習等	近畿大学Feelink研修会	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	近畿大学Feelink	水生C	1回	3月2日			141
講習等	はびきの市民大学	水について考える～私たちの・僕たちの・みんなの水～	一般	LICはびきの	6回	10月24日 11月7日 11月28日 12月19日 1月9日 1月16日			142
講習等	箕面市立彩都の丘学園特別授業	公園ピオトープに生息する生物について	箕面市立彩都の丘学園	彩都なないろ公園 彩都の丘学園	2回	10月9日、2月25日			143
講習等	特別授業	生物多様性研修プログラム「生きものつながり」	吹田市立千里第三小学校・大阪府みどり企画課	吹田市立千里第三小学校	2回	12月7、8日			144

他機関が主催のもの
府民対象など

府民対象など	他機関が主催のもの	講習等	みんなでワカメを育てよう 海と陸のつながりを味わおう	わかめの生態について ノリの生態について 大阪湾の環境について	一般	せんなん里海公園 西島取漁港	3回	2月7日 2月14日 3月6日			145	
		講習等	水辺に親しむ会	淀川左岸用水路の生きものについての講習	水辺に親しむ会	水生C	4回	4月12日、8月12日、10月11日、1月17日			146	
		講習等	大阪府立大学 環境活動演習	環境啓発(環境啓発パネル・環境学習教材の作成、環境テーマ展示)	府立大学学生	府立大学、環境情報プラザ	14回	4月18日～12月5日			147	
		講習等	職業体験研修	総合学習の一環として職場体験を通じた教育の機会を提供する	依頼のあった府内中学校(2校)	水技C	2回	6月10～11日 7月2～3日			148	
		講習等	近鉄文化サロン	大阪府にすむ魚類や水生生物に関する講習	一般	近鉄あべのハルカス	2回	7月26日、8月2日			149	
		講習等	大阪府立大学 国際環境学特論	地方公共団体の環境行政の概要、途上国における環境問題についてグループ討論	府立大学院生	大阪府立大学	2回	7月9日 7月16日			150	

9 報道提供一覧（実績報告書13ページ）

No.	タイトル	報道提供日
1	短期プロ農家養成コース(集中コース:野菜部門、果樹部門)の受講者を募集します	4月14日
2	緑化技術研修会「芝生の管理」を開催します	4月22日
3	経験豊かなスタッフが農林漁業者の6次産業化をサポートします	4月28日
4	第1回家庭園芸セミナー「症状からわかる！家庭菜園の害虫と病気、その対策」を開催します	4月30日
5	水生生物センター「こども体験教室(水辺の生物観察会等)」を開催します	5月19日
6	中小事業者のための「省エネ・省CO2セミナー」を開催します	5月21日
7	「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」が第17回日本水大賞の環境大臣賞を受賞	5月22日
8	大阪湾の環境と生物を考える「第10回大阪湾セミナー」を開催します	5月27日
9	環境月間記念シンポジウム「技術と地域社会が織りなす環境将来像」を開催します	5月27日
10	体験学習プログラム「田んぼの生きもの教室」の参加者を募集します	5月29日
11	環境月間に地元小学校と連携した環境学習を実施します	6月2日
12	小学生対象イベント『わかる！楽しい！みんなで環境教室』を開催します	6月11日
13	農業大学校では平成27年度短期プロ農家養成コース(入門コース)を開催いたします	6月12日
14	20年ぶりにアカガイを放流！	6月15日
15	絶滅危惧種のミズアオイを新梅田シティ「新・里山」へ移植します ～積水ハウスとの“おおさか生物多様性パートナー協定”に基づく取り組み～	6月17日
16	第2回家庭園芸セミナー「秋冬野菜をじょうずにつくる基礎講座」を開催します	6月24日
17	大阪湾でトラフグ稚魚を初めて放流！	6月26日
18	夏休みこども体験「海の教室」を開催します	7月3日
19	夏休みこども体験教室「食とみどりの探検隊」を開催します	7月13日
20	「城北ワンド群で生息域が拡大」淀川でのイタセンパラ野生復帰の取り組み	7月22日
21	企画展「淀川の氾濫(はんらん)と魚たち」を開催します	7月22日
22	地球温暖化が進行した未来の栽培環境を創り出す実験装置が完成ー地球温暖化環境が農作物に及ぼす影響と対策技術を検証ー	7月30日

No.	タイトル	報道提供日
23	第3回家庭園芸セミナー「種まきから始める楽しい花づくり」を開催します	8月6日
24	緑化技術研修会「年間を通じた健全な校庭・園庭芝生の管理～夏芝から冬芝へ～」を開催します	8月16日
25	こども体験教室「イタセンパラとふれあおう」を開催します	9月1日
26	農業大学校では平成27年度短期プロ農家養成コース(第2回入門コース)を開催します	9月7日
27	鉛蓄電池再生サービス「リボンバッテリー」など3技術・製品を大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック」に選定しました	9月7日
28	大阪湾貧酸素水塊分布情報の提供を開始しました	9月11日
29	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック選定技術・製品を[びわ湖環境ビジネスメッセ2015]に出展します	10月6日
30	環境技術セミナー「中小企業のためのBCP策定ガイドと環境・防災技術」を開催します	10月6日
31	小学校へへの出前授業「天然記念物の淡水魚イタセンパラを知ろう」を実施します	10月16日
32	第4回家庭園芸セミナー「果樹栽培の決め手冬場の管理技術」を開催します	10月20日
33	大阪府から環境調査・検査業務を受託しようとする分析事業者に対して技術認定を実施します	10月21日
34	大阪府農業大学校にて2015農業祭を開催します	10月29日
35	「中小事業者のための省エネ・省CO ₂ セミナー」を開催します。	11月4日
36	「大阪産(もん)チャレンジ支援事業」募集が始まります	11月6日
37	平成28年度農業大学校学生を募集します	11月9日
38	第5回家庭園芸セミナー「誰でもできる土壌診断と土づくり」を開催します	12月1日
39	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック選定技術・製品を[エコプロダクツ2015]に出展します	12月3日
40	国内初!「静電場スクリーン」を備えた温室で害虫、病原菌、高温障害から農家を守る	12月18日
41	平成28年度農業大学校学生(一般募集)二次募集を行います	1月13日
42	滋賀・大阪連携シンポジウムの開催について	1月13日
43	環境技術セミナー「温水・蒸気設備の省エネ技術」を開催します	1月14日
44	大阪府立大学連携セミナー「大阪産(もん)の食品加工による地域振興」を開催します	1月18日
45	大阪府が発注する環境調査・検査業務に係る技術認定を実施しました	2月1日
46	大阪産の優れた環境技術「ゴールドエコテック」に3技術・製品を選出しました	2月10日

No.	タイトル	報道提供日
47	今年のイカナゴ資源量はかなり少ないと予測へイカナゴ(しんこ)漁況予報を発表	2月17日
48	コマツと「大阪生物多様性パートナーシップ協定」を締結しました。	3月17日
49	「環農水研シンポジウム～大阪の「食」を支援する取り組みを紹介～を開催」	3月18日
50	特定外来生物アライグマが府内で生息域を拡大しています	3月29日
51	タケの侵入初期の対策が植生回復に効果的～放置竹林化する前に竹の侵入対策をはじめよう～	3月29日
52	平成28年度に「環農水研」が支援する大阪産(もん)を使った商品開発5件が決定	3月30日

10 新聞掲載・テレビ、ラジオ放送（実績報告書 13ページ）

●新聞掲載記事

No.	掲載日	掲載紙	掲載内容
1	5月21日	毎日新聞	体長40センチ「ワニガメ」捕獲
2	5月22日	産経新聞	水辺の生き物触って観察(寝屋川のセンターでイベント)
3	5月31日	大阪日日新聞	環境大臣賞に輝く(淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク)
4	6月4日	産経新聞	環境月間記念シンポジウム「技術と地域社会が織りなす環境将来像」 開催告知記事
5	6月4日	産経新聞	摂津の民家で先月 見つかったカメはワニガメカミツキガメ 問われる正確な種の判断
6	6月9日	日本経済新聞	プロ絶賛大阪・河内鴨のムネ肉(鮮度抜群しかも厚い)
7	6月16日	産経新聞	大阪湾アカガイ放流(18年ぶり、水揚げ増図る)
8	6月17日	毎日新聞	アカガイもっと食卓へ(府、大阪湾に稚貝18年ぶり放流)
9	6月17日	日本経済新聞	アカガイの水揚げ増加を目指して18年ぶりに稚貝を大阪湾に放流した
10	6月17日	読売新聞	大阪湾セミナー(開催告知記事)
11	6月28日	読売新聞	おかえりイタセンパラ
12	7月2日	朝日新聞	トラフグ戻れ稚魚放流 府立研究所が5000匹
13	7月3日	毎日新聞	トラフグ大阪湾にもっと 稚魚放流
14	7月3日	産経新聞	トラフグの稚魚大阪湾へ初放流 府、水揚げ増期待 2年ほど待つという
15	7月9日	読売新聞	大阪湾の環境と漁業 小中生向け来月教室 (海の教室開催告知)
16	7月27日	日本経済新聞	軌跡「魚の庭」大阪湾 ①「なにわの食文化」支える
17	7月29日	日本経済新聞	軌跡「魚の庭」大阪湾 ③稚魚放流・禁漁で資源管理
18	7月30日	産経新聞	◇夏休み子ども体験教室「食とみどりの探検隊」 開催告知
19	7月31日	読売新聞	夏休み子ども体験教室「食とみどりの探検隊」 開催告知
20	7月31日	朝日新聞	◆食とみどりの探検隊 開催告知
21	8月9日	大阪日日新聞	淀川氾濫どう影響 川の生き物「重要な機会」寝屋川で企画展
22	8月18日	日本経済新聞	どうしてポケナスに?つやない水ナス増加 大阪府の研究所、原因探る
23	8月20日	産経新聞	第3回家庭園芸セミナー開催告知記事
24	9月5日	日本経済新聞	「6次化」へ取組多様 品種開発や技術普及
25	9月12日	産経新聞	美しい淡水魚を観察 大阪・寝屋川「幹線水路」
26	9月12日	朝日新聞	関西食百景 ゆっくり育てのアカウ ブランド化へ油の測定
27	9月13日	朝日新聞	岬町の海岸にクジラが漂着
28	9月18日	朝日新聞	体験教室「イタセンパラとふれあおう」 開催告知記事
29	10月7日	朝日新聞	気温と農作物の関連調査へ装置
30	10月11日	大阪日日新聞	温度を調節 環境を再現 温暖化の農作物影響探る
31	10月9日	日本経済新聞	中小企業のためのBCP策定がイタンスと環境・防災技術(セミナーの紹介)
32	12月2日	大阪日日新聞	省エネ対策の事例紹介 大商で中小企業セミナー
33	1月5日	大阪日日新聞	静電気て病害虫阻止(近大、府立環境農水研が温室用網戸:メーカーと協力、実用化へ)
34	1月23日	日本経済新聞	静電気網で害虫被害防ぐ 大阪府立の研究所 農業活用にめど
35	2月12日	京都新聞	「生物多様性最大の危機」大津、シンポで警鐘
36	2月12日	中日新聞	「多様性守り社会強く 大津環境保全考えるシンポ」
37	3月8日	大阪日日新聞	食卓にも春到来 イカナゴ漁解禁

●専門紙掲載記事

No.	掲載日	掲載紙	掲載内容
1	4月3日	日刊工業新聞	大阪環農水研「エコテック」最優秀に中外商工
2	4月21日	日本農業新聞	生きたまま微生物粉末化(大阪府が技術開発)
3	5月17日	日本農業新聞	「農福連携」多角的にサポート(府支援窓口一本化)
4	5月25日	農村ニュース	大阪緑化研で講演「芝生管理について」
5	6月2日	日刊工業新聞	18日に環境シンポ 開催告知記事
6	6月8日	日刊工業新聞	主張(Person)都市農業の活性化「加工業と組み『出口』を見出す」 理事長寄稿記事
7	7月3日	日本農業新聞	堆肥施用11年間の効果実証(続けることが重要)大阪府シュンギク増収確認
8	7月10日	日本農業新聞	なにわの伝統野菜 普及活動など協議
9	7月24日	日本農業新聞	麦茶かす乳酸発酵 嗜好性優れコスト低減 乳牛飼料に 大阪府内で循環
10	7月25日	日本農業新聞	「農福連携」進む大阪
11	8月19日	日本農業新聞	温暖化ハウスで”先回り” 高温障害対策を検討
12	9月11日	全国農業新聞	地球温暖化に備え新装置 ハウス内環境、自動制御し研究
13	9月21日	農村ニュース	大阪緑化研で講演「校庭の芝生管理について」
14	10月8日	日刊工業新聞	大阪発優良環境製品を選定(大阪府立環境農林水産総合研究所)
15	11月12日	日刊工業新聞	あす環境・防災技術セミ(大阪府立環境農林水産総合研究所)
16	12月6日	日本農業新聞	「シャインマスカット」産地づくり本腰
17	1月7日	日刊工業新聞	「静電気で網戸病害虫捕獲」(大阪環農水研、近畿大と完成)
18	1月13日	日刊工業新聞	農と福祉の連携支援 障がい者雇用の企業を誘致
19	1月19日	日刊工業新聞	葉をなでるだけ 害虫駆除の「剣」(園田製作所などが開発)
20	1月24日	日本農業新聞	静電気で侵入防ぐ うどんこ病3分の1 通気性向上夏涼しく 大阪環農研など資料開発
21	2月12日	日本食糧新聞	「大阪産の食品加工による地域振興」で18日セミナー
22	2月17日	日本食糧新聞	大阪産(もん)大集合 大阪府がマッチングイベント 地元産求めるバイヤーで熱気
23	3月1日	日本農業新聞	水なすジャムに注目 堺・泉州の大阪産商談会
24	3月2日	日本食糧新聞	大阪産(もん)で地域振興 大阪府立環境農林水産総合研究所 セミナー開催
25	3月18日	日刊工業新聞	生物多様性保全へ大阪府とパートナー協定 コマツ大阪工場

●テレビ・ラジオ放送

No.	放送日	放送局	番組	内容
1	4月16日	よみうりテレビ	かんさい情報ネットten(夕方ニュース)	タマネギ腐敗臭について
2	4月19日	フジTV	ニュースな晚餐会	カズハゴンドウ
3	5月21日	NHK大阪	ニュースほっと関西	淡水魚の宝庫淀川に新たな命(ヨドセゼラ、イタセンバラ)
4	5月31日	NHK全国	おはよう日本	淡水魚の宝庫淀川繁殖の季節
5	6月18日	よみうりテレビ	ZIP!(まるトクZIP!)	都会の川に高級魚フグ!
6	6月18日	JCOM	ニュース	「新・里山」への積水ハウス社員によるミズアオイ移植
7	7月4日	関西テレビ	胸いっぱいサミット!	大阪都心部(堂島川)の天然ウナギについて
8	7月29日	朝日放送(TV)	おはよう朝日です	「夏の危険な海の生物」研究員生出演で解説

9	7月30日	よみうりテレビ	ZIP！（まるトクZIP！）	夏の淀川にエイリアン出没(ソウギョについて)
10	8月5日	関西テレビ	ゆうがたLIVEワンダー	奈良で水草大発生
11	8月14日	NHK(大阪)	おはよう日本、おはよう関西	農作物への温暖化影響を検証(人工気象栽培装置)
12	8月21日	NHK(大阪)	ニュースほっと関西	温暖化進行で大阪の水ナスは・・・(人工気象栽培装置)
13	8月24日	ABCラジオ	おはようパーソナリティ道上洋三です	日本の海の異変について
14	9月24日	毎日放送(TV)	ちんぷんいづい「石田ジャーナル」	大阪ぶどう王国復活！（ホント紹介）
15	10月8日	ABC	キャスト	大阪湾のスナメリについて
16	10月12日	ABCラジオ	茂山童子の「梅檀代々」	大阪湾の環境や生物を研究する職業人の紹介
17	10月29日	NHK(全国)	あさイチ	[JAPANAビ 大阪・泉佐野]
18	11月3日	よみうりテレビ	ZIP！（まるトクZIP！）	大阪のワタリガニがおいしい理由を説明
19	11月13日	J:COM	ZIPスマタ	BCP策定等環境技術セミナー
20	12月7日	abcラジオ	ドッキリ!ハッキリ!三代沢康司です	思い出遺産「牛と宝くじと幼稚園」(三代沢キャスターの小学生時代の思い出の地(研究所)を訪ねる企画)
21	12月10日	J:COM	関西TODAY	淀川のシンボルフィッシュを守れ！（イタセンパラ）
22	2月16日	J:COM	関西TODAY	大阪府の優れた環境技術「大阪エコテック」に3技術・製品を選定しました
23	3月7日	NHK(大阪)	あさイチ	大阪湾にトラフグを取れるようにしたい！
24	3月24日	NHK(全国)	おはよう日本	全国一の消費地！大阪産のトラフグを
25	3月25日	テレビ大阪	ニュースリアルFRIDAY	貴重映像 関空の海に潜る！フグ、エビ、広がる感動の世界

1 1 法人職員が参加した学会・シンポジウム等及び公設試験研究機関等
ネットワーク(実績報告書14ページ)

		名称						
学 会	1	応用森林学会	11	水産海洋学会	21	日本植物病理学会	31	日本土壌肥料学会
	2	土壌物理学学会	12	大気環境学会	22	日本食品保蔵科学 会	32	日本土壌微生物学会
	3	日本海洋学会	13	日本ペドロロジー学会	23	日本森林学会	33	日本農業教育学会
	4	日本魚類学会	14	日本ベントス学会・日本 プランクトン学会合同大会	24	日本水環境学会	34	日本農作業学会
	5	日本作物学会近畿支 部大会	15	日本防菌防黴学会	25	日本水産学会	35	日本農薬学会
	6	日本農作業学会	16	日本園芸療法学会	26	日本水産増殖学会	36	日本陸水学会
	7	木質炭化学学会	17	日本応用動物昆虫学会	27	日本水処理生物学 会	37	日本哺乳類学会
	8	園芸学会	18	日本貝類学会	28	日本生態学会	38	農業農村工学会
	9	応用動物昆虫学会	19	日本環境動物昆虫学会	29	日本藻類学会	39	農村計画学会
	10	環境微生物系学会合 同大会	20	日本砂丘学会	30	日本畜産学会		
シ ン ポ ジ ウ ム ・ セ ミ ナ ー ・ 研 究 会	1	13th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements			37	バイオ産業研究会		
	2	CRESTシンポジウム 食糧とバイオ材料の品質・生産性の向上を図る樹 木・作物技術：新たな緑の革命、グルタチオン農業の 実現に向けて			38	廃棄物資源循環セミナー		
	3	EBC(Evidence-based Control)研究会シンポジウム			39	隠蔽カタクテイワシの加入量変動帰港の解明に向けた 調査研究の在り方に関する勉強会		
	4	International Conference of Asian Environmental Chemistry			40	フラワーEXPO		
	5	Joint Aquatic Sciences Meeting			41	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会山とみどりの 市民イベント・フォーラム		
	6	The North Pacific Marine Science Organization (PICES)			42	林業普及指導員近畿ブロックシンポジウム		
	7	The Vth International Wildlife Management Congress			43	海遊館25周年記念シンポジウム		
	8	WA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries			44	外来魚情報交換会		
	9	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク生物多 様性講座			45	環境保全・公害防止研究発表会		
	10	あなご漁業資源研究会			46	関西自然保護機構シンポジウム（地域自然史と保全 研究発表会）		
	11	アユ研究会			47	関西土壌肥料協議会講演会		
	12	イベントリ研究会			48	関西病虫害研究会		
	13	エコパス研修会			49	京都大学大学院農学研究科シンポジウム「日本農業の未 来をエネルギーの観点から考える」		
	14	大阪自然史博物館学芸ゼミ			50	京都府農林水産技術センタープロジェクト研究成果報告会		
	15	海洋生態系モデリングシンポジウム			51	近畿中国四国農業試験研究推進会議果樹研究会		
	16	化学物質環境実態調査環境科学セミナー			52	近畿中国四国農業試験研究推進会議土壌肥料推進部会 問題別研究会		
	17	環境月間記念シンポジウム			53	根こぶ病研究会		
	18	関西サイエンスフォーラムシンポジウム			54	残留農薬分析セミナー		
	19	魚病症例研究会			55	水産多面的機能フォーラム		
	20	魚類自然史研究会			56	水田生物研究会		
	21	近畿土壌肥料研究協議会研究会			57	成果報告会「生産現場に革新を起こす施設栽培の最先端 技術」		

シンポジウム・セミナー・研究会	22	国環研公開シンポジウム	58	生物多様性協働フォーラム
	23	シーフードショー大阪（水産総合研究センターセミナー）	59	生物地球化学研究会現地セッション
	24	資源海洋研究会	60	全国環境研究所交流シンポジウム
	25	植物病害診断研究会	61	全農農業参入ビジネスシンポジウム
	26	シンポジウム 沿岸漁業における漁船漁業ビジネスモデル研究会	62	淡水貝類研究会
	27	森林総研シンポジウム	63	稚魚研究会
	28	全国森林・林業技術シンポジウム	64	中国四国雑草研究会シンポジウム(共催)
	29	全農肥料委託試験花き成果研究会	65	天敵利用研究会
	30	第16回東京湾シンポジウム	66	土水研究会
	31	第3回ナラ枯れ研究会	67	日本水環境学会市民セミナー
	32	大気環境セミナー	68	日本水環境学会シンポジウム
	33	淡水ガメ情報交換会	69	農林害虫防除研究会
	34	にじゅうまるプロジェクト パートナーズ会合	70	平成27年度 近畿地域マッチングフォーラム「中山間地域や都市近郊においてイチゴ栽培等で高収益生産を実現するために」
	35	日本魚類学会市民公開講座	71	落葉果樹研究会
	36	乳牛アミノ酸セミナー		
	公設試等ネットワーク	1	イカナゴ情報交換会議	17
2		関西地区林業試験研究機関連絡協議会	18	近畿中国四国農業試験研究推進会議
3		近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会	19	水産試験場長会瀬戸内ブロック会議
4		近畿土壌肥料研究協議会	20	瀬戸内海における栄養塩等に関する情報交換会
5		植物防疫全国協議会	21	瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議増養殖部会オニオコゼ研究会
6		瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会	22	瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議増養殖部会キジハタ分科会
7		瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議	23	全国環境研協議会
8		瀬戸内海水環境研究会	24	全国水産試験場場長会
9		中央ブロック資源海洋調査研究会	25	全国農業関係試験研究場所長会
10		東海近畿地区農薬残留分析担当者会議	26	全国養殖衛生管理推進会議
11		東北ブロック水産業関係研究開発推進会議沿岸漁業資源部会貝毒研究分科会	27	全国林業試験研究機関協議会
12		土壌保全調査事業全国協議会	28	全国林業試験研究機関場所長会議
13		ハタ類資源解析研究会	29	地方公共団体環境試験研究機関等所長会議
14		病害虫防除所職員等中央研修会	30	東海・近畿・北陸ブロック畜産関係場所長会議
15		林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議	31	東海・近畿地区植物防疫事業検討会
16		関西土壌肥料協議会		

12 調査研究関係業務一覧(実績報告書15ページ)

※研究課題の分野は、中期計画・年度計画に記載された研究分野の区分。“調査研究”は技術支援の基盤となる調査研究。
なお、依頼試験はこの表に含んでいない。

分類	No.	事業・研究課題名称	研究課題の分野	資金分類
環境	1	PM2.5など反応系大気汚染に関する研究	新たな研究分野	運営費交付金
	2	アスベスト対策業務	調査研究	運営費交付金
	3	ゴルフ場排水農業水質監視業務	新たな研究分野	運営費交付金
	4	酸性沈着調査研究	調査研究	運営費交付金
	5	水質検査・精度管理業務	調査研究	運営費交付金
	6	ダイオキシン類検査分析	調査研究	運営費交付金
	7	大気検査業務	新たな研究分野	運営費交付金
	8	微小粒子状物質監視	調査研究	運営費交付金
	9	浮遊粒子状物質環境調査	新たな研究分野	運営費交付金
	10	有害大気汚染物質モニタリング事業	新たな研究分野	運営費交付金
	11	異常水質事故の原因究明手法の確立	調査研究	運営費交付金
	12	一般環境中の有害化学物質濃度とPRTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析	調査研究	運営費交付金
	13	黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究	新たな研究分野	運営費交付金
	14	寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験	調査研究	運営費交付金
	15	大気中超微小粒子(ナノ粒子)の実態把握に関する調査研究	新たな研究分野	運営費交付金
	16	廃棄物処分場における浸出水対策の検討	新たな研究分野	運営費交付金
	17	安威川ダム魚類補足調査業務	調査研究	府委託
	18	安威川及び余野川アユ漁場調査	調査研究	府委託
	19	化学物質環境実態調査	新たな研究分野	府委託
	20	アメリカミズアブの牛ふん飼育大規模化と物質収支算定	重点研究分野	目的積立金
	21	α リノレン酸に富む高付加価値牛乳の新しい生産技術の実証	調査研究	外部資金
	22	イタセンバラ保護増殖調査	調査研究	外部資金
	23	一槽式SADシステムによる海面埋立管理型処分場浸出水の高効率・低コストの窒素低減技術の提案	調査研究	外部資金
	24	河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生体影響試験開発	新たな研究分野	外部資金
	25	瀬戸内海におけるCODIに関する研究	調査研究	外部資金
	26	琵琶湖・淀川流域の流下に伴う難分解性有機窒素成分の変化に関する研究	調査研究	外部資金
	27	水相パッシブサンプラーによる微量化学物質の測定およびそれらに影響する要因の解析	新たな研究分野	外部資金

環境	28	降水量変動が植生の揮発性炭化水素放出に及ぼす影響の解明	調査研究	外部資金
	29	農業残留に関する対策調査	調査研究	外部資金
	30	生物多様性に係る環境教育指導及び生物調査	新たな研究分野	外部資金(民間受託)
農林畜産・食品	31	地域適応型家畜改良研究事業	調査研究	運営費交付金
	32	ワイン搾汁粕の飼料化(採卵鶏用)	新たな研究分野	運営費交付金
	33	発酵TMRの夜間給与による乳牛の生産性向上	重点研究分野	運営費交付金
	34	間伐等実施林分モニタリング調査業務	調査研究	運営費交付金
	35	衛星画像による緑被率の調査	調査研究	運営費交付金
	36	鳥獣被害対策調査業務(モニタリング調査)	新たな研究分野	運営費交付金
	37	森林防災に関する調査(流木対策事業施行地における表面侵食の防止に関する調査)	調査研究	運営費交付金
	38	森林防災に関する調査(GIS解析による森林災害危険箇所調査)	調査研究	運営費交付金
	39	森林防災に関する調査(間伐によるスギ・ヒノキの根返り抵抗力の向上の検証)	調査研究	運営費交付金
	40	みつば新害虫キノコバエの防除方法の確立	重点研究分野	運営費交付金
	41	水なすにおける褐紋病の防除方法の確立	重点研究分野	運営費交付金
	42	いちじく果実のアザミウマ類被害対策の検討	重点研究分野	運営費交付金
	43	水稻の高温障害対策について	調査研究	運営費交付金
	44	水稻のエコ農産物生産における緑肥作物の利用技術	調査研究	運営費交付金
	45	若年層向けドリンク「ビューティー&エネルギーチャージ」として、「包近の桃」と「甘粧」を活用した飲料の開発(大阪産(もん) チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	46	いつでもおいしい・泉州水なすのフリーズドライキムチ(大阪産(もん) チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	47	大阪産(もん)わかめの茎の佃煮水産(大阪産(もん) チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	48	大阪新名物 だしまき プロジェクト!!(大阪産(もん) チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	49	大阪産(もん)果物を使った、千早赤阪村のお土産(大阪産(もん) チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	50	地球温暖化による施設栽培の夏季高温対策技術の確立	調査研究	運営費交付金
	51	ソーラーシェアリングに適した農作物の選定及び影響調査	調査研究	運営費交付金
	52	なすの果皮障害(いわゆる焼け果)対策について	調査研究	運営費交付金
	53	水なすのつや無し果対策	調査研究	運営費交付金
	54	施設野菜栽培の高温対策技術の確立	調査研究	運営費交付金
	55	軟弱野菜の生育障害対策技術の確立	調査研究	運営費交付金
56	ハウス抑制きゅうりの急性萎ちよう症対策	調査研究	運営費交付金	
57	なにわの伝統野菜の優良系統選抜及び出荷長期化のための技術確立	調査研究	運営費交付金	

農 林 畜 産 ・ 食 品	58	大阪府特産ぶどう有望品種系統の選定と栽培方法の確立	調査研究	運営費交付金
	59	大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策	調査研究	運営費交付金
	60	大阪で有望な中晩柑類の絞り込み	調査研究	運営費交付金
	61	ミニイチジクの栽培方法検討および「食べやすさ」の評価法開発	調査研究	運営費交付金
	62	果実肥大期のブドウ葉黄化症状(ミイラ葉(仮))の原因調査と対策	調査研究	運営費交付金
	63	直売所出荷に向けた切花の簡易な開花調節技術の開発	調査研究	運営費交付金
	64	食品微生物に対する調査研究	調査研究	運営費交付金
	65	食品加工品開発	新たな研究分野	運営費交付金
	66	食品加工時における殺菌に伴う事象調査	新たな研究分野	運営費交付金
	67	大阪産(もん) 加工品の開発	新たな研究分野	運営費交付金
	68	農と福祉の連携(ハートフルアグリ)促進事業	調査研究	府委託
	69	森林資源モニタリング調査(ナラ枯れ被害跡地の実態調査、放置竹林の樹種転換のための基礎調査)	調査研究	府委託
	70	酸性雨モニタリング土壌植生調査	調査研究	府委託
	71	病害虫防除総合対策委託(発生予察支援)	重点研究分野	府委託
	72	土壌有害化学物質のリスク管理措置の検証	調査研究	府補助金
	73	紫外光(UV-B)照射によるキュウリのウイルス性急性萎凋症の抑制	重点研究分野	目的積立金
	74	機能性成分の富化を目的としたコメ糖化飲料への米糠の利用	新たな研究分野	目的積立金
	75	シュンギク紫斑点症の原因元素の特定および発生を助長する温度条件の検証	調査研究	目的積立金
	76	竹林の有効活用方策検討業務	新たな研究分野	外部資金
	77	膜分離型高速汚泥処理システムの開発	重点研究分野	外部資金
	78	飼育動物の生殖器疾患等におけるINSL3測定の臨床検査への応用と同受容体発言解析	調査研究	外部資金
	79	家畜の生涯生産性向上のための育種手法の開発	調査研究	外部資金
	80	侵略的拡大竹林の効率的駆除法と植生誘導技術の開発	新たな研究分野	外部資金
	81	人為的な生息地攪乱がもたらすしかの被害強度変動パターンの解明	新たな研究分野	外部資金
	82	クリンギゾウムシ防除技術の開発	重点研究分野	外部資金
	83	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発	重点研究分野	外部資金
	84	視覚イメージを利用した新規害虫防除法の開発	重点研究分野	外部資金
	85	露地ナス圃場周辺における土着カブリダニ類の生息実態の解明	重点研究分野	外部資金
86	ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発	新たな研究分野	外部資金	
87	高齢・障がい者など多様な主体の農業参入支援技術の開発	調査研究	外部資金	

農林畜産・食品	88	花き日持ち性向上対策実証事業	調査研究	外部資金
	89	農地管理実態調査	調査研究	外部資金
	90	水稲におけるヒ素リスク低減	調査研究	外部資金
	91	水田における温室効果ガス排出量算定に関する調査	調査研究	外部資金
	92	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系	調査研究	外部資金
	93	精密な土壌水分制御と養分総量評価による高収益輪作体系の実証	調査研究	外部資金
	94	新農薬に関する試験	重点研究分野	外部資金
	95	畜産物の肥料化に関する研究	重点研究分野	外部資金
	96	切り花の日持ち性向上施肥技術の確立	調査研究	外部資金(民間受託)
	97	発酵飼料の状態測定と給与試験	調査研究	外部資金(民間受託)
	98	園芸器具による植物病害防止に関する研究	重点研究分野	外部資金(民間受託)
	99	施設園芸器具の評価試験	重点研究分野	外部資金(民間受託)
	100	水稲の系統調査事業	調査研究	外部資金(民間受託)
	101	植物調節剤に関する試験	調査研究	外部資金(民間受託)
	102	加工原料野菜の土壌養水分管理に関する研究	調査研究	外部資金(民間受託)
	103	撥水处理培地の機能性調査試験	調査研究	外部資金(民間受託)
	104	土壌局所管理による果樹施肥効率調査	調査研究	外部資金(民間受託)
	105	養液栽培における機能性研究	調査研究	外部資金(民間受託)
	106	農産廃棄物の肥料および資材としての特性解明	重点研究分野	外部資金(民間受託)
	107	発泡スチロールの栽培適応性試験	調査研究	外部資金(民間受託)
	108	気温制御システムによる農産物栽培試験	調査研究	外部資金(民間受託)
109	農機具による燃料削減効果に関する試験	調査研究	外部資金(民間受託)	
110	資材による燃料削減効果に関する試験	調査研究	外部資金(民間受託)	
111	鮮度保持装置の評価	調査研究	外部資金(民間受託)	
112	食品加工技術の開発	調査研究	外部資金(民間受託)	
113	食感指標の研究	調査研究	外部資金(民間受託)	
水産	114	大阪湾における海底窪地の埋戻しに関する調査・研究	重点研究分野	運営費交付金
	115	大阪湾海岸構造物における環境配慮の実施手法の研究	重点研究分野	運営費交付金
	116	危機管理課題(有毒プランクトン)に関する調査・研究	調査研究	運営費交付金
	117	浅海定線調査	調査研究	運営費交付金
	118	養殖生産安全対策	重点研究分野	府委託
	119	コイヘルペスウイルス病まん延防止事業委託	調査研究	府委託
	120	増殖場効果調査	調査研究	府委託
	121	キジハタブランド化に関する調査研究	新たな研究分野	目的積立金

水産	122	生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発(カレイ類)	重点研究分野	外部資金
	123	大阪湾における底魚不漁と環境要因の解明に向けた研究	重点研究分野	外部資金
	124	沿岸海洋食物連鎖系における栄養塩物質の循環に関する研究	重点研究分野	外部資金
	125	微生物相に基づく漁業被害の発生予測・制御技術の開発	重点研究分野	外部資金
	126	資源評価調査	調査研究	外部資金
	127	有害赤潮広域共同調査	重点研究分野	外部資金
	128	ウイルスと海洋生物多様性調査	調査研究	外部資金
	129	貝毒リスク管理措置の見直しに向けた研究	重点研究分野	外部資金
	130	植物プランクトンに関する調査	重点研究分野	外部資金
	131	海域環境における転送効率解析	調査研究	外部資金
	132	衛星データを用いた海域環境調査	重点研究分野	外部資金
	133	資源状況等に関する調査	調査研究	外部資金
	134	植物抽出成分の効果検証	調査研究	外部資金(民間受託)

13 学術論文及び学会発表等一覧（実績報告書15ページ）

※ 研究区分の“重点”“新”“基盤”は・中期計画の重点研究分野・新たな研究分野・技術支援の基盤となる調査研究を示す。

(1) 論文(職員が第一著者の論文; アンダーラインが法人職員)

No.	論文	掲載誌	著者	研究区分	分類	
					第1	第2
1	Effect of water temperature on the pesticide sampling rate of polar organic chemical integrative samplers (POCIS)	Bioscience・Biotechnology・and Biochemistry	<u>Yoshinori Yabuki</u> ・Takashi Nagai・Keiya Inao・ <u>Junko Ono</u> ・ <u>Nobuyuki Aiko</u> ・Nobutoshi Otsuka・Hitoshi Tanaka・Shinji Tanimori	新	環境	環境
2	大阪府における外来哺乳類、アライグマ、ヌートリア、ハクビシンの分布拡大状況	地域自然史と保全	幸田良介	新	環境	自然
3	糞塊除去法によるシカ生息密度分布と頭数推定	H27公立林業試験研究機関研究成果選集	幸田良介・辻野智之・小林徹哉	新	環境	自然
4	大阪府泉南地域で分布拡大している国内外来種アオモジの初期成長特性	地域自然史と保全	<u>上森真広</u> ・奥田史郎・ <u>幸田良介</u>	新	環境	自然
5	Excretion rate of indigestible plastic balls with different specific gravities and diameters in dairy cattle	Animal Science Journal	<u>瀬山智博</u> ・平康博章・ <u>笠井浩司</u>	基盤	環境	環境
6	主枝高設樹形イチジク‘榊ドーフィン’での結果枝水平誘引と主枝更新せん定の併用効果	農作業研究	<u>細見彰洋</u> ・磯部武志・ <u>三輪由佳</u>	基盤	農水	農林
7	Low-Pressurer Plasma Application for Inactivation of the Seed-borne Pathogen Xanthomonas campestris	Biocontrol Science	<u>西岡輝美</u> ・高井雄一郎・ <u>三島朋子</u> ・ <u>瓦谷光男</u> ・谷本秀夫・ <u>岡田清嗣</u> ・三沢達也・ <u>草刈眞一</u>	重点	農水	農林
8	赤色ネット、スワルスキーカブリダニおよびメタリジウム粒剤の併用による施設キュウリのミナミキイロアザミウマの防除	関西病虫害研究会報	<u>城塚可奈子</u> ・濱崎健児・ <u>柴尾学</u> ・ <u>岡田清嗣</u>	重点	農水	農林
9	ミヤコカブリダニとチリカブリダニのリレー利用による施設イチゴのナミハダニ黄緑型の防除	関西病虫害研究会報	<u>柴尾学</u> ・井奥由子	重点	農水	農林
10	温湯処理によるクリンギゾウムシと黒色実腐病の同時防除の検討	関西病虫害研究会報第58号	<u>浜崎健児</u> ・ <u>瓦谷光男</u> ・ <u>柴尾学</u>	重点	農水	農林
11	Total RNA Extraction from Grape Berry Skin for Quantitative Reverse Transcription PCR and Microarray Analysis	Bio-protocol	<u>Mami Suzuki</u> ・Katsuhiko Shiratake	基盤	農水	農林
12	淀川河口域におけるアユ仔魚の出現	地域自然史と保全	<u>大美博昭</u> ・ <u>日下部敬之</u>	新	環境	自然
13	Changes of Fishery Resources in Relation to Water Environments in Osaka Bay	Symposium on Conservation of Ecosystem Volume 4 (The 15th SEASTAR2000 workshop)	<u>中嶋昌紀</u> ・樽谷賢治・ <u>矢持進</u>	基盤	農水	水産
14	瀬戸内海の窒素・リンの動態について ～大阪湾を中心として～	水産海洋研究	<u>中嶋昌紀</u> ・ <u>山本圭吾</u> ・ <u>佐野雅基</u> ・ <u>秋山諭</u>	重点	農水	水産
15	淀川における外来水生植物駆除技術の開発	環境技術学会誌	<u>内藤馨</u>	新	環境	自然
16	施設ナス栽培での赤色ネットと生物農薬の利用によるアザミウマ防除対策	日本養液栽培研究会ハイドロポニックス第29巻第2号	<u>柴尾学</u>	重点	農水	農林
17	ホーブが語る！未来のハイドロポニックスCO2施用時の加湿制御—作物の生育にとって好適な湿度範囲を考える—	日本養液栽培研究会ハイドロポニックス第29巻第2号	<u>鈴木真実</u>	重点	農水	農林
18	The effects of administering lactic acid bacteria sealed in a capsule on the intestinal bacterial flora of cattle	Japanese Journal of Veterinary Research	<u>瀬山智博</u> ・平康博章・ <u>吉田弦</u> ・ <u>大沼愛子</u> ・ <u>邱永晋</u> ・ <u>中島千恵</u> ・ <u>笠井浩司</u> ・ <u>鈴木定彦</u>	基盤	農林	水産

(2) 論文(職員が共著のもの; アンダーラインが法人職員)

No.	論文	掲載誌	著者	研究区分	分類	
					第1	第2
1	アカマツ林床におけるαピネン放出量の空間分布特性	日本森林学会誌	<u>深山貴文</u> ・ <u>森下智陽</u> ・ <u>奥村智憲</u> ・ <u>宮下俊一郎</u> ・ <u>高梨聡</u> ・ <u>吉藤奈津子</u>	基盤	環境	環境

2	Insignificant effects of culm age on transpiration in a managed Moso bamboo forest, Kyoto, Japan	Hydrological Research Letters	Kenji Tsuruta・Motonori Okumura・Tomonori Kume・Ryuji Ichihashi・Yoshinori Shinohara・Yoshiko Kosugi	新	環境	自然
3	Impact of anthropogenic disturbance on the density and activity pattern of deer evaluated with respect to spatial scale-dependency	Mammalian Biology	揚妻直樹・幸田良介・辻野亮・揚妻-柳原芳美	新	環境	自然
4	Electrostatic insect sweeper for eliminating whiteflies colonizing host plants: A complementary pest control device in an electric field screen-guarded greenhouse	Insects	Yoshihiro Takikawa・Yoshinori Matsuda・Koji Kakutani・Teruo Nonomura・Shin-ichi Kusakari・Kiyotsugu Okada・Junji Kimbara・Kazumi Osamura・Hideyoshi Toyoda	重点	農水	農林
5	An Electrostatic Nursery Shelter for Raising Pest and Pathogen Free Tomato Seedlings in an Open-Window Greenhouse Environment	Journal of Agricultural Science	Yoshihiro Takikawa・Yoshinori Matsuda・Teruo Nonomura・Koji Kakutani・Kiyotsugu Okada・Shinya Morikawa・Manabu Shibao・Shin-ichi Kusakari・Hideyoshi Toyoda	重点	農水	農林
6	Direct Plasma Disinfection of Green Mold Spore on Citrus by Atmospheric Pressure Dielectric Barrier Discharge for Agricultural Applications	Transactions of the Materials Research Society of Japan	Yagyu Y・Hatayama Y・Hayashi N・三島朋子・西岡輝美・Sakudo A・Ihara T・Ohshima T・Kawasaki H・Suda Y	重点	農水	農林
7	Removal of ammonia from aqueous solution for swine wastewater with swine manure compost-based char	Water Practice & Technology	Y. Dote・T. Sekito・K. Ueda・R. Sakamoto・I. Suzuki・S. Sano	基盤	農水	農林
8	Omics studies of citrus, grape and rosaceae fruit trees	Breeding Science	白武勝裕・鈴木真実	基盤	農水	農林
9	ラビリントウ類の多様性と生態学的役割	海洋と生物	上田真由美・野村友佳・土井耕作・中嶋昌紀・本多大輔	重点	農水	水産
10	京都市久我水路における魚類群集	地域自然史と保全	田中和大・川瀬成吾・須藤允之・辻晃一・細谷和海	新	環境	自然
11	豚ふん堆肥炭化物による養豚廃水からのアンモニア除去に関する研究	廃棄物資源循環学会論文誌	土手裕・関戸知雄・元山健司郎・上田浩三・阪本亮一・鈴木敏征・佐野修司	基盤	農水	水産
12	Fetal gender estimation by maternal plasma testosterone and insulin-like peptide 3 concentrations at mid and late gestation in cattle	Theriogenology	M. Kibushi・N. Kawate・Y. Kaminogo・M.A. Hannan・W.W.P.N. Weerakoon・M. Sakase・M. Fukushima・I. Sevama T. Inaba・H. Tamada	基盤	農水	畜産

(3) 学会発表等(アンダーラインが法人職員)

No.	タイトル	学会	発表者	研究	分類	
				区分	第1	第2
1	河川の生態影響評価に向けた水生昆虫の生息実態調査手法の提案	日本陸水学会第80回大会	相子伸之・矢吹芳教・大塚宜寿・田中仁志	新	環境	環境
2	Effect of nitrate addition on anammox activities in sediment from the bottom of leachate adjustment reservoir of controlled final landfill site	The third international anammox symposium(IANS2015)	Nobuyuki Aiko・Yoshinori Yabuki・Daisuke Hira・Tomotaka Nakamura・Yuichi Suwa	基盤	環境	環境
3	管理型処分場浸出水調整池の池水中のアナモックス活性	日本水処理生物学会第52回大会	相子伸之・中西博隆・平大輔・山際秀誠・中村知喬・諏訪裕一	基盤	環境	環境
4	琵琶湖・淀川から大阪湾に流入する難分解性有機窒素化合物	日本水環境学会第50回年会	相子伸之・中西博隆・矢吹芳教・田中咲絵・中嶋昌紀・早川和秀	重点	農水	水産

5	瀬戸内海のCODに及ぼす外洋水の影響評価に関する研究	瀬戸内海研究フォーラム in奈良	小野純子・矢吹芳教・相原咲季・相子伸之・中嶋昌紀・柳原宇至・駒井幸雄	重点	農水	水産
6	大阪湾における貧酸素水塊の発生に関する研究－海水中におけるDO消費率の測定の試み－	第42回環境保全・公害防止研究発表会	小野純子・矢吹芳教・中嶋昌紀	重点	農水	水産
7	ライダー観測データとPM2.5成分について	第56回大気環境学会年会	山本勝彦・西村理恵・中戸靖子・清水厚・菅田誠治・佐野到	新	環境	環境
8	化学輸送モデルによる2013年東海・近畿地域のPM2.5濃度解析－化学輸送モデルによる濃度予測－	第56回大気環境学会年会	浦西克雄・浅野勝佳・菊谷有希・山神真紀子・青山知由・板野泰之・山本勝彦・宮野愛子・小松宏昭・常松展充・原政之・菅田誠治	新	環境	環境
9	PM2.5の成分分析と粒子ごとの化学組成分析による発生源特定を試み	第42回環境保全・公害防止研究発表会	福山由依子・西村理恵・多々野秀二・富澤亮太・丸山大貴・中嶋悟	新	環境	環境
10	日本の大規模港湾周辺で捕集されたPM2.5の発生源解析	第56回大気環境学会年会	中坪良平・浦西克雄・池盛文数・西村理恵・松岡靖史・菅田誠治	新	環境	環境
11	大気微粒子(PM2.5)のマイクロ・ナノ分析法と生成過程追跡法の開発	第56回大気環境学会年会	中嶋悟・丸山大貴・富澤亮太・岡田実紗・鈴木実・大西市朗・瀬戸雄介・松本恵・西村理恵・福山由依子	新	環境	環境
12	流動担体に付着した微生物による最終処分場浸透水中の1,4-ジオキサン処理	第26回廃棄物資源循環学会	矢吹芳教・小野純子・小西弘和	新	環境	環境
13	パッシブサンプラーによる環境水中のネオニコチノイド系殺虫剤のモニタリング	第50回日本水環境学会年会	矢吹芳教・小野純子・相子伸之・大塚宜寿・田中仁志	新	環境	環境
14	POCIS法におけるネオニコチノイド系殺虫剤のRs値の算出方法	第50回日本水環境学会年会	大塚宜寿・田中仁志・相子伸之・矢吹芳教	基盤	環境	環境
15	徳島県沖と大阪湾内のCODの鉛直分布と季節変動	第50回日本水環境学会年会	柳原宇至・坂田真菜・中井里穂・矢吹芳教	重点	農水	水産
16	Distribution pattern of deer population density in Osaka Prefecture: What factors can affect deer populations?	The Vth International Wildlife Management Congress	幸田良介・小林徹哉・辻野智之・石原委可	新	環境	自然
17	林床植生の被度と種数は単調減少するのか-大阪府内二次林におけるシカ生息密度との比較-	第63回日本生態学会仙台大会	幸田良介・辻野智之・土井裕介	新	環境	自然
18	金剛生駒・和泉葛城山系へのニホンジカの侵入状況	関西自然保護機構2016年度大会	幸田良介・若山学・小林徹哉・辻野智之	新	環境	自然
19	高分解能衛星画像・マルチコプターによる空撮画像を用いた竹林分布推定手法の検討	第127回森林学会大会	上森真広・山本優一・小林徹哉	新	環境	自然
20	平成27年7月の台風11号による増水が安威川の河川植生に与えた影響	関西自然保護機構2016年度大会	土井裕介・小林徹哉・山本優一	新	環境	自然
21	酪農家間および季節間での牛舎内THIと乳牛の生理指標の比較	日本畜産学会第120回大会	安松谷恵子・石塚謙・西田真治	基盤	農水	畜産
22	ホルスタイン種雌子牛の発育の実測値と推定尺値の比較	日本畜産学会第120回大会	安松谷恵子・徳永由佳・西田真治・真柳敦夫	基盤	農水	畜産
23	膜分離可溶化プロセスによる下水汚泥の高速処理	第50回日本水環境学会年会	吉田弦・瀬山智博・平康博章・笠井浩司	重点	環境	環境
24	ウン用腸溶性生菌剤カプセルが腸内細菌相に与える影響	日本畜産学会 第121回大会	瀬山智博・平康博章・吉田弦・大沼愛子・邱永晋・中島千絵・笠井浩司・鈴木定彦	基盤	農水	畜産
25	乳酸菌の高密度培養及び発酵飼料特性の解析	全国農業関係試験研究場所長 平成27年度研究功労者表彰記念講演	平康博章	基盤	農水	畜産
26	アメリカミズアブ幼虫による牛ふん処理における物質収支	日本畜産学会 第121回大会	平康博章・瀬山智博・吉田弦・笠井浩司・藤谷泰裕	重点	農水	畜産
27	静電場スクリーンとUV-B照射併用によるトマトうどんこ病と葉かび病の防除結果	平成27年度日本植物病理学会関西支部	岡田清嗣・西村幸芳・森川信也・西岡輝美・草刈亘一	重点	農水	農林
28	静電場スクリーンによる微小害虫の侵入防止と昇温抑制	第20回農林害虫防除研究会大分大会	柴尾学・岡田清嗣・森川信也	重点	農水	農林

29	低ガス圧プラズマを用いたトマトかきよう病菌に対する種子の消毒効果	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	西岡輝美・三島朋子・瓦谷光男・谷本秀夫・岡田清嗣・草刈眞一・三沢達也	重点	農水	農林
30	低ガス圧プラズマによるアブラナ科黒腐病菌の殺菌とメカニズムの検討	平成27年度日本植物病理学会関西西部会	西岡輝美・高井雄一郎・三島朋子・瓦谷光男・岡田清嗣・谷本秀夫・三沢達也	重点	農水	農林
31	立体形状大気圧プラズマの殺菌特性の位置依存性	2015年第76回応用物理学会秋季学術講演会シンポジウム「プラズマ医療科学の最前線 (Frontier of Plasma Medicine)」	三沢達也・三島朋子・高井雄一郎・西岡輝美	重点	農水	農林
32	ガスプラズマによる種子上のRhizoctonia solaniの殺菌	近畿中国四国農業研究推進会議病害虫推進部会成果情報	西岡輝美・三島朋子・高井雄一郎・瓦谷光男・岡田清嗣・谷本秀夫・三沢達也	重点	農水	農林
33	天敵資材と化学農薬の併用による半促成ナスのミナミキイロアザミウマの防除体系	農林害虫防除研究会	城塚可奈子・辻田典子・柴尾学	重点	農水	農林
34	メタリジウム粒剤に対する各種薬剤の影響	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	城塚可奈子・柴尾学・岡田清嗣	重点	農水	農林
35	大阪府内のハウス抑制栽培キュウリでの急性萎凋症発生要因	平成27年度日本植物病理学会関西西部会	西村幸芳・瓦谷光男・鈴木敏征・辻野護・岡田清嗣	重点	農水	農林
36	赤色蛍光灯と光反射シートの併用による施設ナスのアザミウマ類の密度抑制	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	柴尾学・城塚可奈子	重点	農水	農林
37	スワルスキーカブリダニと選択性農薬を併用した露地栽培ナスのアザミウマ類防除	第25回天敵利用研究会	浜崎健児・柴尾学・久保田豊・西田真子・畑中啓佑・八木文香・山中聡	重点	農水	農林
38	ミナミキイロアザミウマ1齢幼虫および成虫に対する各種薬剤の殺虫効果	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	浜崎健児・城塚可奈子・柴尾学	重点	農水	農林
39	露地ナス圃場周辺での土着カブリダニ類の生息実態の解明	日本生態学会第63回大会	浜崎健児・柴尾学	重点	農水	農林
40	造成ビオトープにおける水生昆虫の種数の変化	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	田中幸一・浜崎健児	新	農水	農林
41	切り花の収穫後開花調節技術の開発とその製品化	平成27年度第1回バイオ産業研究会	豊原憲子	基盤	農水	農林
42	栽培初心者が抱える植物栽培過程の問題点 幼植物試験に準じた栽培実習からの考察	平成27年度日本農業教育学会	豊原憲子	基盤	農水	農林
43	高床式砂耕栽培ベッドでの車いす園芸作業による下肢機能改善事例からの考察	平成27年度第8回日本園芸療法学会	豊原憲子	基盤	農水	農林
44	生活機能から労働環境を考える	日本農作業学会第52回通常総会 受賞講演会	豊原憲子	基盤	農水	農林
45	需要量予測技術等の直売所の切り花向け新技術の活用法	近畿中国四国農業研究推進会議病害虫推進部会成果情報	吉田晋一・豊原憲子・山中正仁・仲照史・虎太有里・角川由加	基盤	農水	農林
46	X線分析顕微鏡によるシュンギク紫斑点症原因元素の解析	近畿土壌肥料研究会	鈴木真実・佐野修司・山崎基嘉	基盤	農水	農林
47	夏季シュンギク栽培での新規赤外線遮断資材の被覆効果	園芸学会平成28年度春季大会	鈴木真実・森川信也・鈴木敏征・福岡信之	基盤	農水	農林
48	環状はく皮および透明果実袋が多着果のブドウ‘巨峰’の着色に及ぼす影響	平成27年度園芸学会近畿支部和歌山大会	三輪由佳・磯部武志	基盤	農水	農林
49	土壌の局所管理によるブドウ‘デラウェア’地下部の生育促進	園芸学会平成28年度春季大会	三輪由佳・上森真広・磯部武志・内山知二	基盤	農水	農林
50	中空構造栽培槽の簡易上下移動機構による光環境改善	平成27年度園芸学会近畿支部和歌山大会	森川信也・内山知二・金剛穂波・長崎裕司	基盤	農水	農林
51	大阪府内で栽培可能な中晩柑類の品種特性調査	園芸学会近畿支部和歌山大会	磯部武志・三輪由佳	基盤	農水	農林
52	天王寺カブの挿し木増殖法の検討	園芸学会2015年度秋季大会	山崎基嘉・古川一・和田光生	基盤	農水	農林

53	各種鉄資材施用と湛水管理による玄米ヒ素・カドミウムの同時低減技術の開発	日本土壌肥料学会2015年度京都大会	牧野知之・伊藤正志・本間利光・武久邦彦・佐野修司・松本真悟・宮崎成生・中村 乾・加藤英孝・山口紀子	基盤	農水	農林
54	mRNA のコピー数によるメロンの早期選抜技術の開発	園芸学会平成27年度秋季大会	古川一・辻林高仁・山崎基嘉	基盤	農水	農林
55	非火山灰農地土壌での耕盤検知型採土器の実証	土壌物理学会2015年度大会	佐野修司・内山知二・松本清治	基盤	農水	農林
56	非火山灰農地土壌での2波長紫外吸光度法による硝酸および有機可給態窒素の同時測定法(KPUV法)の改良	日本土壌肥料学会2015年度関西支部大会	佐野修司・内山知二・松本清治	基盤	農水	農林
57	施設栽培のシュンギク葉に発生した紫斑点症(仮称)の原因究明	日本土壌肥料学会2015年度京都大会	佐野修司・山崎基嘉・小坂吉則・森岡こころ・松本裕実・山盛詳子・中川瑞貴・鈴木真実・金剛穂波・内山知二	基盤	農水	農林
58	木質系炭化物を農地利用する際の肥料効果の評価	第13回木質炭化学会	佐野修司・内山知二・東昌弘	基盤	農水	農林
59	Decrease of cadmium content in young soybean (Glycine Max.) by soil water management (土壌水分管理によるエダマメのカドミウム吸収抑制)	13th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements (微量元素国際学会)	佐野修司・内山知二	基盤	農水	農林
60	剪定屑堆肥の施用による施設造成土壌の短期間での微生物性変化	日本土壌微生物学会	佐野修司・長岡一成・須賀有子・小坂吉則・森岡こころ・山崎基嘉・金剛穂波・内山知二	基盤	農水	農林
61	TDR水分計を用いた間断灌漑期水田土壌気相率の測定	日本土壌肥料学会2015年度京都大会	加藤英孝・中村乾・牧野知之・伊藤正志・本間利光・武久邦彦・佐野修司	基盤	農水	農林
62	Irrigation interval effects on redox potential and dissolved arsenic and cadmium in paddy soils	13th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements (微量元素国際学会)	K. Nakamura・H. Katou・T. Makino・M. Ito・T. Honma・K. Takehisa・S. Sano	基盤	農水	農林
63	Effects of iron containing materials on mobility and availability of arsenic in paddy soils	13th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements (微量元素国際学会)	T. Makino・M. Ito・T. Honma・K. Takehisa・S. Sano・S. Matsumoto・A. Suda・K. Baba・M. Tomizawa・N. Yamaguchi・K. Nakamura・H. Katou・A. Kawasaki・S. Ishikawa・T. Arao	基盤	農水	農林
64	繊維状竹破砕物の施用方法がコマツナ幼植物の生育と土壌の形態別窒素に及ぼす影響	近畿日本土壌肥料学会支部会	金剛穂波・佐野修司	基盤	農水	農林
65	石灰窒素肥料を用いた全量基肥栽培がキャベツの収量、土壌の化学性に及ぼす影響	日本土壌肥料学会 2015年度大会(京都)	金剛穂波・佐野修司・内山知二	基盤	農水	農林
66	近赤外法による水ナス果実の空洞果判別技術の開発	日本食品保蔵科学会創立40周年記念大会	橋田浩二・谷本秀夫・執行正義・山内直樹	基盤	食品	加工
67	間断灌漑後経過日数による水田土壌の気相率、Ehおよび溶存ヒ素・カドミウム濃度の変化	日本土壌肥料学会2015年度京都大会	牧野知之・伊藤正志・本間利光・武久邦彦・佐野修司・松本真悟・宮崎成生・中村 乾・加藤英孝・山口紀子・須田碧海・馬場浩司・石川 寛・赤羽幾子・川崎 晃・荒尾知人	基盤	農水	農林
68	大阪湾におけるベントスと底生魚類の分布	日本水産増殖学会第14回大会	佐野雅基・稲垣祐太・大美博昭・横山寿	重点	農水	水産
69	大阪府におけるサワラ流し網漁業に関する研究 ・・・春漁の漁獲量増加について・・・	日本水産学会秋季大会	睦谷一馬	重点	農水	水産
70	大阪湾で8~10月に出現したウシノシタ科稚魚の着底場所	2015年稚魚研究会	大美博昭	重点	農水	水産
71	大阪湾で操業する石げた網における漁獲量変化	日本水産学会 平成27年度近畿支部後期例会	大美博昭	重点	農水	水産

72	ラビリントウ類の海洋生態系における役割	マリンバイオテクノロジー学会	上田真由美・野村友佳・土井耕作・中嶋昌紀・本多大輔	重点	農水	水産
73	ヤブレイソバカビ類の海洋生態系における影響力と系統群ごとの季節変動	ラビリントウ・シンポジウム	上田真由美・野村友佳・土井耕作・中嶋昌紀・本多大輔	重点	農水	水産
74	大阪湾における溶存有機物の挙動に関する研究	平成27年度海洋理工学会秋季大会	松村圭高・小林志保・中嶋昌紀・山本圭吾・秋山諭・河村耕史	重点	農水	水産
75	大阪湾における一次生産者現存量の試算と経年変化	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会	山本圭吾	重点	農水	水産
76	大阪湾におけるカタクチイワシ資源量の推定	水産海洋学会研究発表大会	山本圭吾	重点	農水	水産
77	完全長ゲノムに基づく海洋ウイルスの定量的動態解析とその宿主微生物の推定	平成28年度日本水産学会春季大会	綿井博康・本田貴史・山本圭吾	基盤	農林	水産
78	東部瀬戸内海における基礎生産	日本地球惑星科学連合2015年大会	安佛かおり・一見和彦・山口一岩・大美博昭・秋山諭・宮原一隆・山本昌幸・笠井亮秀	重点	農林	水産
79	イタセンバラの生息環境としての淀川城北ワンドの水質の評価	第50回日本水環境学会年会	張海洋・八木郁也・駒井幸雄・上原一彦	新	環境	自然
80	淀川城北ワンドにおける外来魚駆除効果とイタセンバラ野生復帰	2015年日本魚類学会年会	鶴田哲也・吉田拓哉・内藤馨・上原一彦・綾史郎	新	環境	自然
81	淀川点野ワンドの魚類群集の季節変化	日本陸学会近畿支部会第27回研究発表会	森口雄太・石田裕子・内藤馨・川瀬成吾	新	環境	自然
82	淀川における水生植物相の変遷	関西自然保護機構2016年度大会	内藤馨・川瀬成吾・石橋亮・山本義彦	新	環境	自然
83	環境影響評価における新しい調査手法の試み -環境DNAを用いたイタセンバラ生息の推定-	土木学会	上月佐葉子・渡部健・源利文・上原一彦・山本義彦	新	環境	自然
84	環境DNAメタバーコーディングを用いた淀川の魚類相モニタリング	第63回日本生態学会大会	稲波璃香・山本義彦・近藤美麻・上原一彦・佐藤行人・宮正樹・山本哲史・源利文	新	環境	自然
85	体験学習プログラム「田んぼの生きもの教室」～参加者の田んぼに対する認識に与える影響と生物相～	関西自然保護機構2016年度大会	近藤美麻・鈴木真裕・浜崎健児	新	環境	自然
86	大和川下流域における魚類相	関西自然保護機構2016年度大会	大橋一輝・川瀬成吾・内藤馨・山本義彦・近藤美麻・上原一彦・小田優花・畑田賢吾・鈴木真裕・細谷和海	新	環境	自然
87	大阪府内河川の魚類相	関西自然保護機構2016年度大会	山本義彦・内藤馨・近藤美麻・川瀬成吾・小田優花・金丸善紀・石橋亮・上原一彦	新	環境	自然
88	淀川水系イタセンバラ保全市民ネットワーク活動報告—外来魚駆除による在来魚の種多様性回復—	外来魚情報交換会	鶴田哲也・木野史裕・増田篤紀・前島剛・吉田拓哉・上原一彦・内藤馨・高田昌彦・綾史郎	新	環境	自然

(4) 出版物

No.	タイトル	掲載誌等	著者	研究	分類	
				区分	第1	第2
1	デンプンの添加が発酵TMRの窒素利用性に及ぼす影響	関西畜産学会ニュースレター	吉田弦・瀬山智博・平康博章・笠井浩司・田淵雅彦・藤谷泰裕	重点	農水	畜産
2	薬剤のローテーションができなくなった害虫にどう対応するか	現代農業	柴尾学	重点	農水	農林
3	難防除病害の最新情報と現場で取れる対策【イチジク株枯病】	(一社)全国農業改良普及支援協会「技術と普及」	瓦谷光男	基盤	農水	農林
4	イチジクの生育特性ほか	イチジクの作業便利帳	真野隆司・粟村光男・小河拓也・鬼頭郁代・細見彰洋・松浦克彦	基盤	農水	農林

5	大阪湾における底魚不漁と環境要因の解明に向けた研究(その2)大阪湾の埋め立て地周辺海域における底質環境とマクロベントスの動向に関する調査	瀬戸内海	佐野雅基・稲垣祐太・大美博昭・秋山諭・鍋島靖信・横山寿	重点	農林	水産
6	大阪府におけるシカの現状	大阪自然環境保全協会 会報誌「都市と自然」	幸田良介	新	環境	自然
7	トノサマバッタの生態と防除	大阪府立環境農林水産 総合研究所 研究報告	田中寛	重点	農水	水産
8	イチジク主枝高設樹形導入による収穫姿勢の改善効果	大阪府立環境農林水産 総合研究所 研究報告	森川信也・細見彰洋・三輪由佳	基盤	農水	農林
9	微生物の高生存率乾燥技術の開発	(株)シーエムシー出版 月刊「バイオインダストリー」	平康博章	基盤	環境	環境
10	おおさかエコテック(環境技術評価・普及事業)について ～おおさかの中小・ベンチャー企業が開発した優れた環境技術のPRを支援!～	(一財)関西環境管理技術センター 環境情報誌「EMATEC」	環境情報部	基盤	環境	環境
11	アザミウマ防除ハンドブック	アザミウマ防除ハンドブック	柴尾学	重点	農水	農林
12	魚食性コイ科魚類ハスの初期発育特性	近畿大学農学部紀要	畑田賢吾・北川哲郎・小田優花・細谷和海	新	環境	自然
13	Current progress in seed disinfection by gas plasma: disinfection of seed-borne fungi and bacteria by plasma with alternating current high-voltage	Gas Plasma Sterilization in Microbiology: Theory, Applications, Pitfalls and New Perspectives	西岡輝美・三島朋子・豊川洋一・三沢達也・作道章一	重点	農水	農林
14	栽培指針「シャインマスカット」の栽培について	「シャインマスカット」導入マニュアル(大阪府発行ウェブ版)	(編集・発行)大阪府、(編集協力)地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所・大阪府果樹振興会	基盤	農水	農林
15	主枝を前年枝で毎年更新 樹を若返らせるリフレッシュ剪定	農業技術大系果樹編(農文協発行)	細見彰洋	基盤	農水	農林
16	静電場スクリーンによる温室トマトの病害虫防除	日本植物防疫協会『植物防疫』	岡田清嗣・西村幸芳・森川信也・西岡輝美・草刈眞二	重点	農水	農林

1.4 重点研究分野への取組

(1) 「安全・安心な特産農産物生産を目指した総合的作物管理（ICM）技術」 （実績報告書 16 ページ）

病害虫の防除の推進について

①必要性

農政室施策3本柱の1つである「生産振興・地産地消の推進」の中で、農産物の安全安心確保が求められている。とくに“大阪エコ農産物”の安定生産のために化学合成農薬の使用回数を減らすことが急務であり、その技術的課題解決のための研究・実証が必要である。

②業務の具体的内容（H27年度）

施設ナスでは薬剤抵抗性の発達したミナミキイロアザミウマによる被害が大きく、防除に苦慮している。そこで、ハウス開口部を赤色ネットで被覆して、捕食性の天敵と天敵糸状菌を併用した総合的害虫管理法を開発し、防除マニュアルを作成する。イチジクにおいては果実内に侵入するアザミウマ類によって外観健全に見える果実でも内部腐敗被害が生じ問題となっている。そこで、アザミウマ類の発生生態を解明するとともに、赤色ネットを用いて樹体被覆することによる防除効果について検討する。また、府内特産野菜である水ナスでは褐紋病の発生により生産低下を招いていることから、緊急的な防除対策について検討し、防除対策マニュアルを作成する。さらに、マイナー作物のミツバではチバクロバネキノコバエが発生し、みつばのずるけ、生育遅延等を引き起こしている。そこで、発生生態を解明するとともに、効果的な防除体系を確立する。

③業務実施結果の概要（H27年度）

ア 天敵活用による施設ナスのミナミキイロアザミウマの総合防除

所内の施設ナスで、捕食性天敵スワルスキーカブリダニ、天敵糸状菌メタリジウム粒剤および赤色防虫ネットの併用による IPM 区と慣行防除(対照)区を設置し、ミナミキイロ生息密度を調査したところ、IPM 区ではミナミキイロ生息密度が低く抑えられた(図1)。調査期間中のミナミキイロに対する薬剤散布回数は、30%削減された。また、河南町の施設ナスで IPM 体系を実証したところ、ミナミキイロの生息密度は2月上旬~6月中旬まで低く推移した。ミナミキイロに対する薬剤散布回数は、85%削減された。

また、2013~2015年に行った IPM 体系実証試験について取りまとめ、天敵を活用した施設ナス(半促成栽培)の害虫防除マニュアルを作成した(図2)。

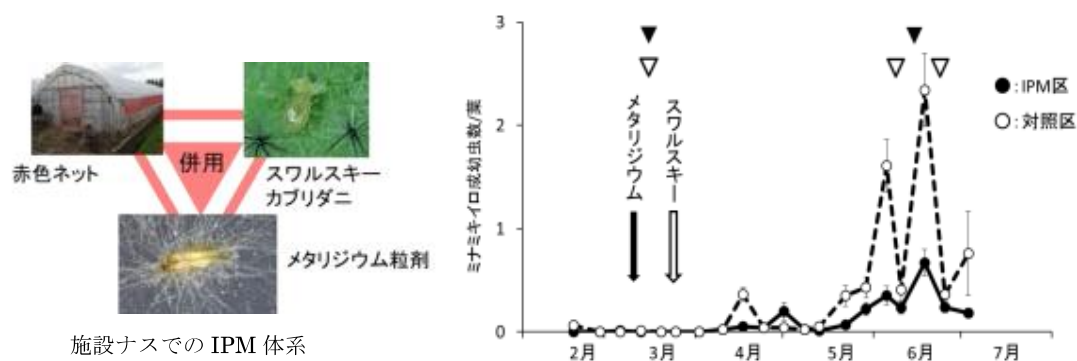


図1 施設ナスにおける赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の処理、スワルスキーカブリダニの放飼の併用によるミナミキイロアザミウマの防除効果（2015年，羽曳野市）

天敵を活用した施設ナス(半促成栽培)の害虫防除体系

＜ポイント＞

- 施設開口部には1m未満高さ下の防虫ネットを確保
- 天敵導入前(施設設置直前)はアザミウマ、アークアザミウマ、アークアザミウマ、アークアザミウマなどの合成殺スロイド剤を使用しない。
- スワルスキーの放飼10日前にはアザミウマ類など天敵を捕殺する薬剤を避け、アザミウマ類の密度を限りなくゼロに「ゼロ放飼」。
- 天敵は生きたままから導入して1〜2週間かかるので、放飼計画をしっかり立てる。
- 天敵は生産地なので、到着後しばらくは追放し、殺さない。
- スワルスキーはもうのほかにすべての種に放飼(1平米で400〜500頭の密度が理想)
- 天敵放飼後が影響のある薬剤は使用しない(別冊参照)

10月~12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
準備~育苗	定植(12~1月)	バレイレーザ放飼	スワルスキー				収穫終了
アザミウマ類	有苗期~スワルスキー放飼の害虫密度を限りなくゼロに		アザミウマ類が発生した場合→スワルスキー(バレイレーザ)類を放飼(放飼10日前)	放飼後に使用できる殺虫剤【アザミウマ類】<影響なし>プレオフロアブル、ベストガード水溶液、スタークル/アルバリン類水溶液など ※影響量(別冊)を参照			
黄色ヨリバー	●青果期後半 キベントフロアブル(放飼1か月前まで)を散布 ●青果期後半~定植前 ベリマークまたはアピロン(殺菌剤)を処理 ※2月中旬以降(最低気温5℃以上) バレイレーザ(10g/10a)を施用 ※アザミウマ類(10g/10a)を放飼した場合はバレイレーザを施用(5割削減以上)		スワルスキー放飼 2本/10a (3月下旬~4月中旬)	放飼後に使用できる殺虫剤【コナジラビ類】<影響なし>スタークル/アルバリン類水溶液、ベストガード水溶液など <影響小>コルト類水溶液など ※影響量(別冊)を参照			
コナジラビ類	●放飼10日前 アザミウマ乳剤を散布		放飼後2週間は定植を安定させるために農薬散布を避ける	放飼後に使用できる殺虫剤【コナジラビ類】<影響なし>スタークル/アルバリン類水溶液、ベストガード水溶液など <影響小>コルト類水溶液など ※影響量(別冊)を参照			
赤コリダニ類	影響量(別冊)および確認			五ホマイトフロアブル、スターマイトフロアブルなど			
アザミウマ類				ウラウラ、フェス類水溶液など			
ハダニ類				ダニキラー/ワザブル、スターマイトフロアブルなど			
ネギアザミウマ類	影響量(別冊)をよく確認し、長期防除剤が推定薬剤(合成殺スロイド系など)は使用しない			ネトームシ、オオタノコバ、プレバシコフロアブル、フェニックス類水溶液、新剤など			
病害				※3週間以内の散布、ネギアザミウマ類、ネギアザミウマ類、ネギアザミウマ類の水溶液、イオウフロアブルの使用は避ける			

図2 施設ナス(半促成栽培)の害虫防除マニュアル

イ イチジクでのアザミウマ類の発生生態と赤色ネットによる防除効果

研究所内の圃場では、粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺ピークは2013年が6月中旬、2014年が6月上旬、2015年が5月下旬~6月上旬であった(図3)。2015年の青色粘着トラップと黄色粘着トラップの誘殺種はそれぞれ、ネギアザミウマが61.9%と81.5%、ヒラズハナアザミウマが35.7%と8.6%、ハナアザミウマが0.7%と2.7%であった。また、果実内虫数が多いと被害程度が大きくなる傾向が認められた。2015年の果実内ではネギアザミウマが73.4%、ヒラズハナアザミウマが5.6%、ハナアザミウマが4.0%であり、黄色粘着トラップでの誘殺種と種構成がほぼ一致していた。

岸和田市ほ場において赤色ネット被覆によるアザミウマ類の防除効果を調査したところ、青色および黄色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺虫数はネット内がネット外の約半数で推移した(図4)。また、8月の被害果率はネット外が10.0%、ネット内が2.5%となり、赤色ネット被覆による被害抑制効果が認められた。

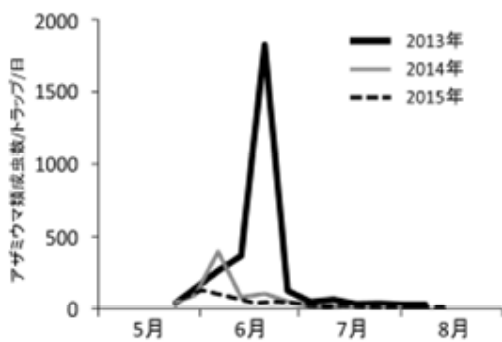


図3 イチジク圃場における青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長(2013-2015年、羽曳野市)



イチジクの果実被害



ネギアザミウマ



イチジクでの赤色ネットの被覆

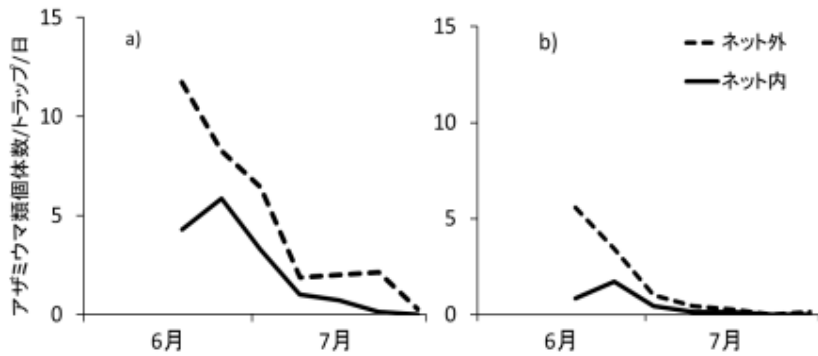


図4 イチジク圃場における赤色ネット内外の粘着トラップによるアザミウマ誘殺消長(2015年、岸和田市)。a) 青色粘着トラップ、b) 黄色粘着トラップ

ウ 水ナスの褐紋病の防除方法の確立

培養試験やポット苗試験で効果を認めたベンレート水和剤やベルコート水和剤を、所内および現地ほ場の水ナスに、7-15日間隔で4回散布し、12-13日後に褐紋病の発病を程度別に調査した。その結果、ともにベンレートの防除効果が高く、農薬登録のための有効試験例となった(図5)。地域限定の作物および病害であることから、有効試験例数の軽減を国へ要望し認められ、今年度までの2年間の試験例によりメーカーの協力を得て登録取得の見込みである。また、今年度までの成果をもとに、伝染経路に基づく防除対策マニュアルを作成した(図6)。

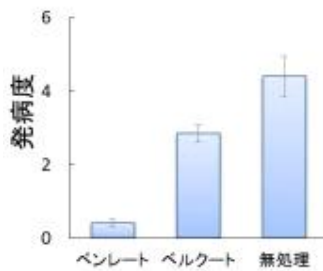


図5 現地ほ場における各農薬の褐紋病発生抑制効果



図6 褐紋病の防除対策マニュアル

エ ミツバのキノコバエの防除方法の確立

チバクロバネキノコバエの成幼虫に対する薬剤の殺虫効果を評価した。キノコバエ幼虫が発生しているミツバに薬液を散布して羽化成虫数を調査したところ、ダントツ水溶剤では羽化成虫がわずかに認められたが、個体数は少なく、殺虫効果は高かった。また、ミツバに薬液を散布した直後にキノコバエ成虫を放虫したところ、トレボン乳剤およびダントツ水溶剤は処理1日後に生存虫が全く認められず、殺虫効果は高かった(図7)。



チバクロバネキノコバエの成虫(上)と幼虫(下)

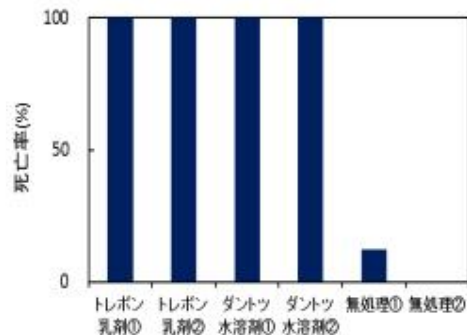
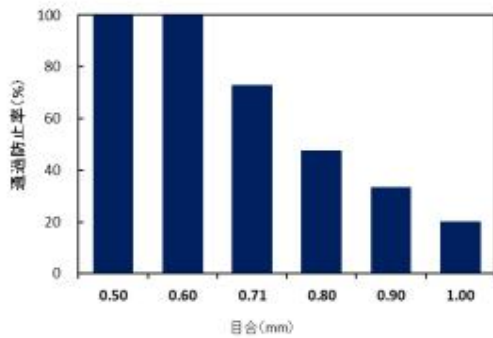


図7 薬剤散布によるチバクロバネキノコバエ成虫の死亡率

防虫ネットを用いたチバクロバネキノコバエの物理的防除法の開発するため、目合い 6 種類のナイロン網を張ったケースにキノコバエ成虫を入れて蓋を閉め、1 日後に残存成虫を計数したところ、成虫の通過防止率は目合 0.50mm と 0.60mm では 100% となり、0.6mm 以下の目合のネットにより通過を防止できることが明らかになり (図 8)、べたがけ処理による防除が可能となった。



ミツバのべたがけ処理

図 8 ネットの目合いとチバクロバネキノコバエの通過防止率との関係

④今後に向けた研究所の考え方

近年の病害虫の発生は、突発的、かつ同時多発的に発生することから、最新の診断および調査技術を用いた的確な判断に基づく防除対策の構築が必要である。天敵など生物農薬や物理的防除資材の活用による病害虫の制御技術やノウハウは、大阪エコ農業推進の観点から継続的な調査研究が不可欠であり、今後も新たな防除技術の開発と普及のためのマニュアル化を進める必要がある。

(2)「都市域におけるバイオマスの地域循環システム」(実績報告書 17ページ)
 高速汚泥処理技術の開発

①必要性

下水汚泥は、大阪府で排出されるバイオマスの40%を占める主要な資源であり、府の行政目標では、2025年に利用率を100%とすることを掲げている。しかし、現在の利用率は36%程度で、全国平均値(74%)の半分程度でしかないため、府の実情に即した汚泥利用率向上に資する技術開発は喫緊の課題である。メタン発酵は、汚泥を減容しつつエネルギー化できる優れた技術であるが、処理速度が遅いため大規模な施設が必要であり、普及が進まない。そのため、処理時間を大幅に短縮し、施設の小型化を可能にする技術を開発する必要がある。

②業務の具体的内容 (H27年度)

下水汚泥のメタン発酵の処理速度を向上させるために、膜分離工程を導入してSSの分離・除去と酸生成を両立させる膜分離可溶化槽とUASB法を組み合わせた膜分離高速汚泥処理(MRSD)システムの開発を目指した(図1)。平成26年度にモデル下水汚泥を用いて性能検証を行ったところ、TS減少率50%を2日の処理で達成した。そこでH27年度は、処理場への導入を目指し、実際の下水処理場汚泥を原料に用い、膜分離可溶化槽の性能検証を行った。

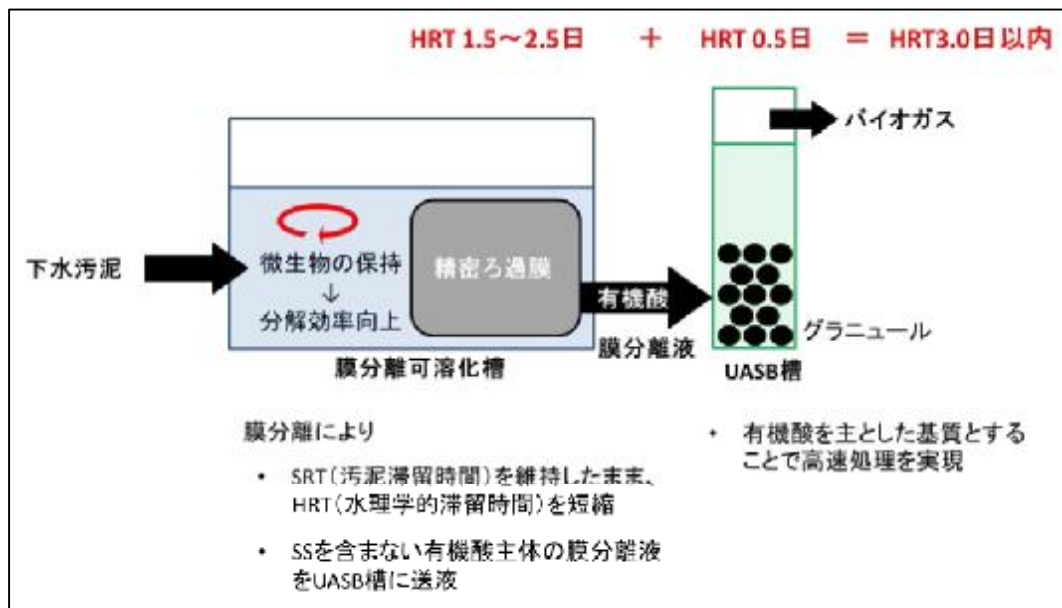


図1 膜分離高速汚泥処理 (MRSD) システム概要

③業務実施結果の概要 (H27年度)

下水処理場で採取した濃縮余剰汚泥と初沈汚泥を混合した、混合汚泥を原料に、試作した膜分離可溶化槽(図2)でHRT2.5日の連続運転を実施し、以下の結果を得た。

- ・ 汚泥の固形物減少率は、TSで40%、SSで50%となり(図3)、実際の下水汚泥を処理対象として用いた場合でも、昨年度のモデル汚泥の場合と同等の性能が示された。膜分離可溶化槽は従来の中温メタン発酵に匹敵する減容化能力を持つことが示された。
- ・ 膜分離液のCOD濃度は約4,000 mg/L、VFA濃度は約3,000 mg/Lとなり(図4)、膜分離可溶化槽により下水汚泥がUASB槽でのエネルギー回収に適した基質へと変換されることが示された。
- ・ 昨年度の実績として、UASB槽では上記と同程度のCOD・VFA濃度の膜分離液をHRT0.5日で、処理できることが示されているので、今年度の膜分離可溶化槽での成績を勘案すると、

トータル HRT3.0 日で下水汚泥の嫌気性処理が可能と考えられる。すなわち、従来 30 日かかる中温メタン発酵の処理時間を 1/10 に短縮できる可能性が示された。



図 2 膜分離可溶化槽外観

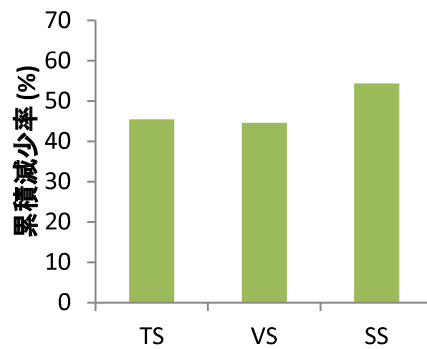


図 3 膜分離可溶化槽における汚泥減少率

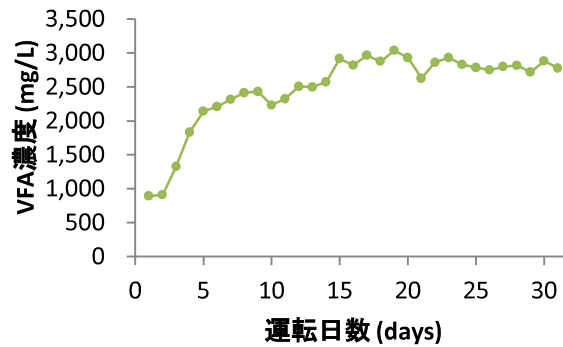


図 4 膜分離液の VFA 濃度

④今後に向けた研究所の考え方

今後、バイオガスの安定生産、廃熱の有効利用等を可能にする新しい処理システムの提案を行うとともに、長期運転データの蓄積を目指す。また、得られた知見をもとに、大学や民間企業とコンソーシアムを構築し、大型予算の獲得と段階的にスケールアップした実験プラントでの実証を目指す。

(3)「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の解明」(実績報告書 17ページ)
 大阪湾における栄養塩の適正管理と底生魚介類への影響に関する研究

①必要性

- 大阪湾では栄養塩濃度の低下とともに、シャコ、マコガレイ等の底魚類の漁獲量が減少しているが、両者の因果関係は、食物連鎖において様々な生物が介在するため明確ではない。このため、餌料生物を含めた動向調査によって因果関係を明らかにする必要がある。
- 大阪府を含む瀬戸内海関係漁連連絡会議は、栄養塩濃度の低下と漁獲量の減少の関係性を解明して、豊かな海を再生することを行政に要望しており、そのための研究は急務である。

②業務の具体的内容 (H27 年度)

栄養塩を適正に管理し、環境と生物生産の調和を図って豊かで美しい大阪湾を目指すために、流入負荷変動に伴う海域の栄養塩濃度変化の解析と栄養塩変化が食物連鎖に及ぼす影響の解析を進めた。H27 年度は以下の項目に取り組んだ。

- ア 河川の流下過程における有機態窒素化合物の動態把握
- イ 下水処理場等の栄養塩の発生源調査
- ウ 海域の難利用性有機窒素化合物の由来の解明
- エ 栄養塩から浮魚へ至る低次生態系の解析
- オ 大阪湾奥部海底の食物関係の解明
- カ 海洋生態系モデルによる食物網解析

③業務実施結果の概要 (H27 年度)

- ア 河川の流下過程における有機態窒素化合物の動態把握
 - 大阪湾の主要な窒素負荷源である琵琶湖・淀川水系の 3 地点 (図 1) で採取した試水について、生分解性試験を行い、流下過程における難分解性有機窒素 (当該窒素の性質からより適した表記として、以下「難利用性有機窒素」とする) の動態を調査した。年間を通じて、上流から下流に行くにつれて難利用性有機窒素濃度が高まることが明らかになった (図 2)。

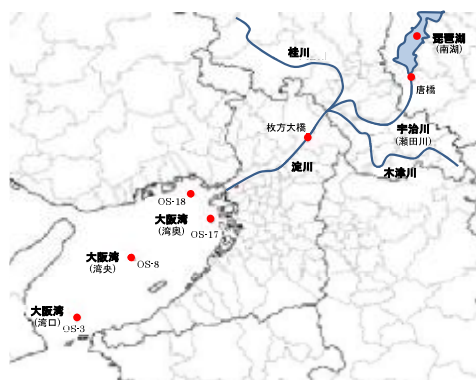


図 1 調査地点

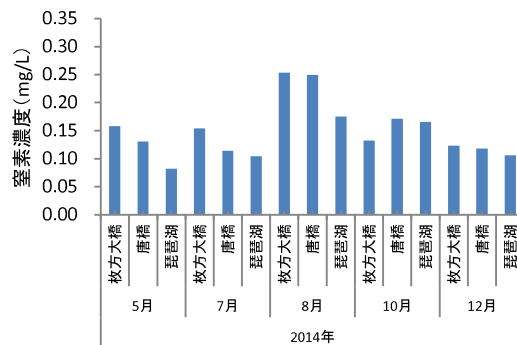


図 2 琵琶湖・淀川水系の難利用性有機窒素濃度

イ 下水処理場等の栄養塩の発生源調査

- 府域 6 箇所(今池MC, 中央MC, 鴻池MC, 湯島MC, 湯中MC, 湯島MC)の下水処理場放流水について、生分解性試験を実施し、難利用性窒素の割合について調査した。下水処理場放流水に含まれる難利用性有機窒素の割合は低く、全窒素の 90%程度が利用性窒素であった (図 3)。
- 標準活性汚泥法で下水処理されている鴻池 MC の放流水では、生分解試験前後で無機態窒素の割合が 83%から 92%に上昇したが、他の処理場の放流水ではほとんど変化しなかった。

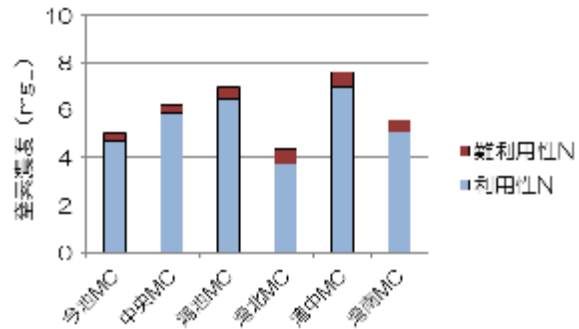


図 3 下水処理場放流水の生分解試験後の窒素の形態

ウ 海域の難利用性有機窒素化合物の由来の解明

- 琵琶湖・淀川水系の調査に合わせて、大阪湾の 4 定点で採取した表層水について生分解性試験を行い難利用性有機窒素の割合を調べた。年間を通じて、湾口では難利用性有機窒素の割合が高いことが明らかになった (表 1)。

表 1 大阪湾表層水の全窒素と難利用性有機窒素の比率

採水	OS-3		OS-8		OS-17		OS-18		
	TN (mg/L)	難利用性率 (%)	TN (mg/L)	難利用性率 (%)	TN (mg/L)	難利用性率 (%)	TN (mg/L)	難利用性率 (%)	
2014年	5月	0.16	50	0.17	46	0.39	24	0.34	30
	7月	0.21	43	0.21	40	0.66	26	1.12	19
	9月	0.16	48	0.19	46	0.20	30	0.55	20
	11月	0.20	82	0.21	34	0.47	69	0.57	30
2015年	1月	0.08	91	0.21	33	0.84	12	1.47	9
	3月	0.14	56	0.16	48	0.47	14	0.45	19

エ 栄養塩から浮魚へ至る低次生態系の解析

- 大阪湾における低次生物生産構造について明らかにするため、一次生産者(植物プランクトン)の年間平均現存量の経年変化をまとめた。年間平均現存量は 2000 年代以降、減少している可能性が示唆された (図 4)。

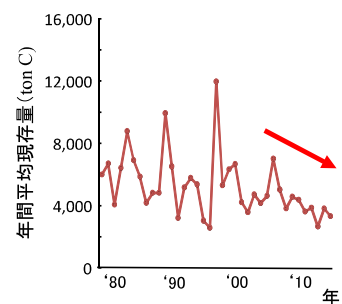


図 4 一次生産者の年間平均現存量の経年変化

オ 大阪湾奥部海底の食物関係の解明

- 大阪湾奥部で、2015年5月に底生魚類・メガベントスを、6月にマクロベントスを採集し、この海域におけるそれぞれの代表種（底生魚類：モヨウハゼ・ハタタテヌメリ、メガベントス：アカエビ・キセワタガイ、マクロベントス：シノブハネエラスピオ・シズクガイ）と漁獲量減少が著しいマコガレイ（漁獲物）の炭素・窒素安定同位体比分析を行い、食物関係を解析した。

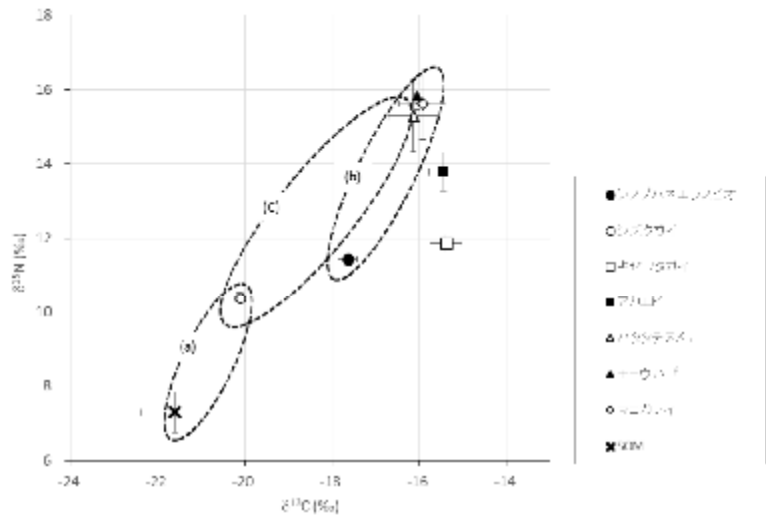


図5 δ¹³C・δ¹⁵Nによる食物網関係（点線部）

炭素安定同位体比

(δ¹³C)と窒素安定同位体比(δ¹⁵N)の分析値から汚染指標種の多毛類シノブハネエラスピオは、マアナゴなどの餌となる小型底生魚類のモヨウハゼ、ハタタテヌメリの食物となっているだけでなく、漁獲量減少が問題となっているマコガレイの食物であることが推定された。汚染指標種の二枚貝シズクガイもハタタテヌメリの食物となっている可能性が示唆された。また、シズクガイは海底堆積物中有機物(SOM)を食物していることも示された(図5)。

カ 海洋生態系モデルによる食物網解析

- 海洋生態系モデル(エコパス)を使用して、瀬戸内海東部海域について1983年、1998年、2013年における食物網モデルを構築した。構築した3世代間のモデルを比較したところ、栄養段階2(動物プランクトン、ベントスなど)から栄養段階3(イワシ類、イカナゴ、甲殻類、ベントス食魚類など)への転換効率が1983年から1998年の間に大きく減少しており、漁獲量の現存量や漁獲量の低下に影響しているのではないかと推察された(図6)。

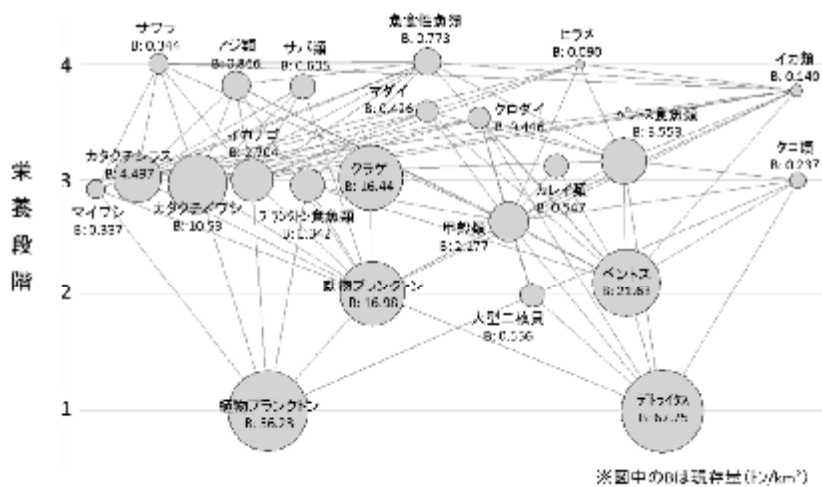


図6 2013年の瀬戸内海東部海域について構築した食物網モデル

④今後に向けた研究所の考え方

流入負荷変動に伴う海域の栄養塩濃度変化の解析として、河川の流下過程における有機態窒素化合物の動態把握について調査研究を進める。栄養塩変化が食物連鎖に及ぼす影響の解析として、① 栄養塩から浮魚へ至る低次生態系の解析、②底生魚介類の食物網の解析等の調査研究を進める。また、望ましい栄養塩環境についてのシミュレーションができる流動モデルや、大阪湾において食物網解析を行うことの出来る生態系モデルの構築を目指す。

1 5 新たな研究分野への取組

a 農林水産業の六次産業化の促進支援

(1) 府内産農産物の商品化に関する技術開発（大阪産（もん）チャレンジ支援事業） （実績報告書 18ページ）

①必要性

「大阪産（もん）」の生産・流通・消費を拡大するため、「大阪産（もん）」を使用した商品の開発・改良などの事業者の取組に対して、研究所が技術面から支援を行い、それにより大阪府内の農林水産業・食品産業の振興を図る。

②業務の具体的内容（H27 年度）

大阪産（もん）の6次産業化等をテーマに、「大阪産（もん）」の生産・流通・販売を行う事業者などに新商品の開発企画など公募し、外部審査で採択された事業計画（5課題）に対して、実現に必要な支援を研究所が行った。

③業務実施結果の概要（H27 年度）

<若年層向けドリンク「ビューティー&エネルギーチャージ」として、「包近の桃」と「甘糰」を活用した飲料の開発>

自社で製造している甘酒（「甘糰」）に「包近の桃」のペーストを加え、若者向けのドリンクの開発を目指した。開発途上、桃山学院大学の協力を得て、試飲アンケートなども行い、ターゲットを30代女性に絞り、おいしくて、飲みやすい、健康的なドリンクの開発を目指した。開発されたドリンクは、多種類のアミノ酸がバランス良く含まれた飲料となった。



桃甘酒ドリンク

<いつでも美味しい・泉州水なすのフリーズドライキムチ>

年中水ナスを味わえるキムチの開発を目指した。最終的には、水ナスのキムチスープもしくは水ナスキムチのお茶漬けとして商品開発を進めた。開発された商品は、スープやお茶漬けの素として利用できる、長期保存が可能なフリーズドライ商品となった。



キムチスープの素

<大阪産（もん）わかめの茎の佃煮>

わかめの茎をメイン食材とした佃煮で、糖類を調整することで保存性を高める技術開発を行った。その結果、水分活性や糖度を分析しながら、製造工程やレシピを見直すことで、安心・安全な大阪産（もん）わかめの茎煮を開発した。



茎わかめの佃煮

<大阪新名物 だしまき プロジェクト!!だしまきを大阪の新しいお土産物として売り出すための開発>

自社で企画開発しただしまきの出汁を活用して、お土産用の冷凍だしまきの開発を目指した。加工用でんぷんを使用せずに、食感が良く、解凍しても離水しにくい冷凍だしまきを開発した。また、新たな食感のだしまきの製造方法も開発した。



新食感冷凍だしまき

<大阪産（もん）果物を使った、千早赤阪村のお土産 おとなのおやつ 半生タイプの新食感フルーツボンボンの開発>

手をつまめる、果実が入ったお土産物の開発を目指した。みかん、キウイ、いちごのグラッセが入った丸いゼリーを開発した。それぞれにお酒のフレーバーを付け、大人向けのお菓子となった。



フルーツボンボン

【H27年度までの商品開発の状況】

- 黒字 : 共同開発製品名
- 赤字 : 共同開発事業者
- 青色ぬり : 商品化済み
- 緑色ぬり : 商品化検討中

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
玉葱おこげ 七庭本店 	みかンドレッシング 富田林市 生活改善クラブ 	水なすのジャム 川崎農園 	南河内スイーツ 喜多農 ますだジャム 	桃甘酒ドリンク 南宗味噌 株式会社 
止り呂美柚子・包近桃の キャンデー 豊下製菓 	ふき水煮 JA大阪泉州 	泉州水なす塩 Flour bee 	彩管ブレッド 米麦館 タマヤ 	水なす キムチスープ カドヤ 
ドライイチジク 果樹振興会 KUREディース 	イチジク グラッセ ㈱かつら屋 	白みそドレッシング 農事組合法人 かなん 	水なす カクテルシロップ 株式会社トータス 	わかめ茎煮 横田水産 
ウメビーフ コロッケ ウメビーフ協議会 	水なす お茶漬の素 堺共同漬物㈱ 	ミニ水なす 丸ごとピクルス 日本スチールワイヤロープ㈱ 	カリカリ胡瓜 JAPAN 総合ファーム 	冷凍だしまき 株式会社 ミレニアムダイニング 
泉だこのやわらか煮	八尾えだだめ スイーツ ㈱瓢月堂 	紅たで ジンジャーシロップ お野菜料理 ふれんちん 	デラウェア 飲むジュレ 葡萄園たちばなや 	フルーツ ボンボン あうる工房 
タモロコの佃煮	シャコ・トピアラ・ 穴子のふりかけ	服部しろり粕漬けの スナック菓子 服部しろり生産部会 		

④今後に向けた研究所の考え方

今後も、府と協議して府内の農林水産業振興および食品産業支援のため農林水産業の6次産業化・農商工連携に関わる支援を強化していくことを検討。

(2) 大阪府内農林水産物のブランド化促進（キジハタ資源の増大）（実績報告書 19ページ）

① 必要性

大阪府がブランド化を進めている高級魚キジハタ（地方名「あこう」）は、漁獲量が少なく安定的な供給が出来ていない。そのため、10万尾の安定的種苗放流による資源増大を目指しているが、受精卵の安定生産が課題となっている。また、販売戦略の構築のための流通の把握とブランド化の基準を決める必要がある。

② 業務の具体的内容（H27年度）

- ・受精卵安定供給のために昨年度整備した新規親魚水槽の試験
- ・ブランド化基準候補としての脂質含有量測定
- ・販売戦略構築のための流通調査による情報収集

③ 業務実施結果の概要（H27年度）

- ・新規親魚水槽にて採卵試験を行い、必要とする良質な受精卵を供給可能な機能を持つことを確認した。
- ・脂質含有量の測定を行い、天然個体では個体間のばらつきが大きいこと（図1）、飼育個体の通年の測定から初夏と晩秋に高くなること（図2）を明らかにした。
- ・流通調査から大阪産の流通量は少なく入手が困難であり、流通経路の統一化が市場では望まれていた。

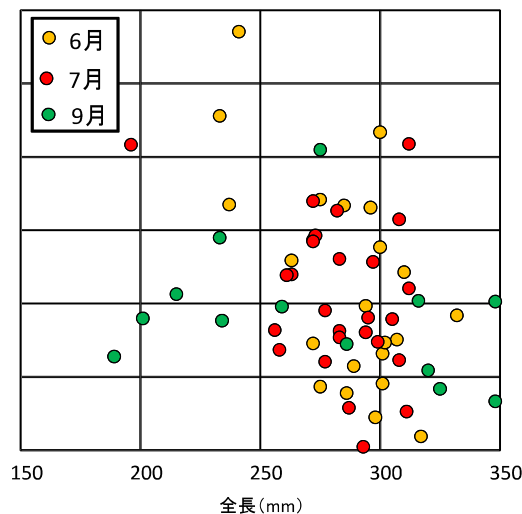


図1 天然個体の脂質含有量

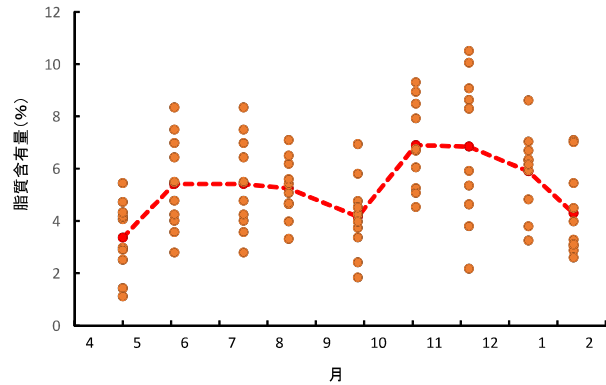


図2 脂質含有量の季節変化(飼育個体)

④ 今後に向けた研究所の考え方

整備した親魚養成水槽を用いて安定的な種苗量産技術を確立させるとともに、品質向上に向けて種苗生産の過程で発現する形態異常の防除技術開発を行う。また脂質含有量をブランド化の品質基準とするため、他県産個体の測定等を行い、知見の蓄積を行う。

b 新たな環境汚染への対応

(1) PM_{2.5}対策等に係る発生源及び環境中の動態の解明（実績報告書19ページ）

① 必要性

H24年度より常時監視を本格的に実施している微小粒子状物質（PM_{2.5}）は、環境基準の達成率が極めて低い状況にある。PM_{2.5}の低減対策の方向を導き出すためには、汚染実態の把握と高濃度メカニズムの解明が必要である。

② 業務の具体的内容（H27年度）

成分測定結果を用いた Positive Matrix Factorization（PMF）法による発生源の推定を行うため、当研究所が参画している国立環境研究所と地方環境研究所とのⅡ型共同研究「PM_{2.5}の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」において取り決めた解析手順に沿って、大阪府域の成分測定結果を用いて解析を行い、Ⅱ型共同研究の参加機関の解析結果との比較を行った。さらに、東アジア規模の大気汚染移流の寄与の量的把握を行うため、広域気象モデル(WRF)、化学輸送モデル(CMAQ)を導入し、国立環境研究所が作成した発生源テストデータを用いて計算を行った。

③ 業務実施結果の概要（H27年度）

大阪府・大阪市・堺市のH24～26年度の成分測定結果（のべ955日分）を用いてPMF法による解析を行った結果、6つの因子（発生源）に分かれた。季節によって発生源因子の寄与割合が異なり、春季および夏季は石炭燃焼・重油燃焼、秋季は道路交通+バイオマス燃焼、冬季は塩化物・硝酸系二次粒子の寄与が他の季節に比べて大きかった（図1）。Ⅱ型共同研究の参加機関の解析結果においても概ね同じ発生源因子が抽出された。発生源因子の分け方は地域によって異なっていたが、重油燃焼+硫酸系二次粒子の因子はどの地域においても単独で抽出されていた。また、大阪・兵庫・名古屋・神奈川の都市域では塩化物+硝酸系二次粒子の寄与濃度が大きかった（図2）。

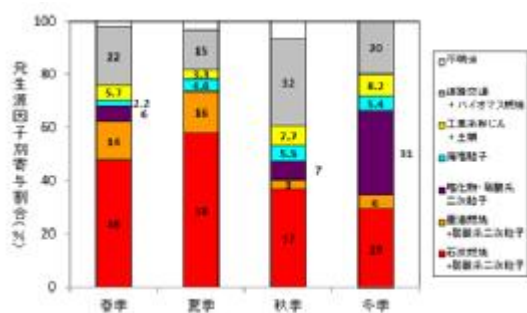
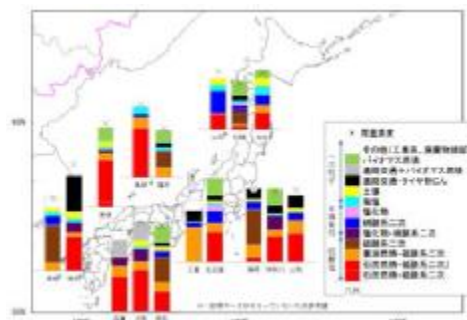


図1. PM_{2.5}濃度に対する発生源因子別寄与割合
(H24～26年度季節平均・大阪府域)



※Ⅱ型共同研究による成果

図2. 発生源因子別寄与濃度
(H25年度年平均・全国)

大気汚染シミュレーションのうち、気象モデルによる計算をH25年1年間にわたって行った。また、化学輸送モデルによる計算を、H25年のPM_{2.5}成分測定時期について計算を行った。計算は、東アジア域(60kmグリッド)、日本周辺域(15kmグリッド)、関西域(3kmグリッド)について行い、発生源データは国立環境研究所作成のものを用いた。図3に気象モデルによる風況再現図を、図4にPM_{2.5}濃度分布計算結果を示す。地上測定データとは良好な相関を示した。

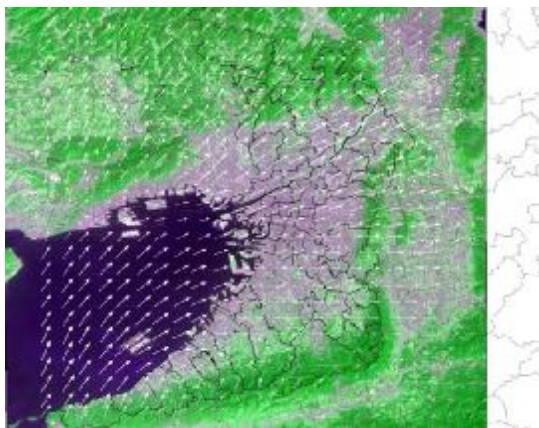


図3. 気象モデルによる風況計算結果
(H25年7月26日16時JST)

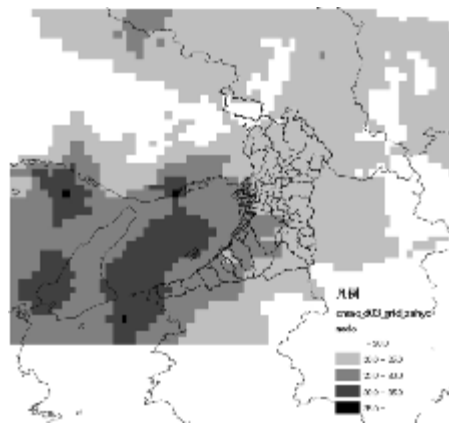


図4. 化学輸送モデルによるPM_{2.5}分布
(H25年7月27日 日平均濃度)

④ 今後に向けた研究所の考え方

- ・PMF法による成分測定結果を用いた発生源推定の手法は、用いるデータによって、因子数や各因子の中身がかわってくるため、引き続き、手法の検討を行い、精度の向上をめざす。
- ・大気汚染広域シミュレーションモデルの化学反応系などの精緻化を行い、再現精度向上を目指す。また、高濃度時の計算を行うことで、汚染メカニズムの解明を行う。国内外の発生源寄与について、数量的把握を行う手法を確立するとともに、国内外の発生源情報の収集を行い、実データを用いた計算を行う。

(2) 事業所が排出する有害化学物質の影響 (実績報告書 19ページ)

① 必要性

環境リスクが高い有害大気汚染物質等の事業所からの排出削減や化学物質リスクコミュニケーションを推進していくためには、事業者の自主的取組を支援していかねばならない。そこで、事業者が実施した対策を評価し、事業者の意欲向上を図ることを目指す。また、効果的に対策削減を進めていくために、重点的に指導に取り組む物質や地域、事業者を絞っていく必要がある。

② 業務の具体的内容 (H27年度)

H17年度から測定結果がある以下の4地点の年平均の大気濃度と、P R T R法に基づき集計された大阪府域全域における大気への届出排出量及び届出外推計排出量を比較検討した。有害大気汚染物質モニタリング調査において、2月度調査で富田林市役所のテトラクロロエチレンが高濃度で観測された要因を検討した。国設大阪において、揮発性有機化合物の環境大気中濃度と最大オゾン生成能の積からオゾン生成推計濃度を試算した。

③ 業務実施結果の概要 (H27年度)

i. 有害大気汚染物質濃度とPRTR排出量データの経年変化

大気への排出量が多い有害大気汚染物質について、大気濃度との比較検討を行った。一般局における大気濃度の平均値及び自排局における大気濃度と、P R T Rの届出排出量、届出外排出量及び排出量合計の相関係数を表1に示した。大気濃度と排出量合計の相関は、一般局ではベンゼン、キシレン、ジクロロメタン、トリクロロエチレンで高く、自排局ではベンゼン、ジクロロメタン、キシレン、トルエンで高かった。また、ベンゼンを除き届出排出量との相関が高かった。

いずれの物質の届出排出量と届出外排出量の合計は減少傾向であり、環境濃度については長期的には減少傾向にあるが、ここ5年程度は横ばいの物質もみられている。

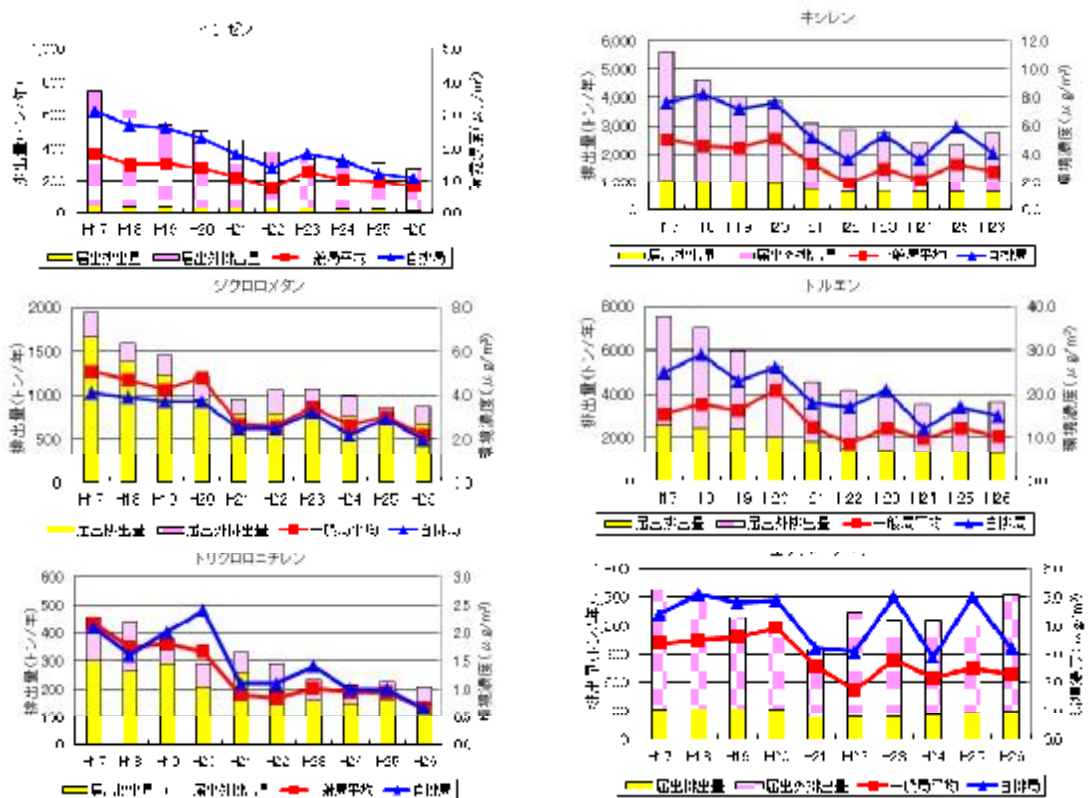


図1 大気濃度とP R T R排出量データの経年変化

表 1 大気濃度と排出量の相関係数

		排出量合計	届出排出量	届出外排出量
トルエン	一般局平均	0.7207	0.7872	0.6728
	自排局	0.8574	0.8550	0.8421
ジクロロメタン	一般局平均	0.8748	0.8638	0.4494
	自排局	0.8788	0.8722	0.4087
キシレン	一般局平均	0.8813	0.9640	0.8494
	自排局	0.8832	0.9600	0.8525
ベンゼン	一般局平均	0.8977	0.8207	0.8970
	自排局	0.9583	0.9062	0.9559
トリクロロエチレン	一般局平均	0.8362	0.7937	0.7318
	自排局	0.6264	0.6426	0.4731
エチルベンゼン	一般局平均	0.1398	0.8052	-0.0328
	自排局	0.2507	0.6250	0.1318

ii. 有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点の要因の検討

有害大気汚染物質モニタリング調査において、2月度調査で富田林市役所のテトラクロロエチレンが他の地点と比べて高濃度で観測された要因を風向・風速・気温等の気象データ及びPRTR排出量データから検討した。採取期間中の主風向は北で、半数以上が北寄りの風であった(図2)。

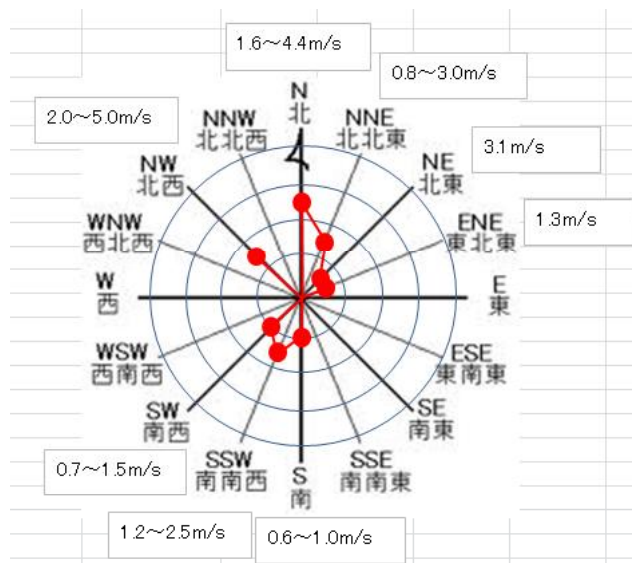


図 2 採取期間中の富田林市役所の風配図

富田林市役所での平均風速は1.9m/秒と弱かったが、2日16時に急に風が強まり、22時にかけて風の強い状態が続いた。大気が拡散しやすい状況であった。一般に大気が100m上昇すると温度は0.60~0.65℃下がることから、大阪管区气象台(標高23m)とアメダス生駒山(同626m)の理論上の気温差は約3.5~4.0℃となり、両地点の気温差がこれより小さいと大気が安定し上空に拡散しにくいと考えられる。3日7時を除き、両地点の気温差が4.0℃を上回っていたことから、大気が不安定で拡散したと考えられた(図3)。

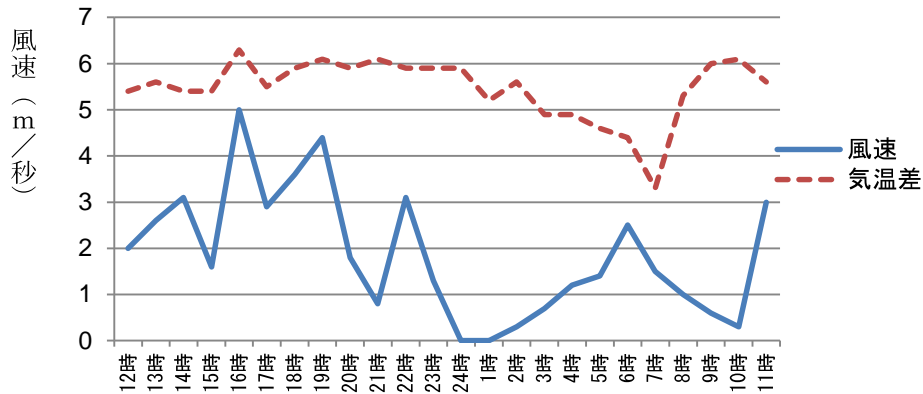


図3 大阪管区気象台とアメダス生駒山との気温差及び富田林市役所の風速

周辺の発生源を調査したところ、富田林市役所の南東約 500m に年間 1,900kg のテトラクロロエチレンを大気に排出する PRTR 届出事業所（洗濯業）があるが、採取期間中に南東方向からの風は観測されず因果関係は明らかにできなかった。

iii オゾン生成推計濃度の経年変化

トルエン、ジクロロメタン等オゾン生成推計濃度が高い VOC13 成分について、経年変化を示した（図4）。長期的にみると、オゾン生成推計濃度は概ね減少傾向にあるが、H21 年度以降は横ばい傾向である。成分ごとのオゾン生成推計濃度はトルエン、キシレンの他にアルデヒド類が高い割合を示していた。

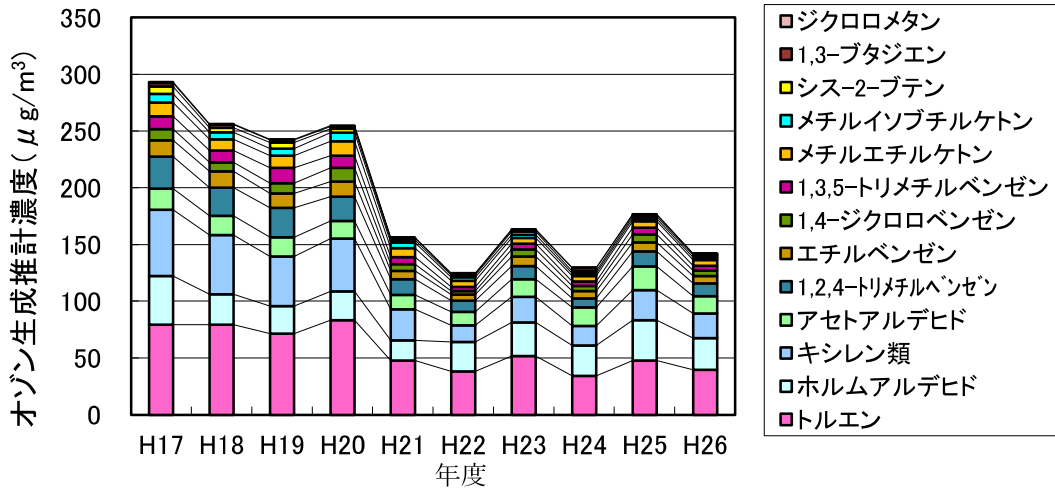


図4 オゾン生成推計濃度の経年変化

④ 今後に向けた研究所の考え方

事業所からの化学物質の排出量が府域や事業所周辺に及ぼす影響を検討する。有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点の要因を解明する。

(3) 有害化学物質による環境汚染状況の把握に必要な調査分析技術の開発 (実績報告書 19 ページ)

① 必要性

有害化学物質による新たな環境汚染へ対応するためには、環境汚染状況の把握に必要な調査分析方法を開発する必要がある。また、分析法開発調査への取り組みを進めることで、未知の化学物質汚染に即応できる技術基盤を確立することが可能となる。

② 業務の具体的内容 (H27 年度)

PRTR 法の第一種指定化学物質に指定されている「アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム」について、化学物質環境実態調査の中で環境省が示す要求感度を満たした底質及び生物試料における分析方法の開発を行う。

③ 業務実施結果の概要 (H27 年度)

- ・前処理に用いる固相抽出カートリッジからのブランクレベルの高い原因がジクロロメタンにあることを突き止め、アセトン/ヘキサン系でのブランクの低減方法を完成させた。
- ・試料への添加回収試験では、イオンペア剤とアセトン/ヘキサンに少量のトルエンを加えることで全てのアルキル鎖長で高い回収率を得ることができた。
- ・まだ各工程での作業が慣れていない部分があり、変動係数が高い。(実試料では液液分配でエマルジョンができる等)。
- ・サロゲートの回収率が異常に高くなった。

④ 今後に向けた研究所の考え方

- ・実試料を用いたMDL (測定方法の検出下限) の測定を実施予定。
- ・変動係数の高い要因として、工程上の問題点を探し出し、改善を行う予定。
- ・エマルジョンができないように先にクリーンアップを行い、夾雑成分を取り除く予定。
- ・検量線用標準物質にもイオンペア剤を添加し、サロゲートの回収率を 100% に近づけるよう検討予定。

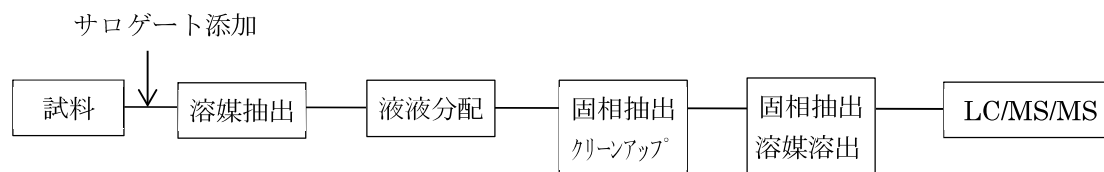


図 1 分析方法のフローチャート

(4) 廃棄物処分場排水の1,4-ジオキサン対策の検討(実績報告書20ページ)

①必要性

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令が改正(H25年6月に施行)され、廃棄物処分場の排水、周縁地下水および浸透水に1,4-ジオキサン等の新たな化学物質の基準が追加された。これを受けて、府内の処分場における汚染実態を調査した結果、1,4-ジオキサン検出事例が発生した。

このため、府民の健康被害や環境汚染を速やかに防止・改善するため、現地調査および室内実験を行い、この処分場における1,4-ジオキサンの汚染源の究明、汚染水の環境中への排出経路の推定を行うとともに、効果的かつ効率的な処理方法を検討し対策に資する必要がある。

②業務の具体的内容(H27年度)

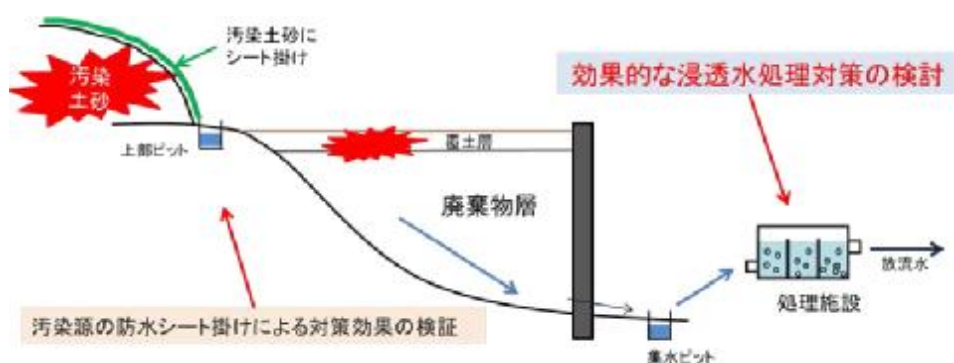


図1 H26~27年度調査の概要

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令が改正(H25年6月に施行)され、廃棄物処分場の浸透水の基準に1,4-ジオキサンが設定された。府内の1,4-ジオキサンによる汚染が認められた処分場について、周辺環境保全のため、微生物による処理を促進させ、効果的かつ効率的な浸透水の処理対策に資するため、以下の試験研究を行った。

- (1) 室内実験により、微生物による1,4-ジオキサン分解の速度および温度依存性を確認する。
- (2) 微生物担体を現地投入し、浸透水中の1,4-ジオキサン処理を促進する。

③業務実施結果の概要(H27年度)

- (1) 微生物による1,4-ジオキサン分解の速度および温度依存性の確認

微生物の働きで、1,4-ジオキサン濃度が低下することが示唆され、微生物による1,4-ジオキサンの低下速度は $10^{\circ}\text{C} < 20^{\circ}\text{C} < 30^{\circ}\text{C}$ となり、水温と反応速度との関係が明らかとなった(図2)。

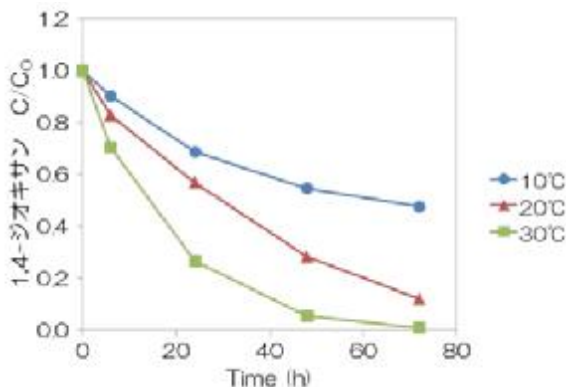


図2 室内実験の結果(C/C₀は初期濃度との比を示す)

(2) 微生物担体の現地投入による浸透水処理の促進

9月から10月にかけて担体を入れた第2槽での1,4-ジオキサン除去率が向上し、10月には57%となった(図3)。気温の低下する12月や1月は、1,4-ジオキサン除去率が低下したものの、3℃の水温であっても処理時間が1~2日で25%程度の1,4-ジオキサン濃度の低下が確認された。これらの結果から、微生物担体を投入することにより、現地における1,4-ジオキサンの処理効率が向上することが明らかとなった。

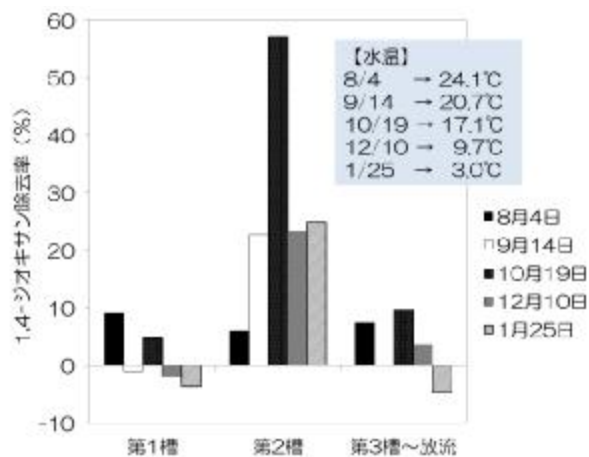


図3 処分場水処理施設での1,4-ジオキサン除去率

④ 今後に向けた研究所の考え方

(1) 年間を通じての水処理施設の1,4-ジオキサン除去の安定性の確認

現地処分場での年間を通して、モニタリングすることで、1,4-ジオキサン除去の安定性を確認する。

(2) 1,4-ジオキサン分解微生物の解析および分解経路の解明

微生物による1,4-ジオキサン処理の効率化のため、大学等の他機関との協力により、1,4-ジオキサン分解微生物の同定やこの微生物による分解する経路を明らかにする。

(3) 他の汚染場所(安定型処分場等)への適用検討

他の汚染場所への適用を検討するため、1,4-ジオキサン以外の排水の水質が、微生物による分解に与える影響を明らかにする。

(5) 寝屋川流域における浮遊汚泥（スカム）発生機構の解明

①必要性

寝屋川流域ではスカムの発生により河川景観の悪化を引き起こし、周辺住民からの苦情が多く寄せられている。目的を達成することにより、府内の河川および府民の生活環境の改善に貢献できる。府の管理する寝屋川流域で発生している現象であり、当所が解決すべきである。

②業務の具体的内容（H27年度）

- (1) 寝屋川流域内で降雨後に河川水が停滞しやすい場所の特定に向けた情報収集の実施
- (2) スカムや河川底泥の成分分析、顕微鏡調査および微生物解析
- (3) スカム発生メカニズム解明のためのスカム浮上実験の実施

③業務実施結果の概要（H27年度）

(1) 寝屋川流域内で降雨後に河川水が停滞しやすい場所の特定に向けた情報収集の実施

H27年3月から11月の間で降雨の1~2日後に延べ20日間程度平野川においてスカムが目視で確認された。H27年6月4日に平野川衛門橋においてスカム浮上動画を撮影し、底質から発生するガスとともにスカムが浮上することを確認した。

(2) スカムや河川底泥の成分分析、顕微鏡調査および微生物解析

発生直後のスカムの強熱減量は40%であり、スカム発生時の底質の強熱減量は26%であり、底質の有機物含有量は昨年度までの調査地点のものと比較して高かった（図1）。したがって、スカム発生時の底質の強熱減量は他の地点の底質と比較して高いことが示唆された。スカム発生時の底質からはスカムで見られる蛍光の繊維状成分が見られた（図2）。これらの結果から、スカム発生時の底質はスカムの性状とかなり近く、他の地点の底質とは明らかに異なることが示唆された。

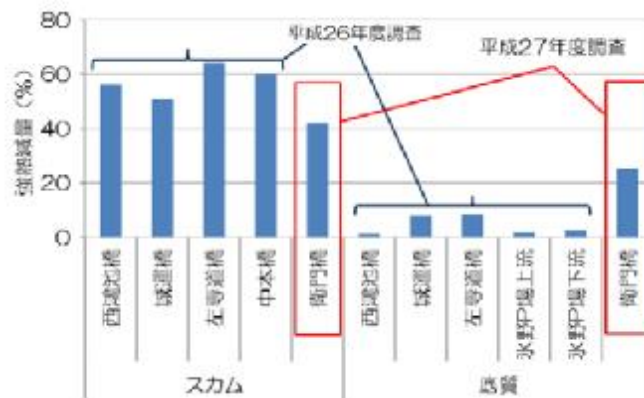
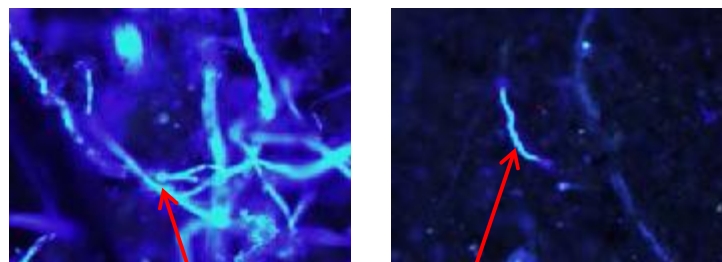


図1 スカムおよび底質の強熱減量



紫外光を当てると青く発色する蛍光特性を有する

図2 平野川衛門橋のスカム（左）と底質（右）の顕微鏡写真

(3) スカム発生メカニズム解明のためのスカム浮上実験の実施

H27年7月3日の平野川衛門橋のスカムおよびスカム発生時の底質を実験室に持ち帰り、スカムのみを入れ平野川河川水中に沈降させた試験区（スカム区）、スカムおよび底質を入れ野川河川水中に沈降させた試験区（スカム+底質区）、および底質のみを入れ野川河川水中に沈降させた試験区（底質区）を設定し、スカム浮上実験を行った。

1日後にスカム区およびスカム+底質区ではスカム様物質が浮上したが、底質区はまったく浮上しなかった（図3）。スカムの発生メカニズムの解明には至っていないものの、実験的にスカムを再現できる可能性が示唆された。



図3 スカム浮上実験前後の写真

④ 今後に向けた研究所の考え方

H28年度は、府環境管理室、河川室、下水道室、大阪大学、近畿大学等と協力し、寝屋川水系において以下の調査を実施する。

- (1) シミュレーションや観測による降雨時の河川水および汚濁物質の停滞しやすい場所特定の検討
- (2) 浮上実験によるスカム発生メカニズムの解明
- (3) 微生物解析によるスカム発生要因の定性的な抽出

c 生物多様性の保全

(1) 野生生物被害対策調査（シカ・イノシシのモニタリング調査）（実績報告書 20ページ）

①必要性

シカやイノシシなどの野生動物による被害が深刻化する中、都道府県や市町村では、鳥獣保護管理法に基づく第二種鳥獣管理計画などにより適切に野生動物の管理を進めることが求められている。そのためには野生動物の生息状況や被害状況を的確にモニタリングする必要がある。

そこで、府内におけるシカ・イノシシの生息分布とその経年変化、対策の効果などを明らかにし、大阪府シカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の策定や進捗状況の点検、見直しのために必要な基礎資料を提供する。また、府内の市町村等の鳥獣被害に係る対策策定や研修等に役立てる。

②業務の具体的概要（H27年度）

- ・ 狩猟者の出猟カレンダーから目撃効率等を算出する。
- ・ 北部地域 104 ヶ所でのシカ糞塊調査からシカ生息密度分布を推定し、推定生息数を算出する。
- ・ 府内全農業集落を対象とした「農業被害アンケート」から出没頻度、被害強度、獣害対策への取り組み状況等を解析する。
- ・ 森林植生被害調査として、北部地域の広葉樹林計 99 ヶ所で下層植生衰退度や土壌浸食状況を現地調査する。

③業務実施結果の概要（H27年度）

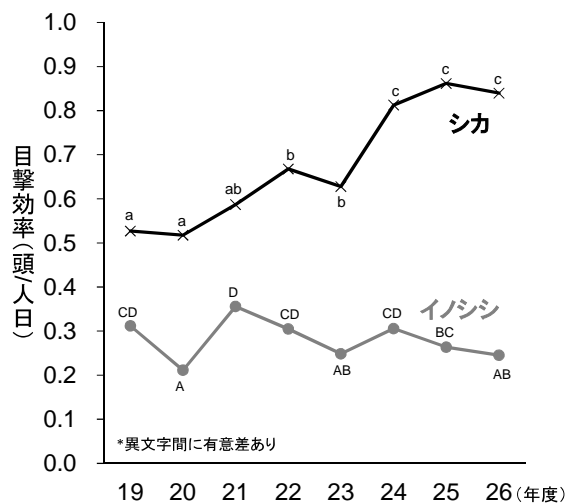


図1 銃猟狩猟者によるシカとイノシシの目撃効率*の変化

*狩猟者1人が1日あたりに目撃した頭数

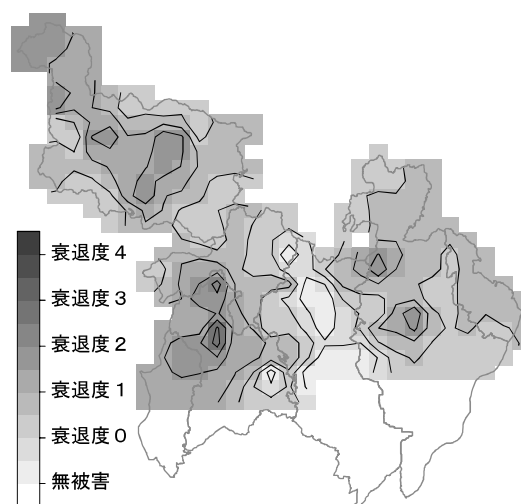


図2 シカによる森林下層植生の衰退度分布図

・シカの生息状況

目撃効率が増加していることから（図1）、シカの生息数は増加傾向にあると考えられた。一方でここ3年間はほぼ一定で推移していることから、捕獲圧の増加により密度増加が抑制されている可能性が示唆された。また、シカ高密度地域である能勢町、箕面山域、高槻市の3地域を中心に森林植生の衰退が進行していることが明らかになった（図2）。

- ・イノシシの生息状況

目撃効率がほぼ一定であることから（図 1）、イノシシの生息数に大きな変動はないと考えられた。その一方で、アンケート出沒頻度の変化などから、北・中河内地域を中心に分布域が拡大傾向にあることが分かった。

④今後に向けた研究所の考え方

継続的な調査から生息状況や被害状況の経年変化を明らかにするとともに、生息頭数の推定や、被害状況に対する生息密度低減効果や被害防除効果の解析を進める。

研究成果の普及先等

- ・市町村鳥獣行政担当者会議
- ・鳥獣被害防止総合対策事業の評価（交野市・羽曳野市・富田林市・河内長野市・河南町）
- ・明治の森箕面自由休養林管理運営協議会
- ・大阪市立自然史博物館学芸ゼミ
- ・芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク
- ・大阪府環境審議会野生生物部会
- ・J A 営農・農政担当部課長会議
- ・関西地区林業試験研究機関連絡協議会
- ・林業指導普及員担当者会議
- ・シカ・イノシシ保護管理検討会

(2) 天然記念物イタセンパラの野生復帰（実績報告書 20、26 ページ）

①必要性

現在、研究所では大阪府内の生物多様性保全のシンボルとしてイタセンパラを位置づけ、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所と共同プロジェクトとして、淀川への野生復帰を目指している。その取り組みを推進するため、放流に用いるイタセンパラの増殖、淀川の放流候補地での外来魚の駆除や環境改善などに関する調査研究が求められている。また、得られた研究成果を継続的に活用するため、市民参加型の保全体制の構築も必要となっている。



②業務の具体的内容（H27 年度）

- ・ 淀川に野生復帰したイタセンパラの生息状況をモニタリングする。
- ・ 外来魚のブラックバスやブルーギル等を駆除し、放流場所の生息環境を改善する。
- ・ 市民参加型の保全活動が安定的に継続するための仕組みづくりを整える。

③業務実施結果の概要（H27 年度）

淀川の城北ワンド群（大阪市旭区）の一部において、外来魚の割合を 2～3 割程度までに減少させることに成功したことに加え、市民団体や企業、大学、行政の計 39 団体からなる「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」による野生復帰支援体制が整ったことから、H25 年 10 月に城北ワンド群の一部において、当研究所で育成したイタセンパラの親魚 500 尾を放流した。放流式には、地元の小中学生の児童生徒等を招き、公開で行なった。



その結果、翌 26 年春には 750 尾、27 年には 502 尾のイタセンパラの稚仔魚が確認でき、自然環境下の繁殖を確認した。その後、市民活動を支援し、継続的に外来魚の駆除を実施したところ、外来魚の割合を平均で 20%程度までに抑え込むことに成功した。

④今後に向けた研究所の考え方

- ・ イタセンパラの安定した定着を目指して、今後も、淀川河川事務所と共同で野生復帰プロジェクトを進める。
- ・ 「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」を先導し、イタセンパラ野生復帰の取り組みを進めるとともに、よりいっそう府民が生物多様性保全の取り組みに参画しやすい仕組みづくりを整える。

16 研究活力向上支援事業採択課題（実績報告書21ページ）

No.	課題名	研究分野	研究成果を利用して応募した競争的資金名（一部応募予定を含む）
1	アメリカミズアブの牛ふん飼育大規模化と物質収支算定	重点分野「都市域におけるバイオマスの地域循環システム」に係る分野	環境研究総合推進費、科研費 新学術領域研究、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業、革新的技術開発・緊急展開事業（先導プロジェクト）
2	紫外光(UV-B)照射および抵抗性誘導剤によるキュウリのウイルス性急性萎凋症の抑制	重点分野「安全・安心な特産農産物生産を目指した総合的作物管理(ICM)技術」に係る分野	平成28年度岡山大学資源植物科学研究所共同研究課題募集
3	シュンギク紫斑点症の原因元素の特定および発生を助長する温度条件の検証	新たな研究分野「その他」	科研費 研究活動スタート支援、松島財団 平成27年度・第42回研究助成
4	機能性成分の富化を目的としたコメ糖化飲料への米糠の利用	新たな研究分野「農林水産業の六次産業化の促進支援」に係る分野	なし

17 外部研究資金応募実績(実績報告書22ページ)

No.	機関名	外部資金名	研究体制 (代表機関/ 共同機 関)	テーマ	採択	
環境情報部	1	(公財)日本生命財団	学際的総合研究助成	共同研究	大気微粒子(PM2.5等)の化学組成変動のマイクロ分析による解明	
	2	日本学術振興会	科学研究助成事業 基盤研究C	代表機関	降水量変動が植生の揮発性炭化水素放出に及ぼす影響の解明	○
	3	(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構	水質保全研究助成	代表機関	琵琶湖・淀川流域の流下に伴う難分解性有機窒素成分の変化に関する研究	○
	4	日本学術振興会	科学研究助成事業 萌芽研究	共同研究	微小空間の水質変動予測のための栄養塩分析装置の開発とモデル解析に関する研究	
	5	環境省	環境総合推進費	代表機関	海面埋立処分場浸出水のpH低下予測モデルと重金属および有機化学物質の挙動解析に関する研究	
環境研究部	6	公益信託富士フィルム・グリーンファンド	富士フィルム・グリーンファンド	代表機関	シカ・イノシシの保護・管理におけるICT技術を応用したSSS(Smart "SHURYO" System)の実証的研究	
	7	日本学術振興会	科学研究助成事業 基盤研究B	共同研究	地域ワイルドライフ・マネジメント政策に関する学際的・実証的・国際比較的研究	
	8	日本学術振興会	科学研究助成事業 若手研究B	代表機関	立地環境に対応した樹木根系の構造が根張り抵抗力に与える影響の解明	
	9	日本学術振興会	科学研究助成事業 若手研究B	代表機関	膜分離可溶性プロセスによる下水汚泥のメタン発酵の高速化	
	10	・(独)科学技術振興機構 ・(独)国際協力機構	医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	共同研究	アルゼンチンにおける水系・食系感染症の予防、特に小児に対する志賀毒素産生性大腸菌感染症リスク軽減のための新戦略の構築	
	11	日本学術振興会	科学研究助成事業 新学術領域	共同研究	昆虫持続食料科学	
	12	大阪湾広域臨海環境整備センター	廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究費助成制度	代表機関	膜分離型高速汚泥処理システムの開発	○
	13	(独)科学技術振興機構	マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」	代表機関	下水汚泥の嫌気性処理を10倍高速化するシステムへの高性能MF膜の応用と評価	○
	14	日本学術振興会	科学研究助成事業 基盤C	代表機関	生菌剤とIgAから見た乳用子牛の腸内細菌叢	
	15	環境省	環境総合推進費	代表機関	ミズアブの機能を活用した革新的資源循環系の構築	○
	16	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	代表機関	ミズアブの機能を利用した新たな食料循環の基盤構築	
	17	農林水産省	革新的技術開発・緊急展開事業	共同研究	次世代の養殖用飼料の原料に適した新規昆虫の探索	
	18	農林水産省	革新的技術開発・緊急展開事業	代表機関	新しいルーメンバイパス技術と地域資源を活用した健康志向ミルクのエコ生産	
	19	農林水産省	委託プロジェクト研究「農林水産分野における気候変動対応のための研究開発」	共同研究	土砂流出・斜面崩壊災害・流木災害の減災と木材生産を両立する技術の開発	

食の安全研究部	20	農林水産省	委託プロジェクト研究 「農林水産分野における気候変動対応のための研究開発」	共同研究	レーザレーダ等を用いた獣害初期対応システムの開発	
	21	日本学術振興会	科学研究助成事業 挑戦的萌芽研究	共同研究	植物共生微生物からのヒト病原性細菌増殖抑制微生物探索	
	22	(公財)浦上食品・食文化振興財団	研究助成	共同研究	植物共生微生物群からヒト病原性細菌増殖を抑制する微生物の探索	
	23	(独)科学技術振興機構	マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」	代表機関	セラミック多層基板を用いたプラズマの殺菌性能の評価とその応用	○
	24	(独)科学技術振興機構	マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」	共同機関	プラズマを用いたイチゴの非接触・低ダメージ殺菌技術の開発	
	25	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	プラズマを用いた農産物の高度殺菌システムの開発	
	26	公益信託下水道振興基金	研究助成	共同研究	集約嫌気性消化による小規模下水処理場での汚泥有効利用の促進	○
	27	日本学術振興会	科学研究費補助金 基盤研究C	共同研究	小規模下水処理システムからのエネルギー生産技術の開発	○
	28	(公財)鉄鋼環境基金	環境助成研究	共同研究	集約型嫌気性消化下水処理汚泥の土壌への還元利用可能性の評価	
	29	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	都市近郊エダマメ栽培体系に適応したダイズシストセンチュウの生物的防除法の開発	
	30	農林水産省	革新的技術開発・緊急展開事業	共同研究	都市近郊エダマメ栽培体系に適応したダイズシストセンチュウの生物的防除法の開発	○
	31	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	効率的な排水不良圃場の診断技術と生産者が実施できる対策技術の開発と実証	
	32	日本学術振興会	科学研究助成事業 研究活動スタート支援	代表機関	シュンギク紫斑点症の発生を助長する土壌養分や温度条件の検討および原因究明に向けた微量要素代謝関連遺伝子の解析	
	33	日本学術振興会	科学研究助成事業 若手研究A	代表機関	水ナスのつやなし果発生機構の解明	
	34	公益財団法人園芸振興松島財団	公益財団法人園芸振興松島財団第42回研究助成	代表機関	シュンギク紫斑点症の原因元素および発生を助長する環境条件の解明	
	35	日本学術振興会	科学研究助成事業 基盤研究C	共同研究	特定遺伝子の mRNA のコピー数の差異による早期選抜技術の検討	
	36	農林水産省	革新的技術開発・緊急展開事業	代表機関	植物工場を利用した地域伝統カブ品種改良のための世代促進技術の開発	
	37	農林水産省	革新的技術開発・緊急展開事業	共同研究	安全・安心で、高品質、高機能性、ブランド力を持った高付加価値葉菜類生産技術の開発	
	38	日本学術振興会	科学研究助成事業 研究活動スタート支援	代表機関	バラ科植物における収穫後の切り花花卉の青色化(ブルーイング)メカニズムの解明	
	39	池田泉州銀行	コンソーシアム研究開発助成金	共同研究	地元野菜の魅力を伝える「にじいろ塩」の開発	
40	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	飛ばないナミテントウの施設利用を促進し露地利用へと拡張する代替餌システムの開発	○	
41	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	代表機関	高収益を実現するイチジクソーラーシェアリングの実用化		
水産研究部	42	日本学術振興会	科学研究費補助金 基盤研究B	共同研究	直立海岸構造物のグリーンインフラ化による生態系と市民の環境意識の改善に関する研究	
	43	・(独)科学技術振興機構 ・(独)国際協力機構	医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	共同研究	ベトナム島嶼・沿岸域微生物資源の多能性に立脚した健康環境創出に資する耐性非誘因薬剤の開発	

水産研究部	44	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成	代表機関	大阪湾における底魚不漁と環境要因の関係解明に向けた研究(その3) 大阪湾奥部における海底の食物網解析	○
	45	水産庁	我が国周辺水域資源評価等推進事業	共同研究	資源評価調査委託事業	○
	46	農林水産省	革新的技術開発・緊急展開事業	代表機関	大阪産キジハタの競争力強化に向けた品質向上及び流通技術の開発	

18 行政評価（実績報告書22、23、24ページ）

※ 4段階評価の平均値： 4：よい、3：標準的、2：やや不十分、1：不十分

部会名	分野	行政課題名	評価項目	
			到達水準	総合評価
みどり都市環境部会	みどり	流木対策事業施行地における表面侵食の防止に関する調査	3	3
		ナラ枯れ被害跡地の実態調査	3	3
		放置竹林の樹種転換のための基礎調査	3	3
		間伐施業が森林の防災機能等に与える効果検証	3	3
		衛星画像による緑被率の調査	3	3
環境部会	環境	PM2.5など反応性大気汚染に関する研究	4	4
		異常水質事故の原因究明手法の確立	4	4
		一般環境中の有害化学物質濃度とPRTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析	3	3
		廃棄物処分場における浸出水対策の検討	4	4
		黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究	3	3
		寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験	4	4
		河川における水生生物生息状況等調査データの集積	4	4
		大気中超微小粒子(ナノ粒子)の実態把握に関する調査研究	4	4
	技術支援	省エネ・省CO2相談窓口の継続	3	3
		環境情報プラザの活用と「かけはし」による協働取組みの推進	4	3
		ヒートアイランド対策に関する対策技術の普及等	4	4
	園芸	ソーラーシェアリングに適した農作物の選定及び影響調査	4	3
	農政・食品部会	野菜	水なすのつや無し果対策	3
施設野菜栽培の高温対策技術の確立			3	3
天敵を活用した難防除害虫防除技術の確立			3.7	3.7
軟弱野菜の生育障害対策技術の検討			3.3	3
なにわの伝統野菜の優良系統選抜及び出荷長期化のための技術確立			3.0	3
みつば新害虫キノコバエの防除方法の確立			3.5	4
水なすにおける褐紋病の防除方法の確立			3.5	3.5
地域特産野菜(葉ごぼう、ずいき)の農薬登録適用拡大			3.7	3.7

農政・食品部会	果樹	大阪府特産ぶどう有望品種系統の選定と栽培方法の確立	3.3	3.7
		大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策	3	2.9
		大阪で有望な中晩柑類の絞り込み	4	4
		研究所育成品種ぶどうの栽培方法の確立	2.7	2.7
		いちじく果実のアザミウマ類被害対策の検討	3.7	4
		収量増加のためのミニイチジク栽培方法の検討	3.3	3.3
	花き	直売所出荷に向けた切花の簡易な開花調節技術の開発	4	4
	農産加工	水なす漬物(液漬け)における食品微生物に対する調査研究	3	3
		八尾若ごぼうの加工品開発	3	3.3
		水なすの漬物加工時における殺菌による色落ち防止策の検討	3.7	3.3
		紅たでを利用した加工品開発	3	3
	水稻	水稻の高温障害対策	3.5	3.5
	畜産・野生動物部会	畜産	乳牛のストレスに関する研究 (乳牛のストレス指標の確立とその活用)	4
地域資源を活用した大阪地玉子のブランド化			4	4
6次産業化に向けた特色を持つ牛乳の生産技術の確立			4	4
発酵TMRの夜間給与による乳牛の生産性向上			3.5	4
野生生物		シカ・イノシシのモニタリング調査	4	4
		アライグマのモニタリング調査	4	4
水産部会	危機管理課題(有毒プランクトン)に関する調査・研究	4	4	
	危機管理課題(KHV病等の特定疾病)に関する調査・研究	4	4	
	浅海定線調査	3	3	
	資源回復を効果的に支援するための調査・研究	3	3	
	資源管理型漁業の効率的な推進に関する調査・研究	4	4	
	栽培漁業技術開発に関する調査研究	4	4	
	安威川・余野川河川調査	3	3	
	ため池における外来生物の駆除技術の確立と駆除支援	3	3	
	漁場整備事業(増殖場等)の効果調査	3	3	
総合部会	大阪湾における栄養塩の適正管理と魚介類への影響に関する研究	3.5	3.5	
	大阪湾における海底産地埋戻しに関する研究	3	3	
	大阪湾海岸構造物における環境配慮の実施手法の研究	3	3	
平均			3.5	3.5

19 平成28年度に実施する行政依頼事項（実績報告書24ページ）

みどり・都市環境部会

順位	課題名
技術支援G分野-1	省エネ・省CO2相談窓口の継続
自然環境G分野-1	民間緑化支援関係事業の効果検証等調査
自然環境G分野-2	間伐施業に伴うスギ・ヒノキの根張り抵抗力の向上検証試験及び森林の防災機能等に与える効果検証
自然環境G分野-3	GIS解析による森林災害危険箇所調査
自然環境G分野-4	流木対策事業施行地における表面侵食の防止に関する調査
内水面G分野-1	府内における生物多様の普及啓発、保全活動支援

環境部会

順位	課題名
環境-1	PM2.5など反応性大気汚染に関する研究
環境-2	異常水質事故の原因究明手法の確立
環境-3	一般環境中の有害化学物質濃度とPRTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析
環境-4	廃棄物処分場における浸出水対策の検討
環境-5	黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究
環境-6	寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験
環境-7	河川における水生生物生息状況等調査データの集積
環境-8	大気中超微小粒子(ナノ粒子)の実態把握に関する調査研究
環境-9	地球温暖化による気候変動の影響予測
環境-10	石綿濃度測定に関する迅速法の検討
環境-11	大阪湾におけるマイクロプラスチック汚染の実態把握
環境-12	環境中の水銀の濃度および動態に関する調査

農政・食品部会

順位	課題名
野菜-1	水なすのつや無し果対策
野菜-2	半促成なすにおける果皮障害の原因究明と防止対策技術の確立
野菜-3	施設野菜栽培の高温対策技術の確立
野菜-4	天敵を活用した難防除害虫防除技術の確立
野菜-5	軟弱野菜の生育障害対策技術の検討
野菜-6	ハウス抑制きゅうりの急性萎ちょう症対策について
野菜-7	地域特産野菜(葉ごぼう、ずいき、しゅんぎく)の農薬登録適用拡大
野菜-8	農と福祉の連携(ハートフルアグリ)の促進に係る調査研究
野菜-9	ふきのとう及びべらべら対策
野菜-10	簡易土壌水分目視計を用いたトマト、ぶどうの栽培状況改善
野菜-11	アブラナ科根こぶ病対策技術の確立
野菜-12	なにわの伝統野菜の優良系統選抜について
野菜-13	なにわの伝統野菜の新規品目認証に係る基礎調査及び系統保存・原種配布について
果樹-1	大阪府特産ぶどう有望品種系統の選定と栽培方法の確立

果樹-2	ぶどう波状型ハウスの換気システムの開発
果樹-3	大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策
果樹-4	大阪で有望な中晩柑類の栽培・貯蔵技術の確立
果樹-5	研究所育成品種ぶどうの栽培方法の確立
果樹-6	いちじく果実のアザミウマ類被害対策の検討
果樹-7	収量増加のためのミニイチジク栽培方法の検討
果樹-8	果実肥大期のブドウ葉黄化症状(ミイラ葉(仮))の原因調査と対策
果樹-9	くりの立ち枯れ症状の原因究明
花き-1	気候変動に伴う露地小ぎくの開花不安定要因の解明と対策
花き-2	けいとうアゴ抑制に向けた対策
農産加工-1	水なす漬物(液漬け)における食品微生物に対する調査研究
農産加工-2	八尾若ごぼうの加工品開発
農産加工-3	水なすの漬物加工時における殺菌による色落ち防止策の検討
農産加工-4	紅たでを利用した加工品開発
水稻-1	水稻の高温障害対策について
水稻-2	水稻のエコ農産物生産における緑肥作物の利用技術

畜産・野生動物部会

順位	課題名
畜産-1	乳牛のストレスに関する研究(乳牛のストレス指標の確立とその活用)
畜産-2	畜産環境保全対策の技術支援
畜産-3	エコフィードの利用推進
野生動物-1	シカ・イノシシのモニタリング調査
野生動物-2	アライグマのモニタリング調査

水産研究部会

順位	課題名
水産-1-①	危機管理課題(有毒プランクトン)に関する調査・研究
水産-1-②	危機管理課題(KHV病等の特定疾病)に関する調査・研究
水産-2	浅海定線調査
水産-3	資源回復を効果的に支援するための調査・研究
水産-4	資源管理型漁業の効率的な推進に関する調査・研究
水産-5	栽培漁業技術開発に関する調査研究
水産-6	安威川・余野川河川調査
水産-7	漁場整備事業(増殖場等)の効果調査
水産-8	大阪産キジハタの競争力強化に向けた調査研究

総合部会

順位	課題名
総合-1	大阪湾における栄養塩の適正管理と魚介類への影響に関する研究
総合-2	大阪湾における海底窪地埋戻しに関する研究
総合-3	大阪湾の湾奥部の沿岸域における生物の生育・生息空間の再生・創出に係る研究

20 研究アドバイザー委員会による研究課題評価（実績報告書22ページ）

※ 11人の委員による4段階評価の平均点 4:大変よい、3:よい、2:やや不十分、1:不十分

(1) 事前評価

No.	課題名	総合評価	研究推進体制	研究目的	研究目標	研究計画	期待される研究成果	期待される事業効果
1	降水により変動する植生の非メタン炭化水素のオゾン二次生成への影響	2.8	3.0	3.0	2.7	2.7	2.6	2.3
2	水ナスのつや無し果発生機構の解明	2.4	2.7	2.6	2.4	2.1	2.7	2.4
3	昆虫による畜ふん由来窒素の再資源化 —畜ふんから作る養魚用飼料—	3.1	3.4	3.6	3.3	2.8	3.0	3.1
4	特定外来生物アライグマの被害対策に向けた食性解析 —安定同位体比分析の応用—	2.9	3.1	2.8	2.8	3.1	2.9	2.5
平均		2.8	3.0	3.0	2.8	2.7	2.8	2.6

(2) 中間評価

No.	課題名	総合評価	研究推進体制	研究目的	研究目標	研究方法・計画	研究成果	期待される研究成果	期待される事業効果
1	人為的な生息地攪乱がもたらすシカの被害強度変動パターンの解明	3.4	2.9	3.7	3.0	3.2	3.3	3.0	3.1
2	水相/パッシブサンプラーによる微量化学物質の測定およびそれらに影響する要因の解析	3.1	3.3	3.3	3.1	2.9	2.9	3.0	3.0
3	沿岸海洋食物連鎖系における栄養塩物質の循環に関する研究	3.0	3.1	3.3	3.0	2.9	3.1	3.3	3.0
平均		3.2	3.1	3.4	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0

(3) 事後評価

No.	課題名	総合評価	研究推進体制	研究成果	今後の普及方針
1	発生予察事業の調査実施基準の新規手法策定事業	3.2	3.2	3.2	2.9
2	非破壊法による水ナス果実の空洞果判別技術の開発	3.0	2.8	2.8	2.7
3	東部瀬戸内海窒素・リン動態調査	3.4	3.4	3.4	3.0
4	地域飼料資源を活用した混合飼料による乳牛の暑熱対策飼養管理技術の開発	2.9	3.4	3.1	2.8
5	施設園芸における高度環境制御技術の開発	3.5	3.4	3.6	3.0
平均		3.2	3.2	3.2	2.9

21 法人が参画するコンソーシアム一覧（実績報告書23ページ）

分野	名称 (法人が代表者のもの)	構成機関	研究課題	事業
農業	高付加価値牛乳生産研究 コンソーシアム	・食品・医薬品メーカー	αリノレン酸に富む 高付加価値牛乳の新しい 生産技術の実証	農林水産業の革新的技術 緊急展開事業（うち産学 の英知を結集した革新的 な技術体系の確立）
		・油脂メーカー		

分野	名称 (他機関が代表者のもの)	構成機関	研究課題	事業
農業	薬剤抵抗性管理技術の開発 コンソーシアム	代表機関の(国研)農業生物資源研究所のほか3大学、16機関、1県、民間2社	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	フードチェーンプロヒ素コンソーシアム	代表機関の(独)農業環境技術研究所のほか、1大学、5県、6機関、1企業	水稲におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	家畜育種手法コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか5大学、20機関、2企業	飼料・乳成分等の測定値から乳用牛の泌乳中エネルギーバランスを推定する方法の開発	農林水産省委託プロジェクト研究
	農食事業25070コンソーシアム	代表機関の(国研)農研機構ほか8機関	クリのくん蒸処理から脱却するクリシギゾウムシ防除技術の開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	「ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発」共同研究機関	代表機関の琉球大学ほか1大学、1高専	ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	農食事業25071コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか1大学、2機関、2事業所	高齢・障がい者など多様な主体の農業参入支援技術の開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	新たな植物保護技術コンソーシアム	代表機関の(国研)農研機構ほか3大学、公設試6機関、2県、民間4社	持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発	内閣府 S I P「次世代農林水産業創造技術」
	地域間連携施設野菜コンソーシアム	代表機関の徳島県のほか、1大学、公設試5機関、2県	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証研究	攻めの農林水産業実現に向けた革新的技術緊急展開事業
	近畿スマートソイルコンソーシアム	代表機関の京都府農林水産技術センターのほか、2機関	精密な土壌水分制御と養分総量評価による高収益輪作体系の実証	農林水産業の革新的技術緊急展開事業
水産	「微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発」共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか3大学、公設試3機関、民間2社	海洋微生物群のモニタリングによる早期の赤潮被害発生予測技術及び海洋微生物群を利用した赤潮被害の発生抑制技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	生態系ネットワーク共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか12機関、5大学、2企業	沿岸における漁獲量減少種についての生態系ネットワーク分断要因解消による自律的資源回復技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	「我が国周辺水域資源評価等推進委託事業」共同実施機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか39機関、3大学、1社団法人	我が国周辺水域の重要水産資源に係る資源評価等の実施	我が国周辺水域資源評価等推進委託事業

水産	瀬戸内海赤潮共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか17機関、6大学、3企業、1NPO法人	瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業のうち赤潮・貧酸素水塊対策推進事業
	貝毒リスク管理措置研究グループ	代表機関の(独)水産総合研究センターのほか、公設試9機関	貝毒リスク管理措置の見直しに向けた研究	レギュラトリーサイエンス新技術開発事業

2 2 知的財産保有状況（実績報告書25ページ）

No.	特許（発明）の名称 （未公開のものは仮称）	発明者	共 願 者	出願番号 出願日	公開番号 年月日	登録番号 年月日
1	牛の飼育方法	藤谷泰裕 西村和彦	チーヤ梅酒 (株)	特願2002-35229 14年2月13日	特開2003-235467 15年8月26日	第3987734号 19年7月20日
2	フザリウム汚染土壌殺菌用組成物及び該土壌の殺菌方法	岡田清嗣	大阪有機化学工業(株)	特願2004-270430 16年9月16日	特開2006-83108 18年3月30日	第4676180号 23年2月4日
3	オカラの保存方法	西村和彦	ヤンマー(株)	特願2005-10111 17年1月18日	特開2006-197809 18年8月3日	第4300191号 21年4月24日
4	微生物菌体の乾燥方法	西村和彦	(株)林原	特願2005-11388 17年1月19日	特開2006-197829 18年8月3日	第4630071号 22年11月19日
5	駐車場用窒素酸化物浄化装置	辻野喜夫 吉良靖男	越井木材工業(株)	特願2005-239017 17年8月19日	特開2007-50389 19年3月1日	第4937547号 24年3月2日
6	多孔質材を使用した食品廃棄物からの機能性成分の吸着濃縮方法及びそれを利用した機能性飼料	藤谷泰裕	(株)堀木工所	特願2005-261090 17年9月21日	特開2007-68491 19年3月22日	第4512541号 22年5月14日
7	飛動生物除去装置及び植物保護装置	草刈真一	カゴメ(株) 近畿大学	特願2006-14135 18年1月23日	特開2007-195404 19年8月9日	第4771310号 23年7月1日
8	水質モニタリング装置	森達摩 矢吹芳教	農研機構	特願2006-88648 18年3月28日	特開2007-263723 19年10月11日	第4817100号 23年9月9日
9	水質評価方法および水質評価システム	谷本秀夫 古川 真	大阪大学 エスベックミック(株)	特願2006-227429 18年8月24日	特開2008-51621 20年3月6日	第4730786号 23年4月28日
10	定量灌水による育苗・栽培方法	森川信也	大阪府立大学 エスベックミック(株)	特願2007-12641 19年1月23日	特開2008-178307 20年8月7日	第5010931号 24年6月8日
11	誘電分極を用いた分生子吸着による防カビ方法、飛動生物除去装置、及び植物保護装置（米国特許）	草刈真一	近畿大学 カゴメ(株)	12/279, 186 19年2月14日	US2009/0007781 21年1月8日	US8, 105, 418 24年1月31日
12	誘電分極を用いた分生子吸着による防カビ方法、飛動生物除去装置、及び植物保護装置（米国特許）	草刈真一	近畿大学 カゴメ(株)	13/337, 600 23年12月27日	US2012/0090228 24年4月19日	US8, 262, 781 24年9月11日
13	誘電分極を用いた分生子吸着による防カビ方法、飛動生物除去装置、及び植物保護装置	草刈真一	近畿大学 カゴメ(株)	特願2008-500512 19年2月14日	W02007/094339 19年8月23日	第5599564号 26年8月22日
14	スギ材を用いた二酸化窒素の浄化方法	辻野喜夫 吉良靖男	大阪府 (有)ホームアイ	特願2007-258160 19年10月1日	特開2009-6310 21年1月15日	第4759550号 23年6月10日
15	飛動可能生物収集兼オゾン発生装置及び植物栽培装置	草刈真一	近畿大学 カゴメ(株)	特願2007-51756 19年3月1日	特開2008-214119 20年9月18日	第5216225号 25年3月8日
16	オゾン水を用いた養液栽培設備および養液栽培方法	草刈真一 岡田清嗣 磯部武志	(株)神戸製鋼所 農研機構	特願2008-5192 20年1月15日	特開2009-165374 21年7月30日	第5453600号 25年1月17日
17	発泡散布装置	森川信也	大阪府立大学 有光工業(株) (株)アワフル	特願2008-191342 20年7月24日	特願2010-22340 22年2月4日	第5358135号 25年9月6日
18	植物栽培装置	内山知二	(株)ヴェイル	特願2008-311990 20年12月8日	特開2010-130981 22年6月17日	第5430919号 25年12月13日
19	養液栽培設備および養液栽培方法	草刈真一 岡田清嗣 磯部武志	(株)神戸製鋼所	特願2009-146459 21年6月19日	特開2011-70 23年1月6日	第5308247号 25年7月5日
20	発泡装置	森川信也	有光工業(株) 大阪府立大学 (株)アワフル	特願2009-182639 21年8月5日	特開2011-31221 23年2月17日	第5563792号 26年6月20日
21	水耕栽培用パネル	草刈真一 森川信也 嘉悦佳子	トーホー工業(株) 金山化成(株)	特願2011-28970 23年2月14日	特開2012-165680 24年9月6日	第5699001号 27年2月20日
22	植物生育環境調節装置	内山知二 佐野修司	(株)ヴェイル 大日本プラスチック(株) ほか3機関	特願2013-96820 25年5月2日	特開2014-217286 26年11月20日	第5725627号 27年4月10日
1	微生物乾燥粉末の製造方法	西村和彦 笠井浩司 因野要一 平康博章		特願2012-62088 24年3月19日	特開2013-192490 25年9月30日	出願済

2	容器（切り花バケツ用）	豊原憲子 森川信也		特願2013-100239 25年5月10日	特開2014-207665 26年11月20日	出願済
3	植物のエチレン生合成阻害剤とその利用	豊原憲子	京都府立大学 法人 クリザールジャ パン(株)	特願2013-23264 25年11月9日	特開2015-93841 27年5月18日	出願済
4	ビニールハウスの換気機構	磯部武士 森川信也		特願2013-207659 25年10月2日	特開2015-70805 27年4月16日	出願済
5	発泡スチロール構造体	草刈眞 森川信也	トーヨー工業 (株)	特願2013-268707 25年12月26日	特開2015-124166 27年7月6日	出願済
6	殺菌装置	西岡輝美 高井雄一郎 三島朋子	大学2	特願2015-109132 27年5月28日		出願済
7	静電場スクリーンを用いたコンテナ	草刈眞一	大学1 事業者2	特願2015-92969 27年4月31日		出願済
8	有機性汚泥の処理装置	瀬山智博 吉田弦 平康博章		特願2015-127501 27年6月25日		出願済
9	果実加工品の調製方法	橋田浩二 谷本秀夫 和泉慶子		特願2015-226121 27年11月18日		出願済
10	害虫誘引捕捉装置	草刈眞一 岡田清嗣	大学1 事業者2	特願2015-111080 27年6月1日		出願済
11	静電場スクリーンを用いた容器	草刈眞一 岡田清嗣 森川信也 柴尾学	大学1 事業者4	特願2015-191050 27年9月29日		出願済
12	反芻動物用の経口投与剤およびそれを含む反芻動物用飼料（国際出願）	瀬山智博 平康博章 笠井浩司 藤谷泰裕	森下仁丹(株)	PCT/JP2015/052754 27年1月30日	W02015/115618 27年8月6日	出願済
13	植物体の害虫抑制方法	柴尾学	静岡県	特願2015-16822 27年1月30日	特開2015-171356 27年10月1日	出願済

・ 品種

1	大阪農技育成1号（ふき）	岩本嗣 中曽根渡		第11980号 11年9月13日		第10632号 14年9月30日
2	羽曳野育成1号（なす）	岩本嗣 辻博美 中曽根渡 長町知美		第12479号 12年3月29日		第10976号 15年2月20日
3	ポんタ（ぶどう）	細見彰洋 磯部武志 古川眞 三輪由佳 林部寿美雄 ほか4名		第28922号 26年2月13日		出願済

・ 商標

1	おおさかエコテック（ロゴマーク）			商願2012-8139 24年1月24日		第5533649号 24年11月2日
2	エコテック・ゴールド（ロゴマーク）			商願2012-8140 24年1月24日		第5531919号 24年11月9日
3	ぶどう名称			商願2016-15420 28年2月1日		出願済

・ 著作権

1	ユリの開花日予測ソフト	豊原憲子	農研機構 奈良県 兵庫県			P第10267号-1 25年6月24日
---	-------------	------	--------------------	--	--	------------------------

23 法人職員が受講した研修（実績報告書30ページ）

・専門研修等(他機関が実施したもの)

分類	研修実施機関	研修制度名	受講人数	期間
環境	環境省環境調査研修所	特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）	1	10日間
	環境省環境調査研修所	ダイオキシン類環境モニタリング研修	1	15日間
	環境省環境調査研修所	大気分析研修（Aコース）	1	12日間
	環境省環境調査研修所	大気分析研修（Bコース）	1	12日間
	環境省環境調査研修所	環境汚染有機化学物質（POPs等）分析研修	1	10日間
	環境省環境調査研修所	環境パートナーシップ研修	1	5日間
	（国研）農業・食品産業技術総合研究機構	短期集合研修「数理統計（応用編）」	1	5日間
	（国研）農業・食品産業技術総合研究機構	短期集合研修「経営評価」	1	5日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究リーダー研修	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究中堅研究員研修	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係若手研究者研修	1	3日間
	（一財）日本緑化センター	樹木と緑化の総合技術講座・前期	1	3日間
水産	（国研）水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所	有害プランクトンの同定研修会	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究リーダー研修	1	2日間
	（独）水産総合研究センター 中央水産研究所	エコパスモデル研修	1	2日間
その他	農業大学校校長会	技術職員研修	1	1日間
	農業大学校校長会	研修会職員研修	1	1日間
	農林水産省	農業大学校職員新任者研修	1	4日間
	近畿農政局	地理的表示制度説明会	1	1日間
	（一社）発明推進協会	特許法等改正説明会	2	1日間
	（一社）発明推進協会	知的財産権制度説明会（実務者向け）	1	1日間
	（一社）京都発明協会	京都発 京の知的財産セミナー	1	1日間
	（一社）発明推進協会	職務発明ガイドライン案説明会	1	1日間
	（一社）食品需給研究センター	地理的表示登録産品事例報告会	1	1日間
	（弁）三宅法律事務所	具体的設例で検討する 職務発明規定の改正	1	1日間
大阪大学	低次生態系モデリング技術習得	1	半年間	

その他	大阪大学	テクノロジーコマーシャリゼーションプログラム	1	8日間
	経営革新研究所	川崎重工業見学&講演会	3	1日間
	大阪府	治山技術研修会	3	1日間
	大阪府	個人情報保護に関する研修	5	1日間
	大阪府	環境行政基礎技術研修	1	2日間
	大阪府	大気汚染・科学物質コース	4	2日間
	大阪府	メンタルヘルス・ハラスメント研修	8	1日間
	大阪府	不当要求排除対策研修会	4	1日間
	大阪府	ビジネスマナー・接遇研修	7	1日間
	大阪府	階層別（主査級1～5年目）研修	7	1日間

・一般研修（法人が実施したもの）

新規採用職員研修（前期・後期）	19	7日間
主幹・主任・研究員研修	65	1日間
公的研究費の管理に関する研修	159	1日間
若手職員研修	23	1日間
個人情報保護及び情報セキュリティ研修	107	1日間
第1回会計研修	46	1日間
新任主任研究員研修	5	2日間
労働衛生研修	73	1日間
メンタルヘルス研修	29	1日間
コンプライアンス研修	95	1日間
産技研・環農水研合同管理職研修	16	1日間
第2回会計研修	53	1日間
人権研修	72	1日間
専門技術研修	69	1日間
環境マネジメント研修（専門）	113	1日間×16回

2 4 目的積立金使途実績（実績報告書33ページ）

項目		金額（千円）		
		H25	H26	H27
目的積立金確定額		87,004	87,306	65,982
調査研究資金	<ul style="list-style-type: none"> ▪ キジハタブランド化に関する調査研究 ▪ 6次産業化支援事業 ▪ 研究活力向上支援事業 	0	12,317	7,547
研究体制強化 （施設・備品）	施設・備品整備計画に基づく執行	7,636	52,199	152,393
研究体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 次期中期計画策定関連調査 	0	385	268
調査研究力向上 （研修等・情報収集）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 職員表彰事業 ▪ 大学院修学 ▪ 通信教育受講支援 	500	890	1,124
	文献検索システム	236	540	594
合計		8,372	66,331	161,926
残額		78,632	99,607	3,663

※26年度実績には、26年度中に購入を決定し、支払が27年度のものを含んでいない（37,368千円）

25 法人が有する資源の有効活用事例（実績報告書37ページ）

1	小学校の環境教育のため水生生物センター・環境情報プラザのピオトープ池の利用
2	環境情報プラザの研修室・小会議室・環境実験室(いこらぼ)の環境活動団体等への貸出
3	事業者への食品機能実験室の貸出
4	府農の普及課等への土壌分析室の貸出
5	花の文化園ボランティア花き栽培技術研修受入
6	福祉農園を活用した農産園芸福祉ボランティアおよび地域社会福祉施設の園芸活動受入
7	教育センター技術家庭科教員研修の受け入れ
8	西浦支援学校教員に対するほ場での園芸技術指導
9	西浦支援学校生徒園芸実習の受け入れ
10	環境情報プラザの環境啓発パネルの事業者等への貸出
11	自然体験学習に要する機材の貸し出し(堺エコロジー大学)
12	軟X線撮影装置の貸し出し(大阪府立大学)
13	アマモ場造成支援事業に係る水槽の貸し出し(大阪府水産課)
14	濁質成分調査のための調査船おおさかへの乗船(広島大学)
15	栄養塩溶出調査のための調査船おおさかへの乗船(大阪工業大学)
16	溶存有機物調査のための調査船おおさかへの乗船(京都大学)
17	海洋性カビ調査のための調査船おおさかへの乗船(甲南大学)
18	ベトナムからの研修・水質分析施設見学受け入れ(大阪府立大学経由)
19	大阪湾の水質測定結果の提供(大阪府環境管理室)
20	大阪湾の水質測定結果の提供(国立研究開発法人港湾空港技術研究所)
21	大阪湾の水質測定結果の提供(神戸大学)
22	大阪湾の水質測定結果の提供(泉南市役所)
23	大阪湾の底生生物データの提供(大阪府環境管理室)
24	大阪湾の底質・底生生物データの提供(国土交通省近畿地方整備局)
25	大阪湾の水質測定結果の提供(国土交通省近畿地方整備局)
26	夏休み「海の教室」における調査船おおさか、栽培漁業センター、研修室、地曳網、船外機船の利用
27	阪南市障がい児(者)スポーツ教室へのタッチングプール資材提供
28	大漁 いわしとしらすの親子まつりへのタッチングプール資材提供
29	深日漁港ふれあいフェスタへのタッチングプール資材提供
30	魚庭のうみづくり大会へのタッチングプール資材提供
31	大阪産(もん)大集合へのタッチングプール資材提供
32	知ろう!学ぼう!大阪南港エコフェスタへの水槽・展示魚の提供
33	環境教育のための水生生物センター内水田の活用
34	大阪府立大学「環境活動演習」学生受入
35	奈良学園スーパーサイエンスハイスクール教育課程の研修・種苗生産施設見学受け入れ
36	貝塚市立貝塚第3中学校の職業体験学習受け入れ
37	泉南市立信達中学校の職業体験学習受け入れ
38	岬町立岬中学校の職業体験学習受け入れ
39	JICA研修生への研修受け入れ
40	東三河漁協青年部連絡協議会教育研修受け入れ
41	摂南大学理工学部「生命科学学外演習」受け入れ
42	近畿大学技術研修生受け入れ

43	大阪府立大手前高校集中セミナー受け入れ
44	高槻市立五領中学校職場体験学習受け入れ
45	寝屋川市立第6中学校職場体験学習受け入れ
46	奈良学園スーパーサイエンスハイスクールに関わる研修受け入れ
47	摂南大学インターンシップ受け入れ
48	白陵中学高等学校の研修・施設見学受け入れ
49	環境学園専門学校の研修・施設見学受け入れ
50	大阪府立枚方なぎさ高校の研修・施設見学受け入れ
51	水生生物調査用器材の貸し出し(富田林土木事務所)(寝屋川市環境部)
52	「大阪の自然の生き物」展示パネルの貸し出し(三井住友信託銀行梅田支店)
53	淀川の魚類展示に係る水槽器材一式の貸し出し(大阪広域水道企業団村野浄水場)
54	魚類標本の貸し出し(株式会社海遊館)
55	大阪工業大学技術研修生受け入れ
56	大阪府立農芸高等学校畜産物の肉質測定実習受け入れ
57	大阪ハイテクノロジー専門学校の研修・施設見学受け入れ

26 講師派遣実績（実績報告書37ページ）

	タイトル	講演会等名称	主催団体	講演月日	
環境情報部	1	地方自治体の環境行政について	国際環境学特論	大阪府立大学	7月9,16日
	2	環境活動演習	環境活動演習	大阪府立大学	4月18日～12月5日
	3	省エネ診断について	大阪企業のコスト削減計画支援者研修会	大阪府商工会連合会	7月15日
	4	事業所の省エネのポイント	大阪環境測定分析事業者協会技術研修会	大阪環境測定分析事業者協会	2月10日
	5	事業所の省エネのポイント	平成27年度エネルギー・温暖化対策に関する講習会	大阪府	11月24日
	6	事業所のエネルギー管理	環境行政基礎技術研修	大阪府	7月14日
	7	大阪府におけるPM _{2.5} 高濃度日の状況(平成26年度)について	近畿大気汚染常時監視連絡会	大阪府	7月22日
	8	大阪の環境汚染とその対策の歴史、教訓の紹介	高津高校SSH日韓高校生交流事業「日韓高校生環境フォーラム」	大阪府立高津高等学校	1月9日
	9	PM _{2.5} の成分分析と粒子ごとの化学組成分析による発生源特定を試みについて	大環協技術研修会	大阪環境測定分析事業者協会	2月10日
	10	大気中石綿濃度の迅速測定のための位相差顕微鏡の使い方等測定に必要な技術習得	大気中の石綿濃度測定技術研修	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	5月8日
	11	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所が実施する精度管理業務	技術研修会	大阪環境測定分析事業者協会	2月10日
	12	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所が実施する精度管理業務	平成27年度環境モニタリング技術研修	環境省環境調査研修所	9月11日
	13	魚類へい死事故発生時の現地調査マニュアル、異常水質の現地調査時の採水の仕方について	権限移譲市町村 水質規制事務に関する研修会	大阪府	7月10日
環境研究部	14	北摂地域の森林の現状と課題について	島本町フォレストポーター養成講座	NPO法人島本森のクラブ	10月4日
	15	緑化樹の剪定、刈込、刈り払い	大東市緑の推進員研修会	大東市	11月26日
	16	工場緑化と生物多様性	カネカ生物多様性保全セミナー	(株)カネカ	12月24日
	17	森林植生の群集動態を決定する要因としての大型草食獣シカの機能	大阪市立自然史博物館学芸ゼミ	大阪市立自然史博物館	5月26日
	18	おおさかにすむシカの今:分布と被害の現状	山とみどりの市民イベント・フォーラム「人と自然の共生のために・・・箕面の身近な自然を大切にしよう」	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会	10月18日
19	大阪のシカの現状～調査結果から見えるもの～	芥川倶楽部 生物多様性講座	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク	2月27日	
食の安全研究部	20	ニンジン共同圃場の試験について	岸和田4Hクラブ定例会	岸和田市	8月20日
	21	レンゲ等の緑肥を活用した特別栽培農産物の生産	平成26年度大阪府施肥診断技術者連絡協議会研修会	大阪府立施肥技術連絡協議会	8月26日
	22	焼け果と土壌養水分の関係について	富田林4Hクラブ定例会	南河内農と緑	10月27日
	23	果樹園の土作り	大阪ぶどうの会	大阪ぶどうの会	11月13日
	24	水稲の土づくりについて	平成27年度アグリアドバイザー養成研修会	JA全農大阪中央会	12月9日

食の安全研究部	25	堆肥を用いた土作り～色んな有機資材の特徴～	堆肥共励会	大阪府畜産会	2月2日
	26	ナスの焼け果対策試験の成果発表	平成27年度ナス部会総会	JA大阪南	3月15日
	27	田辺ダイコン、天王寺カブの越年栽培について	なにわの伝統野菜の生産・出荷・販売会議	JA	4月24日
	28	田辺ダイコン、天王寺カブの栽培方法について	なにわの伝統野菜の生産・出荷・販売会議	JA	6月30日
	29	なにわの伝統野菜研修会	大阪市伝統野菜生産者研修会	JA	7月6日
	30	なにわの伝統野菜の栽培方法	JA大阪市技術部会東住吉支部の研修会	JA	7月9日
	31	碓井エンドウ検討会	羽曳野市エンドウ部会	羽曳野市役所	7月28日
	32	大阪の農業変遷となにわの伝統野菜	大学校講師	大阪府高齢者大学校	9月1日
	33	SAA事前研修会(スーパーアグリアドバイザー認証試験事前研修会)	SAA事前研修会講師	JA中央会	11月5日、19日
	34	AA事前研修会(アグリアドバイザー認証試験事前研修会)	AA事前研修会講師	JA中央会	12月9日
	35	養液栽培トマトの品評会および表彰式	大阪府養液栽培研究会	大阪府養液栽培研究会	6月2日、3月9日
	36	若ゴボウ品評会審査員	若ゴボウ品評会	八尾市農業啓発推進協議会	3月12日
	37	最近の果樹を巡る研究	南河内地区果樹振興会連絡協議会研修会	南果連	7月10日
	38	研究所におけるシャインマスカット試験	ぶどう(シャインマスカット)栽培技術講習	大阪府果樹振興会	9月15日
	39	果樹の剪定について	花と緑と自然の情報センターセミナー	関西地区花と緑の相談所連絡会	3月4日
	40	イチジクの施肥管理について	イチジク講習会	JA大阪南	5月18日
	41	イチジクの病虫害防除について	イチジク講習会	JA大阪南	11月17日
	42	有望な中晩柑カンキツ品種について	カンキツ講習会	JAいずみの	1月29日
	43	JA営農担当者の営農技術指導について	スーパーアグリアドバイザー養成研修	JA大阪中央会	11月5日
	44	JA営農担当者の営農技術指導について	アグリアドバイザー養成研修	JA大阪中央会	12月9日
	45	水稲玄米の分析結果について	施肥合理化展示圃場試験結果検討会	大阪府施肥診断技術者連絡協議会	12月18日
	46	平成27年度水稲奨励品種調査事業の結果について	種子採種事業会議	大阪府種子協会	3月14日
	47	園芸を用いた作業	府立大学作業科学実習	大阪府立大学	4月24日、5月15日、6月5日
	48	葉ぼたんの種まきについて	神立種まき講習会	中部農の普及課	9月25日
	49	作物の栽培	府立学校技能労務員職員研修	教育委員会	8月6日
	50	秋まき切り花の種まきについて	JA大阪南種まき講習会	JA大阪南	9月25日
	51	花ももの開花処理と日持ちについて	神立ハナモモ講習会	中部農の普及課	11月17日
	52	切り花の鮮度保持	桑原若手講習会	泉州農の普及課	11月13日

食の安全研究部	53	現場で役立つ野菜害虫の診断方法と防除対策	視察研修会	堺市野菜振興会	9月9日
	54	病害虫防除	スーパーアグリアドバイザー養成研修	JA	11月5日
	55	病害虫の見分け方について	アグリアドバイザー養成研修	JA	12月9日
	56	施設ナスのミナミキイロアザミウマのIPM体系	富田林4Hクラブ定例会	富田林4Hクラブ	2月24日
	57	イチジクの病害虫総合防除対策と新技術について	いちじく栽培講習会	大阪府果樹振興会	2月26日
水産研究部	58	大阪湾のさかなの説明	せんなん里海公園磯浜見学会	大阪府港湾局	9月15日
	59	大阪湾に出現する生きものの解説	生き物一斉調査事前説明会	大阪湾環境再生連絡会	6月6日
	60	海岸生物の解説	大阪湾生き物一斉調査	大阪湾環境再生連絡会	5月16日、30日
	61	大阪湾の環境と生物についての講演	大阪湾生き物一斉調査(アドバイザー会議)	大阪湾環境保全協議会	8月28日
	62	栽培漁業に関する出張授業	環境月間に係る稚魚放流授業	岬町立深日小学校	6月17日
	63	タッチングプールを使用した大阪湾の魚の説明	阪南市障がい児スポーツ教室イベント	阪南市立総合体育館	8月9日
	64	堺エコロジー大学で大阪湾の環境と生物について知識を深める。	堺エコロジー大学堺の海再発見	堺市	5月20日
	65	序にかえてーチリメンモンスターが教える海川森の連環	水について考える ～私たちの・僕たちの・みんなの水～	はびきの市民大学	10月24日
	66	～水は甘いかしょっぱいか？～淀川汽水域の生きもの	水について考える ～私たちの・僕たちの・みんなの水～	はびきの市民大学	11月7日
	67	大阪湾の環境のうつりかわりと漁業	水について考える ～私たちの・僕たちの・みんなの水～	はびきの市民大学	1月9日
	68	美味しいものが沢山！大阪産の魚たち	水について考える ～私たちの・僕たちの・みんなの水～	はびきの市民大学	1月16日
	69	わかめの生態について	みんなでワカメを育てよう 海と陸のつながりを味わおう	環境教育技術振興会	2月7日
	70	ノリの生態について	みんなでワカメを育てよう 海と陸のつながりを味わおう	環境教育技術振興会	2月14日
	71	大阪湾の環境について	みんなでワカメを育てよう 海と陸のつながりを味わおう	環境教育技術振興会	3月6日
	72	大川の魚類の採集(地曳網体験)と採集した魚類について	大川ふれあいの水辺地曳網調査	水生生物センター、府河川室等	4月25日、10月12日
	73	彩都あさぎ里山公園池のヒシ駆除と彩都周辺にすむ水生生物について	彩都あさぎ里山公園池ヒシ駆除	大阪府彩都建設協議会	7月14日
	74	淀川に天然記念物イタセンバラを泳がせよう！ー生物多様性保全の取り組みー	大阪府立大手前高校集中セミナー	大阪府立大手前高校	12月10日
	75	淀川左岸用水路の生きものについて	淀川左岸定例調査	水辺に親しむ会	10月11日
	76	ピオトープ池での水辺体験とそこにすむ生物について、水草押し葉作り	水辺体験学習	寝屋川市立点野小学校	5月21日
77	安威川の生きもの採集と採集した生きものについて	安威川水辺の学校	茨木市立山手台小学校、安威川ダム建設事務所	7月13日	

水産研究部	78	千里川の生きもの採集と採集した生きものについて	千里川水辺体験学習	豊中市立豊島北小学校	6月17日
	79	公園ビオトープに生息する生物について	特別授業	箕面市立彩都の丘学園、大阪府彩都建設協議会	10月9日、2月25日
	80	大阪府にすむ魚類や水生生物について	近鉄文化サロン	近鉄百貨店	7月26日、8月2日
	81	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	小中学校「理科」指導者養成長期研修	大阪府教育センター	10月29日
	82	イタセンパラの生態および城北ワンドでの保全の取り組み	城北わんどイタセンパラ協議会	近畿地方環境事務所	4月22日
	83	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」 淀川左岸水路の生きものについて	淀川左岸水路調査	水辺に親しむ会	4月12日
	84	芥川の淀川合流点(唐崎地区)わんどの生物	芥川合流点わんど観察会	芥川倶楽部	4月18日
	85	イタセンパラについて	研修会	白陵中学高等学校生物部	5月3日
	86	環境教育の講義及びミズアオイの育成方法	環境教育授業	寝屋川市立明和小学校	5月13日
	87	水生生物センターの業務 イタセンパラの生態	研修会	NPO法人大阪シニア自然カレッジ	5月13日
	88	イタセンパラを再び淀川に泳がせよう！－イタセンネットの取り組み－	総会	パナソニック松愛会大阪市内支部	5月23日
	89	外来魚駆除方法	庭窪ワンド群外来魚駆除	淀川管内河川レンジャー	5月30日
	90	里山の生物多様性とミズアオイ	ミズアオイ植栽と研修会	積水ハウスグループ	6月18日
	91	イタセンパラの生態と保護	環境アセスメント動物調査手法 講演会	日本環境動物昆虫学会	6月27日
	92	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」 イタセンパラについて	研修会	環境学園専門学校	6月30日
	93	淀川を遡上するアユについて	淀川河口大堰魚道における天然アユ遡上の促進について考える	淀川河川レンジャー・京の川の恵みを活かす会	7月4日
	94	淀川に生息する水生生物について	大阪府立高津高校SSH「日韓高校生交流事業」	大阪府立唐津高校	7月19日
	95	淀川にすむ淡水魚 イタセンパラの保全活動	研修会	大阪府立枚方なぎさ高校	7月23日
	96	淀川の自然	研修会	大阪市立旭陽中学校	8月5日
	97	タナゴと二枚貝のつながりについて	研修会	寝屋川市立木屋小学校	8月6日
	98	水辺の生物多様性について	ねやがわ自然塾	寝屋川市自然資料施設運営スタッフの会	8月7日
	99	大和川に生息する魚類	大和川わんど地曳網体験	大正小学校区まちづくり協議会、八尾市役所等	8月9日
	100	淀川左岸水路の生きものについて 淀川の氾濫(はんらん)と魚たち	淀川左岸幹線水路調査	水辺に親しむ会	8月12日
	101	メダカについて	研修会	社会福祉法人智恵福祉会けいあいの舎	8月17日
	102	淀川のワンドの現状とイタセンパラ保全の取り組み	研修会	(公社)日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会	8月26日
	103	小学校のビオトープに生息する生物について	特別授業	茨木市立彩都西小学校、彩都建設推進協議会	9月14日

水産研究部	104	安威川の生物採集と採集した生きものについて	安威川水辺の学校	茨木市立安威小学校、安威川ダム建設事務所	10月6日
	105	淀川のシンボルフィッシュ・イタセンパラの保全活動について	海遊館25周年記念シンポジウム	海遊館	10月11日
	106	大川の魚類の採集(地曳網体験)と採集した魚類	大川ふれあいの水辺地曳網調査	水生生物センター、府河川室等	10月12日
	107	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	山とみどりの市民イベント生物多様性研究フォーラム	NPO法人みのお山麓保全委員会	10月18日
	108	生物多様性研修プログラム「バイオミクリーさがし」	特別授業	寝屋川市立明和小学校・大阪府みどり企画課	10月23日
	109	淀川におけるイタセンパラ保全の取り組み	イタセンパラ勉強会	木曽川イタセンパラ保護協議会	10月24日
	110	イタセンパラ保全の取り組み	研修	大阪産業大学	11月19日
	111	大和川の魚類	水について考える ～私たちの・僕たちの・みんなの水～	はびきの市民大学	11月28日
	112	生物多様性研修プログラム「バイオミクリーさがし」	特別授業	阪南市立西鳥取小学校・大阪府みどり企画課	12月4日
	113	生物多様性研修プログラム「生きものつながり」	特別授業	吹田市立千里第三小学校・大阪府みどり企画課	12月7日,8日
	114	大阪の淡水魚と食文化	水について考える ～私たちの・僕たちの・みんなの水～	はびきの市民大学	12月19日
	115	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	社内研修	カネカ 大阪工場・大阪府みどり企画課	12月24日
	116	ヨシノボリの生活史と見分け方	淀川左岸幹線水路調査	水辺に親しむ会	1月17日
	117	よみがえれ、イタセンパラ！～多様な主体が連携した生物多様性保全の取り組み～	にじゅうまるCOP2分科会講演	国際自然保護連合日本委員会	2月21日
	118	よみがえれ、イタセンパラ！～多様な主体が連携した生物多様性保全の取り組み～	市民参加型プラットホームづくりに関するワークショップ	全国ブラックバス防除市民ネットワーク	2月27日
	119	生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」	研修会	近畿大学Feelink	3月2日

27 役員・委員等の派遣（実績報告書37ページ）

	依 頼 元	役 職 名	期 間
役員・経営企画室	1 大阪府環境審議会	大阪府環境審議会幹事	平成24年度～
	2 大阪府環境保全課	環境影響評価連絡会構成員	平成24年度～
	3 産学官連携推進協議会	産学官共同研究開発事業審査委員会委員	平成24年度～
	4 産学官連携推進協議会	産学官連携人材育成等事業審査委員会委員	平成24年度～
	5 近畿中国四国農業研究協議会	評議員	平成21年度～
	6 府商工労働部	大阪府中小企業新事業活動促進法承認等審査委員	平成24年度～
	7 府健康医療部	大阪府食の安全安心推進委員会幹事	平成24年度～
	8 大阪府地方農業協議会	大阪府地方農業気象協議会委員	平成24年度～
	9 大阪府地方農業協議会	大阪府地方農業気象協議会幹事	平成24年度～
	10 大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
	11 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会	委員	平成26年度～
	12 全国環境研協議会	会長	平成27年度
環境情報部	13 (株)エックス都市研究所	環境技術実証事業運営委員会委員	平成24年度～
	14 瀬戸内海水環境研究会	企画検討会委員	平成24年度～
	15 大阪府エコ店舗普及推進協議会	会計監査	平成24年度～
	16 大阪府省エネ外食店舗普及推進協議会	会計監査	平成24年度～
	17 茨木市環境政策課	茨木市地球温暖化対策推進委員会委員	平成23年度～
	18 (株)エックス都市研究所	環境技術実証事業湖沼等水質浄化技術分野検討員	平成24年度～
	19 日本水環境学会	関西支部幹事	平成26年度～
	20 大阪府魚腸骨処理対策協議会	検討会委員	平成18年度～
環境研究部	21 大阪府鶏卵品評会(大阪府総合畜産農業協同組合連合会)	審査員	平成元年度～
	22 泉南市役所	畜牛品評会審査委員長	平成20年度～
	23 大阪府堆肥共励会	審査委員長	平成24年度～
	24 大阪府鶏卵品評会	審査委員長	平成24年度～
	25 大阪府はちみつ品評会	審査委員長	平成24年度～
	26 大阪府林業経営協議会	委員	平成24年度～
	27 大阪府林業・木材産業構造改革専門部会	委員	平成24年度～
	28 近畿中国森林・林業交流研究発表会	審査員	平成24年度～
	29 (社)大阪府畜産会	非常勤畜産コンサルタント	平成24年度～
	30 大阪花き園芸連合会	大阪府花き園芸品評会審査員	平成18年度～
	31 神於山保全活動推進協議会	協議会会員	平成25年度～
	32 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会	委員	平成27年度～
	33 関西自然保護機構	編集委員	平成27年度～
	34 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会	委員	平成27年度～
食の安全研究部	35 大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
	36 大阪府エコ農業推進委員会	委員	平成21年度～
	37 大阪府果樹振興会	大阪府果樹品評会審査長	平成21年度～

食の安全研究部	38	大阪府花き園芸連合会	大阪府花き品評会審査委員長	平成22年度～
	39	大阪花き園芸連合会	大阪府花き園芸品評会審査員	平成18年度～
	40	大阪府養液栽培研究会	大阪府養液栽培品評会審査委員長	平成23年度～
	41	大阪府養液栽培研究会	大阪府養液栽培品評会審査委員	平成23年度～
	42	河内長野市	河内長野市産品ブランド化委員会認定部会委員	平成23年度～
	43	日本農業気象学会近畿支部	評議員	平成23年度～
	44	農業食料工学会	評議員	平成27年度～
	45	大阪府環境保全型農業直接支払交付金事業推進会議	委員	平成27年度～
	46	大阪府農業会議	大阪府経営構造対策推進委員会 委員	平成21年度～
	47	大阪府立園芸高校SSH運営指導委員会	委員	平成24年度～
	48	園芸学会近畿支部	評議員	平成19年度～
	49	農林水産省農林水産技術会議	(農・食事業)研究課題評価分科会委員	平成25年度～
	50	近畿土壌肥料研究協議会	理事	平成22年度～
	51	近畿土壌肥料研究協議会	幹事	平成22年度～
	52	日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会	幹事	平成17年度～
	53	関西病虫害研究会	評議員	平成18年度～
	54	関西病虫害研究会	編集委員幹事	平成18年度～
	55	農林害虫防除研究会	副会長	平成24年度～
56	大阪府農業協同組合中央会	JAグループ大阪「スーパーアグリアドバイザー認証試験」試験委員	平成20年度～	
57	日本食品保蔵科学会	評議員	平成21年度～	
58	大阪府能力開発協会	後期技能検定委員	平成18年度～	
水産研究部	59	日本水産学会	近畿支部幹事	平成11年度～
	60	大阪府資源管理協議会	副会長	平成23年度～
	61	大阪府豊かな海づくり協議会	副会長	平成25年度～
	62	(財)大阪府漁業振興基金	理事	平成25年度～
	63	大阪府環境保全課	大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会委員	平成23年度～
	64	国土交通省	大阪湾見守りネット運営委員	平成18年度～
	65	国土交通省	大阪湾環境再生連絡会委員	平成18年度～
	66	国土交通省	大阪湾窪地対策技術検討委員会委員	平成18年度～
	67	大阪府環境保全課	大阪府環境影響評価審査会委員	平成18年度～
	68	関西国際空港環境監視機構	委員	平成18年度～
	69	(社)関西経済同友会	関西サイエンスフォーラム専門部会委員	平成18年度～
	70	アナゴ漁業資源研究会	世話人	平成18年度～
	71	(財)みなと総合研究財団	海底地形修復技術に関する検討委員会委員	平成20年度～
	72	国土交通省淀川河川事務所	淀川イタセンパラ検討会委員	平成20年度～
	73	国土交通省淀川河川事務所	淀川環境委員会委員	平成21年度～
	74	環境省近畿地方環境事務所	淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会	平成25年度～
	75	環境省中部地方環境事務所	イタセンパラ生息域外保全検討会委員	平成21年度～
	76	関西自然保護機構	運営委員	平成24年度～